

修正内容一覧

物質ID	物質名	項目	現在の内容				修正案					
			分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報	分類結果	絵表示	注意喚起語	危険有害性情報		
35	水銀	呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:分類できない 皮膚感作性:区分1	感嘆符	警告	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性: EHC 118 (1991)、CICAD 50 (2003)のヒト健康影響の記述、及び日本職業・環境アレルギー学会特設委員会「皮膚感作性物質」、日本産業衛生学会(2005)「皮膚第1群」という既存分類により、区分1とした。	呼吸器感作性:分類できない 皮膚感作性:感嘆符	(呼吸器感作性)感嘆符	(呼吸器感作性)一(皮膚感作性)アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性: EHC 118 (1991)、CICAD 50 (2003)のヒト健康影響の記述、及び日本職業・環境アレルギー学会特設委員会「皮膚感作性物質」、日本産業衛生学会(2005)「皮膚第1群」という既存分類により、区分1とした。	
35	水銀	生殖毒性	区分1A	健康有害性	危険	生殖能または胎児への悪影響の疑い	CERIハザードデータ集2001-58①(2002)の記述から、ヒトの職業暴露に関する情報において、男性の原因による流産率の増加、女性に対照群と比べて月経障害、自然流産、死産、先天性奇形の多発が認められており、生殖能に対する悪影響や月経障害と、頭髮や陰毛の当該物質濃度も相関していることから、区分1Aとした。	区分1A	健康有害性	危険	生殖能または胎児への悪影響のおそれ	CERIハザードデータ集2001-58①(2002)の記述から、ヒトの職業暴露に関する情報において、男性の原因による流産率の増加、女性に対照群と比べて月経障害、自然流産、死産、先天性奇形の多発が認められており、生殖能に対する悪影響や月経障害と、頭髮や陰毛の当該物質濃度も相関していることから、区分1Aとした。
36	酢酸フェニル水銀	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2	—	—	—	ICSC(J)(2005)において「発赤、痛み、かすみ眼、重度の深部火傷がみられる」との報告が得られていることから、区分2とした。	区分2	感嘆符	警告	強い眼刺激	ICSC(J)(2005)において「発赤、痛み、かすみ眼、重度の深部火傷がみられる」との報告が得られていることから、区分2とした。
41	チオリン酸O,O-ジメチル-O-(3-メチルチオフェニル)	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1	健康有害性	危険	臓器の障害	ヒトで神経系への影響(コリンエステラーゼ阻害による影響、かすみ目、ふらつき、昏睡、刺激に対する反応なし、呼吸困難)が見られたこと(ACGIH (2001)、JMPPR (1980))に基づき区分1(神経系)に分類した。 なお、ラットの試験においてもコリン作動性の影響や振戦、痙攣、自発運動の低下、流涎等の神経系への影響(農薬抄録、JMPPR (1997))が見られている。	区分1(神経系)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障害	ヒトで神経系への影響(コリンエステラーゼ阻害による影響、かすみ目、ふらつき、昏睡、刺激に対する反応なし、呼吸困難)が見られたこと(ACGIH (2001)、JMPPR (1980))に基づき区分1(神経系)に分類した。 なお、ラットの試験においてもコリン作動性の影響や振戦、痙攣、自発運動の低下、流涎等の神経系への影響(農薬抄録、JMPPR (1997))が見られている。
48	酸化鉛(II);リサージ	生殖毒性	区分1A	健康有害性	危険	生殖能または胎児への悪影響の疑い	IARC 23 (1980)の記述から、鉛精錬の疫学調査において有意な流産増加がみられていることから区分1Aとした。(鉛精錬における暴露物質は鉛ヒュームとなり、これは一酸化鉛と考えられる)	区分1A	健康有害性	危険	生殖能または胎児への悪影響のおそれ	IARC 23 (1980)の記述から、鉛精錬の疫学調査において有意な流産増加がみられていることから区分1Aとした。(鉛精錬における暴露物質は鉛ヒュームとなり、これは一酸化鉛と考えられる)
58	o-フェニレンジアミン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(血液系)、区分2(呼吸器、神経系、腎臓、筋肉、肝臓)	健康有害性	危険	臓器(血液系)の障害 臓器(呼吸器、神経系、腎臓、筋肉、肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「本物質は眼を刺激し、皮膚、気道も軽く刺激する。血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」(環境省リスク評価第3巻 (2004))、「関心薄弱、横紋筋融解症、LDH - APAT -, Aldolase Glutamat Amino Transferase 上昇、急性腎不全、膝窩変色、中枢神経系、筋肉、肝臓に障害」、「尿管管変性、腎間質水腫、肝細胞壊死、気管支肺炎」、「聴覚失調、呼吸困難、腎障害」(IUCLID (2000))等の記述、実験動物については、「メトヘモグロビンの	区分1(血液系)、区分2(呼吸器、神経系、腎臓、筋肉、肝臓)	健康有害性	危険 警告	臓器(血液系)の障害 臓器(呼吸器、神経系、腎臓、筋肉、肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「本物質は眼を刺激し、皮膚、気道も軽く刺激する。血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」(環境省リスク評価第3巻 (2004))、「関心薄弱、横紋筋融解症、LDH - APAT -, Aldolase Glutamat Amino Transferase 上昇、急性腎不全、膝窩変色、中枢神経系、筋肉、肝臓に障害」、「尿管管変性、腎間質水腫、肝細胞壊死、気管支肺炎」、「聴覚失調、呼吸困難、腎障害」(IUCLID (2000))等の記述、実験動物については、「メトヘモグロビンの
63	フッ化水素(フッ化水素酸)	呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:分類できない 皮膚感作性:区分1	感嘆符	警告	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	呼吸器感作性:データ不足のため、分類できない。 皮膚感作性: CERIハザードデータ集 2001-46 (2002)のヒトへの健康影響の記述「職業的に暴露されたヒトにおいて、アレルギー性皮膚炎がみられている」から、皮膚感作性があると考えられ、区分1とした。	呼吸器感作性:分類できない 皮膚感作性:区分1	(呼吸器感作性)一(皮膚感作性)感嘆符	(呼吸器感作性)一(皮膚感作性)警告	呼吸器感作性:データ不足のため、分類できない。 皮膚感作性: CERIハザードデータ集 2001-46 (2002)のヒトへの健康影響の記述「職業的に暴露されたヒトにおいて、アレルギー性皮膚炎がみられている」から、皮膚感作性があると考えられ、区分1とした。	
82	アセトアルデヒド	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器、神経系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器、神経系)の損傷 眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「咳や、鼻、目に灼熱痛を引き起こす」、「アセトアルデヒドの偶発的な暴露により、頭痛、昏睡、目、皮膚、呼吸器、喉の刺激、気管支炎、肺水腫、運動麻痺、死亡がみられている。」(CERI-NITE有害性評価書 No.61 (2004))、「全身的には麻酔作用及び意識混濁、気管支炎、肺浮腫等を起こす」(環境省リスク評価 第1巻 (2002))等の記述から、呼吸器、神経系が標的臓器で、麻酔作用をもつと考えられた。 以上より、分類は区分1(呼吸器、神経系)、区分3(麻酔作用)とした。	区分1(呼吸器、神経系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(呼吸器、神経系)の障害 眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「咳や、鼻、喉、目に灼熱痛を引き起こす」、「アセトアルデヒドの偶発的な暴露により、頭痛、昏睡、目、皮膚、呼吸器、喉の刺激、気管支炎、肺水腫、運動麻痺、死亡がみられている。」(CERI-NITE有害性評価書 No.61 (2004))、「全身的には麻酔作用及び意識混濁、気管支炎、肺浮腫等を起こす」(環境省リスク評価 第1巻 (2002))等の記述から、呼吸器、神経系が標的臓器で、麻酔作用をもつと考えられた。 以上より、分類は区分1(呼吸器、神経系)、区分3(麻酔作用)とした。
82	アセトアルデヒド	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1(呼吸器、神経系)	健康有害性	危険	長期ないし反復暴露による臓器(呼吸器、神経系)の損傷	ヒトについては、「紅斑、咳、肺水腫、麻酔作用」(ACGIH (7th, 2001))、「頭痛、麻酔作用、麻痺、呼吸数の減少、呼吸器への刺激性、気管支炎、肺水腫」(CaPSAR (2000))等の記述より、呼吸器、神経系が標的臓器と考えられた。以上より、分類は区分1(呼吸器、神経系)とした。	区分1(呼吸器、神経系)	健康有害性	危険	長期ないし反復暴露による臓器(呼吸器、神経系)の障害	ヒトについては、「紅斑、咳、肺水腫、麻酔作用」(ACGIH (7th, 2001))、「頭痛、麻酔作用、麻痺、呼吸数の減少、呼吸器への刺激性、気管支炎、肺水腫」(CaPSAR (2000))等の記述より、呼吸器、神経系が標的臓器と考えられた。以上より、分類は区分1(呼吸器、神経系)とした。
93	エチレンイミン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経、腎臓、肝臓、肺) 区分3(気道刺激)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経、腎臓、肝臓、肺)の障害 呼吸器への刺激のおそれ	作業者における中枢神経系、腎臓、肝臓への重篤な影響が報告されている(ACGIH,2001)こと、また吸入暴露で肺水腫が報告されている(ACGIH(2001)、ICSCJ(2002))ことに基づきそれを区分1とした。「ヒトでは呼吸器系に刺激性を有する」(CERIハザードデータ集,2002)に基づき、気道刺激	区分1(中枢神経、腎臓、肝臓、肺) 区分3(気道刺激)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経、腎臓、肝臓、肺)の障害 呼吸器への刺激のおそれ	作業者における中枢神経系、腎臓、肝臓への重篤な影響が報告されている(ACGIH,2001)こと、また吸入暴露で肺水腫が報告されている(ACGIH(2001)、ICSCJ(2002))ことに基づきそれを区分1とした。「ヒトでは呼吸器系に刺激性を有する」(CERIハザードデータ集,2002)に基づき、気道刺激性について区分3
99	1,2-エポキシプロパン	呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:分類できない 皮膚感作性:区分1	感嘆符	警告	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性: ACGIH(2001)にて、皮膚感作性に分類されていることから、区分1とした。	呼吸器感作性:分類できない 皮膚感作性:区分1	(呼吸器感作性)一(皮膚感作性)感嘆符	(呼吸器感作性)一(皮膚感作性)警告	呼吸器感作性:データなし 皮膚感作性: ACGIH(2001)にて、皮膚感作性に分類されていることから、区分1とした。	

101	カドミウム	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	生殖能または胎児への悪影響のおそれ	親動物での一般毒性に関する記述がないが、同腹子数の減少、胎児の死亡、胎児の成長阻害および奇形がみられ、新生児の成長および運動能発達の阻害などがみられている(IARC 58 (1993)およびEHC 134 (1992))ことから、技術指針に従い区分2とした。なお、EU-Annex 1: Repr. Cat. 3: R62-63の既存分類がある。	区分2	健康有害性	警告	生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い	親動物での一般毒性に関する記述がないが、同腹子数の減少、胎児の死亡、胎児の成長阻害および奇形がみられ、新生児の成長および運動能発達の阻害などがみられている(IARC 58 (1993)およびEHC 134 (1992))ことから、技術指針に従い区分2とした。なお、EU-Annex 1: Repr. Cat. 3: R62-63の既存分類がある。
106	銀	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(眼)、区分1(呼吸器:吸入)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(呼吸器:吸入)の障害	粉体への職業暴露で皮膚、粘膜に色素が沈着する銀中毒(argyria)を生じるが(ACGIH (2001))、(PATTY (5th, 2001))、機能障害として現れるのは夜間視力の減少である(ATSDR ToxFaqs (1997))との記載により区分1(眼)とした。粉塵の長期間吸入による肺への沈着から気管支炎になった(PATTY (5th, 2001))、(HSDB (2003))との記載あり区分1(呼吸器:吸入)とした。	区分1(眼)、区分1(呼吸器:吸入)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(眼、呼吸器:吸入)の障害	粉体への職業暴露で皮膚、粘膜に色素が沈着する銀中毒(argyria)を生じるが(ACGIH (2001))、(PATTY (5th, 2001))、機能障害として現れるのは夜間視力の減少である(ATSDR ToxFaqs (1997))との記載により区分1(眼)とした。粉塵の長期間吸入による肺への沈着から気管支炎になった(PATTY (5th, 2001))、(HSDB (2003))との記載あり区分1(呼吸器:吸入)とした。
125	1,4-ジオキサン	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、肝臓、腎臓)、区分3(麻酔作用、気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系、肝臓、腎臓)の障害	ヒトについては、「本物質の吸入によりめまい、頭痛、吐き気、嘔吐、咽頭痛、腹痛、眠気、意識喪失の症状が起こる。高濃度の吸入又は飲み込みは中枢神経系、肝臓、腎臓、肺に影響を与える」(環境省リスク評価 第2巻 (2003))、「鼻、喉、肺の刺激性がみられる」(EU-RAR No.21 (2002))等の記述があり、実験動物については、「感情鈍麻、麻酔、よろめき歩行、眼瞼反射消失、気道粘膜の刺激がみられる」(EU-RAR No.21 (2002))等の記述がある	区分1(中枢神経系、肝臓、腎臓)、区分3(麻酔作用、気道刺激性)	健康有害性	危険 感嘆符	臓器(中枢神経系、肝臓、腎臓)の障害	ヒトについては、「本物質の吸入によりめまい、頭痛、吐き気、嘔吐、咽頭痛、腹痛、眠気、意識喪失の症状が起こる。高濃度の吸入又は飲み込みは中枢神経系、肝臓、腎臓、肺に影響を与える」(環境省リスク評価 第2巻 (2003))、「鼻、喉、肺の刺激性がみられる」(EU-RAR No.21 (2002))等の記述があり、実験動物については、「感情鈍麻、麻酔、よろめき歩行、眼瞼反射消失、気道粘膜の刺激がみられる」(EU-RAR No.21 (2002))等の記述がある
125	1,4-ジオキサン	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(腎臓、肝臓、中枢神経系)、区分2(呼吸器)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(腎臓、肝臓、中枢神経系)の障害	ヒトについては、「出血性腎炎、腎臓及び肝臓の壊死」(CERI・NITE有害性評価書 No.13 (2004))、「筋緊張亢進、神経症状、腎不全、重度の間質の出血を伴う腎臓皮質の壊死、重度の肝臓の小葉中心性壊死、脳に脱髄と神経線維の部分的欠損」(EU-RAR No.21 (2002))等の記述があり、実験動物については、「尿管上皮の変性及び再生、肝細胞の変性と壊死、肝細胞過形成、気道上皮の変性」(CERI・NITE有害性評価書 No.13 (2004))等の記述があることから、腎臓、肝臓、中枢神経系、呼吸器が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(腎臓、肝臓、中枢神経系、呼吸器)の障害のおそれ	区分1(腎臓、肝臓、中枢神経系)、区分2(呼吸器)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴露による臓器(腎臓、肝臓、中枢神経系)の障害	ヒトについては、「出血性腎炎、腎臓及び肝臓の壊死」(CERI・NITE有害性評価書 No.13 (2004))、「筋緊張亢進、神経症状、腎不全、重度の間質の出血を伴う腎臓皮質の壊死、重度の肝臓の小葉中心性壊死、脳に脱髄と神経線維の部分的欠損」(EU-RAR No.21 (2002))等の記述があり、実験動物については、「尿管上皮の変性及び再生、肝細胞の変性と壊死、肝細胞過形成、気道上皮の変性」(CERI・NITE有害性評価書 No.13 (2004))等の記述があることから、腎臓、肝臓、中枢神経系、呼吸器が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(腎臓、肝臓、中枢神経系、呼吸器)の障害のおそれ
150	ジエチル水銀	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	生殖能または胎児への悪影響のおそれ	母獣への影響は不明であるが、ラット胎児の死亡が報告されている(RTECS(2004), Priority 2)。また、その他に参考として、健康有害性の情報源ではないが、gangolli (2nd, 1999)には、ラット雌での発情期の延長と受胎率の低下、雄での精子数と運動性の低下が報告されている。	区分2	健康有害性	警告	生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い	母獣への影響は不明であるが、ラット胎児の死亡が報告されている(RTECS(2004), Priority 2)。また、その他に参考として、健康有害性の情報源ではないが、gangolli (2nd, 1999)には、ラット雌での発情期の延長と受胎率の低下、雄での精子数と運動性の低下が報告されている。
157	テトラメチルチウラムジスルフィド	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(甲状腺)、区分2(神経系、精巣)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(甲状腺)の障害	IARC 53 (1991)の職業暴露例に甲状腺障害が多いとの記述、ならびにEHC 78 (1988)、ACGIH (7th, 2001)、IARC 53 (1991)、IRIS (2006)のラットを用いた経口投与試験において神経系および甲状腺への影響が区分2のガイダンス値範囲で認められたとの記述、ならびにACGIH (7th, 2001)のラットを用いた経口投与試験において精巣への影響が区分2のガイダンス値範囲の投与量で認められたとの記述から、区分1(甲状腺)、区分2(神経系、精巣)とした。	区分1(甲状腺)、区分2(神経系、精巣)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴露による臓器(甲状腺)の障害	IARC 53 (1991)の職業暴露例に甲状腺障害が多いとの記述、ならびにEHC 78 (1988)、ACGIH (7th, 2001)、IARC 53 (1991)、IRIS (2006)のラットを用いた経口投与試験において神経系および甲状腺への影響が区分2のガイダンス値範囲で認められたとの記述、ならびにACGIH (7th, 2001)のラットを用いた経口投与試験において精巣への影響が区分2のガイダンス値範囲の投与量で認められたとの記述から、区分1(甲状腺)、区分2(神経系、精巣)とした。
159	1,1,1-トリクロロエタン	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、心臓) 区分3(麻酔作用、気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系、心臓)の障害	CERIハザードデータ集(1998)、EHC 136 (1992)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994)、IARC 71 (1999)、産衛学会勧告およびATSDR (2004)のヒト暴露例で中枢神経抑制作用がみられるとの記述、CERIハザードデータ集(1998)、PATTY (4th, 1994)およびATSDR (2004)のヒト暴露例でアドレナリン作用に対する心臓の感受性亢進による不整脈等がみられるとの記述から、標的臓器は中枢神経系及び心臓	区分1(中枢神経系、心臓) 区分3(麻酔作用、気道刺激性)	健康有害性	危険 感嘆符	臓器(中枢神経系、心臓)の障害	CERIハザードデータ集(1998)、EHC 136 (1992)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994)、IARC 71 (1999)、産衛学会勧告およびATSDR (2004)のヒト暴露例で中枢神経抑制作用がみられるとの記述、CERIハザードデータ集(1998)、PATTY (4th, 1994)およびATSDR (2004)のヒト暴露例でアドレナリン作用に対する心臓の感受性亢進による不整脈等がみられるとの記述から、標的臓器は中枢神経系及び心臓
159	1,1,1-トリクロロエタン	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(中枢神経系、肝臓、心臓) 区分2(肺)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(中枢神経系、肝臓、心臓)の障害	CERIハザードデータ集(1998)、EHC 136 (1992)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994)、IARC 71 (1999)、産衛学会勧告(1974)およびATSDR (2004)のヒト反復暴露で中枢神経症状がみられるとの記述、ATSDR (2004)のヒト反復暴露例で不整脈がみられたとの記述、ならびにEHC 136 (1992)、IARC 71 (1999)、ATSDR (2004)のヒト反復暴露例で肝障害がみられたとの記述から、標的臓器は中枢神経系、心臓および肝臓と考えられ、いずれも区分1とした。さらに、CERIハザードデータ集(1998)およびACGIH (7th, 2001)の中等度濃度吸入でモルモットに肺への影響がみられたとの記述から、区分2とした。	区分1(中枢神経系、肝臓、心臓) 区分2(肺)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴露による臓器(中枢神経系、肝臓、心臓)の障害	CERIハザードデータ集(1998)、EHC 136 (1992)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994)、IARC 71 (1999)、産衛学会勧告(1974)およびATSDR (2004)のヒト反復暴露で中枢神経症状がみられるとの記述、ATSDR (2004)のヒト反復暴露例で不整脈がみられたとの記述、ならびにEHC 136 (1992)、IARC 71 (1999)、ATSDR (2004)のヒト反復暴露例で肝障害がみられたとの記述から、標的臓器は中枢神経系、心臓および肝臓と考えられ、いずれも区分1とした。さらに、CERIハザードデータ集(1998)およびACGIH (7th, 2001)の中等度濃度吸入でモルモットに肺への影響がみられたとの記述から、区分2とした。
164	トリニトロトルエン	呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器:分類できない皮膚:区分1	感嘆符	警告	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	アレルギー性皮膚反応:データなし。皮膚:IARC(1996)のヒトでアレルギー性接触皮膚炎の報告があるとの記述から、区分1とした。	呼吸器:分類できない皮膚:区分1	(呼吸器感作性) (皮膚感作性)感嘆符	(呼吸器感作性) (皮膚感作性)警告	(呼吸器感作性) (皮膚感作性)アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	アレルギー性皮膚反応:データなし。皮膚:IARC(1996)のヒトでアレルギー性接触皮膚炎の報告があるとの記述から、区分1とした。

221	4-[(4-アミノフェニル)(4-イミノ-2,5-シクロヘキサジエン-1-イルイデン)メチル]-2-メチルベンゼン	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	分類できなし	—	—	—	データなし	分類できなし	—	—	—	データなし
234	1,1,2,2-テトラクロロエタン	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(肝臓)、区分3(麻酔作用、気道刺激)	健康有害性	危険	臓器(肝臓)の障害 呼吸器への刺激のおそれ、眠気	マウス経口での肝臓への影響(ACGIH(2001))に基づき区分1(肝臓)とした。また、ヒトと動物での麻酔作用(ACGIH(2001)、PATTY(5th, 2001))とヒトでの粘膜刺激性(ACGIH(2001))に基づき区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。	区分1(肝臓)、区分3(麻酔作用、気道刺激)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(肝臓)の障害 呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ	マウス経口での肝臓への影響(ACGIH(2001))に基づき区分1(肝臓)とした。また、ヒトと動物での麻酔作用(ACGIH(2001)、PATTY(5th, 2001))とヒトでの粘膜刺激性(ACGIH(2001))に基づき区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。
236	テルル	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分2(末梢神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	警告	臓器(末梢神経系)の障害のおそれ(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	PATTY(4th, 1994)の幼若ラットを用いた混餌経口投与試験で末梢神経系への影響が区分2のガイダンス値範囲の暴露で認められたとの記述から、区分2(末梢神経系)とした。また、ICSC(J)(2000)、HSDB(2005)、HSFS(1999)およびSITTIG(4th, 2002)の気道を刺激するとの記述から、区分3(気道刺激性)とした。	区分2(末梢神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(末梢神経系)の障害のおそれ(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	PATTY(4th, 1994)の幼若ラットを用いた混餌経口投与試験で末梢神経系への影響が区分2のガイダンス値範囲の暴露で認められたとの記述から、区分2(末梢神経系)とした。また、ICSC(J)(2000)、HSDB(2005)、HSFS(1999)およびSITTIG(4th, 2002)の気道を刺激するとの記述から、区分3(気道刺激性)とした。
260	重クロム酸ナトリウム	呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器感受性:区分1、皮膚感受性:区分1	健康有害性	危険	吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ	呼吸器感受性:ヒトでぜん息が見られる(EHC 61(1988))、EU-RAR(2005))ことに基づき、区分1とした。 皮膚感受性:モルモットで皮膚感受性を示し(EU-RAR(2005)、DFGOT(1996))、ヒトでも皮膚感受性が見られる(EHC 61(1988))ことに基づき、区分1とした。	呼吸器感受性:区分1、皮膚感受性:区分1	(呼吸器感受性)健康有害性感嘆符	(呼吸器感受性)危険(皮膚感受性)警告	(呼吸器感受性)吸入するとアレルギー、喘息または呼吸困難を起こすおそれ (皮膚感受性)アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ	呼吸器感受性:ヒトでぜん息が見られる(EHC 61(1988))、EU-RAR(2005))ことに基づき、区分1とした。 皮膚感受性:モルモットで皮膚感受性を示し(EU-RAR(2005)、DFGOT(1996))、ヒトでも皮膚感受性が見られる(EHC 61(1988))ことに基づき、区分1とした。
260	重クロム酸ナトリウム	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(肝臓、腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(肝臓、腎臓)の障害 呼吸器への刺激のおそれ	ヒトで肝臓、腎臓、造血器に影響が見られ(EU-RAR(2005))、気道刺激性がみられた(EU-RAR(2005))との報告に基づき、区分1(肝臓、腎臓、造血器)、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(肝臓、腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(肝臓、腎臓)の障害 呼吸器への刺激のおそれ	ヒトで肝臓、腎臓、造血器に影響が見られ(EU-RAR(2005))、気道刺激性がみられた(EU-RAR(2005))との報告に基づき、区分1(肝臓、腎臓、造血器)、区分3(気道刺激性)とした。
275	ジチオリン酸O-エチル-S,S-ジフェニル	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分2(神経系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	警告	臓器(神経系)の障害のおそれ(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	実験動物については、「嗜眠、痙攣」(RTECS(1998))等の記述があることから、神経系に影響があり、麻酔作用を有すると考えられた。なお、実験動物に対する影響は、ガイダンス値から判断すると区分1相当であるが、Priority 2のデータであり、「GHSによる健康有害性分類にかかる技術上の指針」の判断基準1b③を満たさないため、区分2とした。	区分2(神経系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(神経系)の障害のおそれ(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	実験動物については、「嗜眠、痙攣」(RTECS(1998))等の記述があることから、神経系に影響があり、麻酔作用を有すると考えられた。なお、実験動物に対する影響は、ガイダンス値から判断すると区分1相当であるが、Priority 2のデータであり、「GHSによる健康有害性分類にかかる技術上の指針」の判断基準1b③を満たさないため、区分2とした。 以上より、分類は区分2(神経系)、区分3(麻酔作用)とした。
275	ジチオリン酸O-エチル-S,S-ジフェニル	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓、腎臓、副腎)、区分2(血液系)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓、副腎)の障害 長期または反復暴露による臓器(血液系)の障害のおそれ	実験動物については、「肝細胞の肥大、リン脂質の沈着が観察された。更に、副腎肥大・色素沈着もみられた。」「RBC値・ヘモグロビン・ヘマトクリット値の減少、SGOT・SGTP・SAPの減少、肝細胞の肥大・脂肪変性、腎炎、腎臓・副腎の肥大がみられている。」「(JMPR(1976))等の記述があることから、肝臓、腎臓、副腎、血液系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、肝臓、腎臓、副腎については区分1、血液系については区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は	区分1(肝臓、腎臓、副腎)、区分2(血液系)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓、副腎)の障害 長期または反復暴露による臓器(血液系)の障害のおそれ	実験動物については、「肝細胞の肥大、リン脂質の沈着が観察された。更に、副腎肥大・色素沈着もみられた。」「RBC値・ヘモグロビン・ヘマトクリット値の減少、SGOT・SGTP・SAPの減少、肝細胞の肥大・脂肪変性、腎炎、腎臓・副腎の肥大がみられている。」「(JMPR(1976))等の記述があることから、肝臓、腎臓、副腎、血液系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、肝臓、腎臓、副腎については区分1、血液系については区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(肝臓、腎臓、副腎)、区分2(血液系)と
277	ジチオリン酸O,O-ジエチル-S-[6-クロロ-2,3-ジヒドロ-2-オキソペンゾキサゾリニル)メチル]	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系)、区分2(肝臓)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系)の障害 臓器(肝臓)の障害のおそれ	実験動物については、「他の有機リン剤と同様、振戦、流涎そして最終的には痙攣を起こし死に至る」(JMPR(1972))、「肝臓への障害は器質的なものにとどまらず、機能面にも及んだ。見られた症状は、抑制、協調運動不備、流涎、筋肉運動障害、振戦、気管支痙攣、不全麻痺、完全麻痺、昏睡等であった」(HSDB(2003))の記述があることから、中枢神経系、肝臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1及び区分2に相当するガイダンス値の範囲で見られた。	区分1(中枢神経系)、区分2(肝臓)	健康有害性	危険警告	臓器(中枢神経系)の障害 臓器(肝臓)の障害のおそれ	実験動物については、「他の有機リン剤と同様、振戦、流涎そして最終的には痙攣を起こし死に至る」(JMPR(1972))、「肝臓への障害は器質的なものにとどまらず、機能面にも及んだ。見られた症状は、抑制、協調運動不備、流涎、筋肉運動障害、振戦、気管支痙攣、不全麻痺、完全麻痺、昏睡等であった」(HSDB(2003))の記述があることから、中枢神経系、肝臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1及び区分2に相当するガイダンス値の範囲で見られた。 以上より、分類は区分1(中枢神経系)。
299	硫酸銅(II)・無水物	皮膚腐食性／刺激性	区分1	—	—	—	ICSC(J) 2001にて、「眼、皮膚を著しく刺激する。エアロゾルは気道を刺激する。経口摂取すると、腐食性を示す。(ICSC(J) 2001)」とあることから、腐食性ありとした。	区分1	腐食性	危険	重篤な皮膚の薬傷、眼の損傷	ICSC(J) 2001にて、「眼、皮膚を著しく刺激する。エアロゾルは気道を刺激する。経口摂取すると、腐食性を示す。(ICSC(J) 2001)」とあることから、腐食性ありとした。
299	硫酸銅(II)・無水物	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(血液系、肝臓、神経系、腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(血液系、肝臓、神経系、腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについては、「メトヘモグロビン血症を起こし、死亡している。重症な場合、肝臓障害を起こし、小葉中心性壊死や胆汁うっ滞を起こす。死亡例で腎臓の糸球体のうっ血、尿細管細胞の剥離、ヘモグロビン円柱がみられている。」「吐血、嘔吐、上腹部痛、下痢、低血圧、吐血または下血、黄疽、せん妄、昏睡、脈管内の溶血、乏尿、無尿がみられている」(CERILハザードデータ集 2001-59(2002))等の記述があり、ICSC(J)(2001)に「眼、皮膚を著しく刺激する。エアロゾルは気道を刺激する」との記述があることから、	区分1(血液系、肝臓、神経系、腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(血液系、肝臓、神経系、腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについては、「メトヘモグロビン血症を起こし、死亡している。重症な場合、肝臓障害を起こし、小葉中心性壊死や胆汁うっ滞を起こす。死亡例で腎臓の糸球体のうっ血、尿細管細胞の剥離、ヘモグロビン円柱がみられている。」「吐血、嘔吐、上腹部痛、下痢、低血圧、吐血または下血、黄疽、せん妄、昏睡、脈管内の溶血、乏尿、無尿がみられている」(CERILハザードデータ集 2001-59(2002))等の記述があり、ICSC(J)(2001)に「眼、皮膚を著しく刺激する。エアロゾルは気道を刺激する」との記述があることから、
299	硫酸銅(II)・無水物	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分2(血液系、呼吸器)	健康有害性	警告	長期または反復暴露による臓器(血液系、呼吸器)の障害のおそれ	ヒトについては、「溶血性貧血が見られた」、「病理上の変化としては肺の炎症、肉芽形成、フィロヘアリン小結節、マクロファージの脱落、進行性のびまん性線維化があげられる」(ATSDR(2004))等の記述があり、またICSC(J)(2001)に、「反復または長期のエアロゾルへの暴露により、肺が冒されることがある」との記載があることから、血液系、呼吸器が標的臓器と考えられた。 以上より、分類は区分1(血液系、呼吸器)とした。	区分1(血液系、呼吸器)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(血液系、呼吸器)の障害	ヒトについては、「溶血性貧血が見られた」、「病理上の変化としては肺の炎症、肉芽形成、フィロヘアリン小結節、マクロファージの脱落、進行性のびまん性線維化があげられる」(ATSDR(2004))等の記述があり、またICSC(J)(2001)に、「反復または長期のエアロゾルへの暴露により、肺が冒されることがある」との記載があることから、血液系、呼吸器が標的臓器と考えられた。 以上より、分類は区分1(血液系、呼吸器)とした。

300	硫酸銅(II)・五水和物	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(血液系、腎臓、呼吸器)、区分2(肝臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(血液系、腎臓、呼吸器)の障害 長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「溶血性貧血が見られた」、「病理上の変化としては肺の炎症、肉芽形成、フィブロヒアリン小結節、マクロファージの脱落、進行性のび慢性線維化があげられる」(ATSDR (2004))等の記述、実験動物については、「近位尿管上皮細胞に蛋白滴が見られた」、「腎臓では細胞質内蛋白滴が明らかで、また小球形貧血に示唆される血液学的変化が観察された」(EHC 200 (1998))、「肝障害の初期反応として、血清生化学的酵素、特にアラントランスアミナーゼの上昇が見られた」(ATSDR (2004))等の記述がある。またICSC (J) (2001)には「反復または長期のエアロゾルへの暴露により、肺が冒されることがある」との記載があることから、血液系、腎臓、肝臓、呼吸器が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、腎臓が区分1に、肝臓が区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(血液系、腎臓、呼吸器)、区分2(肝臓)とした。	区分1(血液系、腎臓、呼吸器)、区分2(肝臓)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(血液系、腎臓、呼吸器)の障害 長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「溶血性貧血が見られた」、「病理上の変化としては肺の炎症、肉芽形成、フィブロヒアリン小結節、マクロファージの脱落、進行性のび慢性線維化があげられる」(ATSDR (2004))等の記述、実験動物については、「近位尿管上皮細胞に蛋白滴が見られた」、「腎臓では細胞質内蛋白滴が明らかで、また小球形貧血に示唆される血液学的変化が観察された」(EHC 200 (1998))、「肝障害の初期反応として、血清生化学的酵素、特にアラントランスアミナーゼの上昇が見られた」(ATSDR (2004))等の記述がある。またICSC (J) (2001)には「反復または長期のエアロゾルへの暴露により、肺が冒されることがある」との記載があることから、血液系、腎臓、肝臓、呼吸器が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、腎臓が区分1に、肝臓が区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(血液系、腎臓、呼吸器)、区分2(肝臓)とした。
308	硝酸バリウム	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分2(心血管系、筋肉)、区分2(神経系、腎臓)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)	健康有害性	警告	臓器(神経系、腎臓)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「ヒトではバリウム化合物の摂取(事故もしくは故意)は胃腸炎(嘔吐、下痢、腹痛)、低カリウム血症、不整脈および骨格筋麻痺を引き起こす」(CICAD 33 (2001))、「眼、皮膚、気道を刺激する。低カリウム血を起こすことがある。心臓障害、筋障害を生じることがある。死に至ることがある」(ICSC (J) (2004))、「ヒトでの事例で以下の症状が観察された: 暈縮性腓腹筋痛、対光覚過敏、対光反応低下、足指反射消失、全身におよぶ間歇的筋収縮; 洞調律は心室性期外収縮によりさげられた、タンパク尿、尿中の赤血球・白血球の増加」(IUCLID (2000))、「感覚異常、脱力」(RTECS (2006))、等の記述、実験動物については、「痙攣をともなう後肢不全麻痺が見られた」(IUCLID (2000))、「傾眠、テタニー」(RTECS (2006))等の記述があることから、呼吸器刺激性および麻酔作用を有し、心血管系、中枢神経系、筋肉、腎臓を標的臓器とすると考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。また「疫学・職業曝露(ヒトへの影響)」の調査に用いた一部評価書がヒトでのデータの一部はPriority2に属することから、分類は区分1(心血管系、筋肉)、区分2(神経系、腎臓)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。	区分1(心血管系、筋肉)、区分2(神経系、腎臓)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(心血管系、筋肉)の障害 臓器(神経系、腎臓)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「ヒトではバリウム化合物の摂取(事故もしくは故意)は胃腸炎(嘔吐、下痢、腹痛)、低カリウム血症、不整脈および骨格筋麻痺を引き起こす」(CICAD 33 (2001))、「眼、皮膚、気道を刺激する。低カリウム血を起こすことがある。心臓障害、筋障害を生じることがある。死に至ることがある」(ICSC (J) (2004))、「ヒトでの事例で以下の症状が観察された: 暈縮性腓腹筋痛、対光覚過敏、対光反応低下、足指反射消失、全身におよぶ間歇的筋収縮; 洞調律は心室性期外収縮によりさげられた、タンパク尿、尿中の赤血球・白血球の増加」(IUCLID (2000))、「感覚異常、脱力」(RTECS (2006))、等の記述、実験動物については、「痙攣をともなう後肢不全麻痺が見られた」(IUCLID (2000))、「傾眠、テタニー」(RTECS (2006))等の記述があることから、呼吸器刺激性および麻酔作用を有し、心血管系、中枢神経系、筋肉、腎臓を標的臓器とすると考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。またヒトでのデータの一部はPriority2に属することから、分類は区分1(心血管系、筋肉)、区分2(神経系、腎臓)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。
309	塩化バリウム・二水和物	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(心血管系、筋肉)、区分2(神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(心血管系、筋肉)の障害 臓器(神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについては、「ヒトではバリウム化合物の摂取(事故もしくは故意)は胃腸炎(嘔吐、下痢、腹痛)、低カリウム血症、不整脈および骨格筋麻痺を引き起こす」(CICAD 33 (2001))の記述、さらにICSC (J) (1999)に「眼、皮膚、気道を刺激する。神経系に影響を与えることがある。低カリウム血症を起こすことがある。心臓障害、筋障害を生じることがある。死に至ることがある」との記載があることから、気道刺激性を有しかつ神経系、心血管系、筋肉を標的臓器とすると考えられた。	区分1(心血管系、筋肉)、区分2(神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(心血管系、筋肉)の障害 臓器(神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについては、「ヒトではバリウム化合物の摂取(事故もしくは故意)は胃腸炎(嘔吐、下痢、腹痛)、低カリウム血症、不整脈および骨格筋麻痺を引き起こす」(CICAD 33 (2001))の記述、さらにICSC (J) (1999)に「眼、皮膚、気道を刺激する。神経系に影響を与えることがある。低カリウム血症を起こすことがある。心臓障害、筋障害を生じることがある。死に至ることがある」との記載があることから、気道刺激性を有しかつ神経系、心血管系、筋肉を標的臓器とすると考えられた。
310	塩化バリウム	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(心血管系、筋肉)、区分2(神経系)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(心血管系、筋肉)の障害 臓器(神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「患者は嘔吐し、心電図で二段脈を示した」、「これらの症状の後直ちに低カリウム血症、進行性麻痺、高血圧が見られた」、「摂取12時間後、心室性異所性収縮、QRS間隔拡張及び顕著なST部分上昇が見られた。塩化カリウム輸液を行ったものの、2時間後に心停止した」、「2例とも心機能不全が観察され、患者のうち1人は心停止した」(EHC 107 (1990))、「眼、皮膚、気道を刺激する。神経系に影響を与えることがある。低カリウム血症を起こし、心臓障害、筋障害を生じることがある。死に至ることがある」(IC	区分1(心血管系、筋肉)、区分2(神経系)、区分3(気道刺激性、麻酔作用)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(心血管系、筋肉)の障害 臓器(神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「患者は嘔吐し、心電図で二段脈を示した」、「これらの症状の後直ちに低カリウム血症、進行性麻痺、高血圧が見られた」、「摂取12時間後、心室性異所性収縮、QRS間隔拡張及び顕著なST部分上昇が見られた。塩化カリウム輸液を行ったものの、2時間後に心停止した」、「2例とも心機能不全が観察され、患者のうち1人は心停止した」(EHC 107 (1990))、「眼、皮膚、気道を刺激する。神経系に影響を与えることがある。低カリウム血症を起こし、心臓障害、筋障害を生じることがある。死に至ることがある」(IC
311	水酸化バリウム	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分2(神経系、筋肉)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	警告	臓器(神経系、筋肉)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	人については、「水酸化バリウムおよび酸化バリウムは目、皮膚及び気道に刺激性を示す」(CICAD 33 (2001))の記述、実験動物については、「実験動物は弛緩し、続いて嘔吐、下痢、射精などに見られる平滑筋の暈縮を示した。一部のラットでは後肢麻痺や痙攣が観察された」(IUCLID (2000))の記述があることから、気道刺激性を有し、神経系及び筋肉が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。	区分2(神経系、筋肉)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(神経系、筋肉)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	人については、「水酸化バリウムおよび酸化バリウムは目、皮膚及び気道に刺激性を示す」(CICAD 33 (2001))の記述、実験動物については、「実験動物は弛緩し、続いて嘔吐、下痢、射精などに見られる平滑筋の暈縮を示した。一部のラットでは後肢麻痺や痙攣が観察された」(IUCLID (2000))の記述があることから、気道刺激性を有し、神経系及び筋肉が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分2(神経系、筋肉)、区分3(気道刺激性)とした。
318	メチルイソチオシアネート	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	警告	臓器(中枢神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについては、「痙攣もしくは発作閾値への影響、自発運動の変化、昏睡」(RTECS 2006)、「240人の目のどの刺激、眩暈、喘ぎ呼吸の症状が見られた」(HSDB (2003))等の記述があることから、気道刺激性を有し、中枢神経系が標的臓器と考えられた。引用したデータベースがPriority 2に属することから、分類は、区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(中枢神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについては、「痙攣もしくは発作閾値への影響、自発運動の変化、昏睡」(RTECS 2006)、「240人の目のどの刺激、眩暈、喘ぎ呼吸の症状が見られた」(HSDB (2003))等の記述があることから、気道刺激性を有し、中枢神経系が標的臓器と考えられた。引用したデータベースがPriority 2に属することから、分類は、区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。

319	N-メチルカルバミン酸2-イソプロピルフェニル	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(神経系)、区分2(呼吸器)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障害 臓器(呼吸器)の障害のおそれ	ラットでの試験において、区分1に相当する用量において自発運動量の低下、うずくまり、横臥位、歩行失調、振せんが見られたとの報告があり、神経系が標的と考えられた。また、区分2に相当する用量において、肺の散在性白斑との報告もあり(農薬登録申請資料(1995))、呼吸器も標的臓器と考えられた。以上の結果より、区分1(神経系)と区分2(呼吸器)が標的と考えられた。	区分1(神経系)、区分2(呼吸器)	健康有害性	危険警告	臓器(神経系)の障害 臓器(呼吸器)の障害のおそれ	ラットでの試験において、区分1に相当する用量において自発運動量の低下、うずくまり、横臥位、歩行失調、振せんが見られたとの報告があり、神経系が標的と考えられた。また、区分2に相当する用量において、肺の散在性白斑との報告もあり(農薬登録申請資料(1995))、呼吸器も標的臓器と考えられた。以上の結果より、区分1(神経系)、区分2(呼吸器)とした。
319	N-メチルカルバミン酸2-イソプロピルフェニル	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(血液系、肝臓)、区分2(腎臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(血液系、肝臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害のおそれ	動物実験において、白血球増多症、貧血、肝及び腎での臓器重量、肝グリソリン氏鞘の小円形細胞浸潤、腎間質細胞浸潤との報告がある(農薬登録申請資料(1995))ことから、血液系、肝臓、腎臓が標的と考えられた。血液系と肝臓への影響は区分1、腎臓への影響は区分2に相当するガイダンス値の用量でみられたことから、区分1(血液系、肝臓)、区分2(腎臓)が標的と考えられた。	区分1(血液系、肝臓)、区分2(腎臓)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(血液系、肝臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害のおそれ	動物実験において、白血球増多症、貧血、肝及び腎での臓器重量、肝グリソリン氏鞘の小円形細胞浸潤、腎間質細胞浸潤との報告がある(農薬登録申請資料(1995))ことから、血液系、肝臓、腎臓が標的と考えられた。血液系と肝臓への影響は区分1、腎臓への影響は区分2に相当するガイダンス値の用量でみられたことから、区分1(血液系、肝臓)、区分2(腎臓)とした。
321	2-(1-メチルプロピル)-4,6-ジニトロフェノール	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(神経系、腎臓)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「大脳や下位の脳中枢に直接作用して刺激し、さらに抑制する。腎臓では尿細管に壊死性の障害を起こす」(CERハザードデータ集 2001-15 (2002))の記述、実験動物については、「傾眠、痙攣」(RTECS (2006))の記述があることから、麻酔作用を有し、神経系、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用)とした。	区分1(神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(神経系、腎臓)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「大脳や下位の脳中枢に直接作用して刺激し、さらに抑制する。腎臓では尿細管に壊死性の障害を起こす」(CERハザードデータ集 2001-15 (2002))の記述、実験動物については、「傾眠、痙攣」(RTECS (2006))の記述があることから、麻酔作用を有し、神経系、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用)とした。
321	2-(1-メチルプロピル)-4,6-ジニトロフェノール	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓、腎臓、神経系、精巣、子宮)、区分2(血液系、視覚器)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓、神経系、精巣、子宮)の障害 長期または反復暴露による臓器(血液系、視覚器)の障害のおそれ	ヒトについては、「肝臓、腎臓、神経系に毒性を有し、肝臓実質及び腎尿管管に退行性変化をきたす」(CERハザードデータ集 20001-5 (2002))等の記述、また、ICSC (J)には「この物質は腎臓、肝臓、血液、免疫系、眼に影響を与え、白内障を生じることがある。人で生殖毒性を引き起こすことがある」(1994)との記述がある。実験動物については、「精子、精子細胞の異常と精子形成細胞の多核化をともなう精巣の組織変化が見られた」、「精巣の精細管萎縮が見られた」(HSDB (2003))、「嚢胞性子宮内膜過形成と精巣萎縮」(IRIS (1987))等の記述があることから、肝臓、腎臓、神経系、血液系、視覚器、精巣、子宮が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。またICSC (J)のPriorityが2であることから、血液系、視覚器の分類は区分2とした。以上より、分類は区分1(肝臓、腎臓、神経系、精巣、子宮)、区分2(血液系、視覚器)とした。	区分1(肝臓、腎臓、神経系、精巣、子宮)、区分2(血液系、視覚器)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓、神経系、精巣、子宮)の障害 長期または反復暴露による臓器(血液系、視覚器)の障害のおそれ	ヒトについては、「肝臓、腎臓、神経系に毒性を有し、肝臓実質及び腎尿管管に退行性変化をきたす」(CERハザードデータ集 20001-5 (2002))等の記述、また、ICSC (J)には「この物質は腎臓、肝臓、血液、免疫系、眼に影響を与え、白内障を生じることがある。人で生殖毒性を引き起こすことがある」(1994)との記述がある。実験動物については、「精子、精子細胞の異常と精子形成細胞の多核化をともなう精巣の組織変化が見られた」、「精巣の精細管萎縮が見られた」(HSDB (2003))、「嚢胞性子宮内膜過形成と精巣萎縮」(IRIS (1987))等の記述があることから、肝臓、腎臓、神経系、血液系、視覚器、精巣、子宮が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。またICSC (J)のPriorityが2であることから、血液系、視覚器の分類は区分2とした。以上より、分類は区分1(肝臓、腎臓、神経系、精巣、子宮)、区分2(血液系、視覚器)とした。
326	5-クロロ-N-[2-[4-(2-エトキシエチル)-2,3-ジメチルフェノキシ]エチル]-6-エチルピリミジン-4-アミン	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓)、区分2(血液系)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(血液系)の障害のおそれ	動物試験において、「肝臓の重量増加」、「肝細胞腫大」、「貧血」が見られた(農薬登録申請資料(1993))ことから、肝臓と血液系が標的と考えられた。肝臓への影響は区分1、血液系への影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられたことから、区分1(肝臓)、区分2(血液系)とした。	区分1(肝臓)、区分2(血液系)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(血液系)の障害のおそれ	動物試験において、「肝臓の重量増加」、「肝細胞腫大」、「貧血」が見られた(農薬登録申請資料(1993))ことから、肝臓と血液系が標的と考えられた。肝臓への影響は区分1、血液系への影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられたことから、区分1(肝臓)、区分2(血液系)とした。
327	硝酸タリウム	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(神経系、呼吸器、心血管系)、区分2(腎臓、肝臓)	健康有害性	危険	臓器(神経系、呼吸器、心血管系)の障害 臓器(腎臓、肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「肺はび漫性の肺胞傷害を示した。心筋への激しい傷害が見られた。脳神経及び末梢神経のニューロパチーも観察された」(ATSDR (1992))、「腎臓および肝臓の一過性の病変とポリニューロパチーに移行する一過性の視神経のニューロパチーがみられた」(HSDB (2005))等の記述があることから、神経系、呼吸器、心血管系、腎臓、肝臓が標的臓器と考えられた。腎臓、肝臓への影響はPriority 2に属する評価書からの引用であるため区分2に分類する。	区分1(神経系、呼吸器、心血管系)、区分2(腎臓、肝臓)	健康有害性	危険警告	臓器(神経系、呼吸器、心血管系)の障害 臓器(腎臓、肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「肺はび漫性の肺胞傷害を示した。心筋への激しい傷害が見られた。脳神経及び末梢神経のニューロパチーも観察された」(ATSDR (1992))、「腎臓および肝臓の一過性の病変とポリニューロパチーに移行する一過性の視神経のニューロパチーがみられた」(HSDB (2005))等の記述があることから、神経系、呼吸器、心血管系、腎臓、肝臓が標的臓器と考えられた。腎臓、肝臓への影響はPriority 2に属する評価書からの引用であるため区分2に分類する。以上より、分類は区分1(神経系、呼吸器、心

327	硝酸タリウム	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(神経系、皮膚、精巣)、区分2(心臓血管系)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(神経系、皮膚、精巣)の障害 長期または反復暴露による臓器(心臓血管系)の障害のおそれ	ヒトについては、「吸入暴露されたタリウムは神経に影響を及ぼす」(ATSDR 1992)、「主訴は、腹痛、疲労感、刺激性、体重減、足の痛みであった。脱毛が4人に見られた」(ACGIH 2001)、「興奮と不眠が最初の症状であった」(PATTY (5th 2001))、「感覚異常や筋肉および関節痛等の多発性神経炎、頭痛、不眠、疲労感等の神経症状」(EHC 182 (1996))等の記述があり、さらにIPCS(J)には「心臓血管系、神経系に影響を与えることがある。」(2002)に記述がある。実験動物では、「混乱状態、攻撃性、下痢、脱毛を起こした」、「細管上皮細胞の不整、細胞質内空胞化、セロトリ細胞小胞体膨満等の精巣への影響」(EHC 182 (1996))等の記述があることから、神経系、皮膚、精巣、心臓血管系が標的臓器と考えられた。また心臓血管系への影響はPriority 2に属する評価書からの引用であるため区分2に分類する。以上より、分類は区分1(神経系、皮膚、精巣)、区分2(心臓血管系)とした。	区分1(神経系、皮膚、精巣)、区分2(心臓血管系)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(神経系、皮膚、精巣)の障害 長期または反復暴露による臓器(心臓血管系)の障害のおそれ	ヒトについては、「吸入暴露されたタリウムは神経に影響を及ぼす」(ATSDR 1992)、「主訴は、腹痛、疲労感、刺激性、体重減、足の痛みであった。脱毛が4人に見られた」(ACGIH 2001)、「興奮と不眠が最初の症状であった」(PATTY (5th 2001))、「感覚異常や筋肉および関節痛等の多発性神経炎、頭痛、不眠、疲労感等の神経症状」(EHC 182 (1996))等の記述があり、さらにIPCS(J)には「心臓血管系、神経系に影響を与えることがある。」(2002)に記述がある。実験動物では、「混乱状態、攻撃性、下痢、脱毛を起こした」、「細管上皮細胞の不整、細胞質内空胞化、セロトリ細胞小胞体膨満等の精巣への影響」(EHC 182 (1996))等の記述があることから、神経系、皮膚、精巣、心臓血管系が標的臓器と考えられた。また心臓血管系への影響はPriority 2に属する評価書からの引用であるため区分2に分類する。以上より、分類は区分1(神経系、皮膚、精巣)、区分2(心臓血管系)とした。
336	5-アミノ-1-[2,6-ジクロロ-4-(トリフルオロメチル)フェニル]-3-シアノ-4-[[トリフルオロメチル)スルフィニル]ピラゾール	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(神経系)、区分2(甲状腺、肝臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(甲状腺、肝臓)の障害のおそれ	ラットで試験において、肝臓および甲状腺の絶対/相対重量増加、甲状腺濾胞上皮細胞肥大の増加/過形成の増加傾向、雄で肝全葉脂肪化増加が報告されている。また、イヌでの試験においては、活動性低下、振戦、痙攣、筋縮等が報告されている(農業登録申請資料(1995))ことから、甲状腺、肝臓、神経系が標的と考えられた。神経系への影響は区分1、肝臓と甲状腺への影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられたことから、区分1(神経	区分1(神経系)、区分2(甲状腺、肝臓)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(甲状腺、肝臓)の障害のおそれ	ラットで試験において、肝臓および甲状腺の絶対/相対重量増加、甲状腺濾胞上皮細胞肥大の増加/過形成の増加傾向、雄で肝全葉脂肪化増加が報告されている。また、イヌでの試験においては、活動性低下、振戦、痙攣、筋縮等が報告されている(農業登録申請資料(1995))ことから、甲状腺、肝臓、神経系が標的と考えられた。神経系への影響は区分1、肝臓と甲状腺への影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられたことから、区分1(神経系)、区分2(甲状腺、肝臓)と
391	サリチルアルデヒド	水生環境有害性(慢性)	区分外	環境	—	—	急速分解性があり(分解生成物であるサリチル酸のBODIによる分解度:88.1%(既存化学物質安全性点検データ)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.81 (PHYSPROP Database, 2005))ことから、区分外とした。	区分外	—	—	—	急速分解性があり(分解生成物であるサリチル酸のBODIによる分解度:88.1%(既存化学物質安全性点検データ)、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.81 (PHYSPROP Database, 2005))ことから、区分外とした。

413	ジニトロルエン	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(心血管系、血液系、神経系、肝臓、腎臓)、区分2(精巣、副腎)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(心血管系、血液系、神経系、肝臓、腎臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(精巣、副腎)の障害のおそれ	ヒトについては、「暴露された可能性のある労働者だけに心電図の異常、頻脈」、「154人の男性労働者。嘔吐、吐気。貧血やチアノーゼ、白血球数の増加を含む血液学的異常。筋力低下。154人中2人において黄疸及び肝炎。154人中36人が暴露直後の調査で貧血を訴えた」(CERI-NITE有害性評価書 No.51 (2004))、「虚血性心疾患に因る過剰死亡が認められた」、「主たる所見は蒼白、チアノーゼ、貧血、白血球増多症であった」、「曝露量に比例した尿細管変性に見られる腎毒性が認められた」、「食欲不振、味覚異常、嘔吐感、めまい、神経過敏」(SIDS (2004))等の記述、実験動物については、「ヘモグロビン減少、赤白血球減少、特発性心筋症、精巣変性、副腎変性、肝細胞の空胞変性及び点状壊死、慢性間質性腎炎の憎悪」、「全ての実験群で網状赤血球及びハイイツ小体が顕著に増加」(SIDS (2004))等の記述があることから、心臓、血液系、神経系、肝臓、腎臓、精巣、副腎が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1及び区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(心血管系、血液系、神経系、肝臓、腎臓)、区分2(精巣、副腎)とした。	区分1(心血管系、血液系、神経系、肝臓、腎臓)、区分2(精巣、副腎)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(心血管系、血液系、神経系、肝臓、腎臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(精巣、副腎)の障害のおそれ	ヒトについては、「暴露された可能性のある労働者だけに心電図の異常、頻脈」、「154人の男性労働者。嘔吐、吐気。貧血やチアノーゼ、白血球数の増加を含む血液学的異常。筋力低下。154人中2人において黄疸及び肝炎。154人中36人が暴露直後の調査で貧血を訴えた」(CERI-NITE有害性評価書 No.51 (2004))、「虚血性心疾患に因る過剰死亡が認められた」、「主たる所見は蒼白、チアノーゼ、貧血、白血球増多症であった」、「曝露量に比例した尿細管変性に見られる腎毒性が認められた」、「食欲不振、味覚異常、嘔吐感、めまい、神経過敏」(SIDS (2004))等の記述、実験動物については、「ヘモグロビン減少、赤白血球減少、特発性心筋症、精巣変性、副腎変性、肝細胞の空胞変性及び点状壊死、慢性間質性腎炎の憎悪」、「全ての実験群で網状赤血球及びハイイツ小体が顕著に増加」(SIDS (2004))等の記述があることから、心臓、血液系、神経系、肝臓、腎臓、精巣、副腎が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1及び区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(心血管系、血液系、神経系、肝臓、腎臓)、区分2(精巣、副腎)とした。
414	2,6-ジニトロルエン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(肝臓、神経系、呼吸器)、区分2(心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(肝臓、神経系、呼吸器)の障害 臓器(心血管系、血液系)の障害のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「中枢神経系、心血管系、血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」(ICSC (J) (1997))の記述、実験動物については、「肝臓で広範囲な小葉中心性の出血性壊死、死亡がみられた」(CERI-NITE有害性評価書 No.51 (2004))、「呼吸障害、運動失調、嗜眠の後死亡した」(SIDS (2004))等の記述があることから、呼吸器、肝臓、神経系、心血管系、血液系を標的臓器とし、麻酔作用をもつと考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(肝臓、神経系、呼吸器)、区分2(心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)とした。	区分1(肝臓、神経系、呼吸器)、区分2(心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(肝臓、神経系、呼吸器)の障害 臓器(心血管系、血液系)の障害のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「中枢神経系、心血管系、血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」(ICSC (J) (1997))の記述、実験動物については、「肝臓で広範囲な小葉中心性の出血性壊死、死亡がみられた」(CERI-NITE有害性評価書 No.51 (2004))、「呼吸障害、運動失調、嗜眠の後死亡した」(SIDS (2004))等の記述があることから、呼吸器、肝臓、神経系、心血管系、血液系を標的臓器とし、麻酔作用をもつと考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(肝臓、神経系、呼吸器)、区分2(心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)とした。
414	2,6-ジニトロルエン	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(血液系、肝臓)、区分2(精巣、神経系、腎臓、心血管系)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(血液系、肝臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(精巣、神経系、腎臓、心血管系)の障害のおそれ	ICSC(J)(1997)に「中枢神経系、心血管系、血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」との記載があり、実験動物については「脾臓での髄外造血の亢進、精巣の萎縮、精子形成能の低下、胆管の上皮の過形成がみられた」、「強直、痙攣を伴う麻痺、貧血、メトヘモグロビン血症、血小板の増加、リンパ球の減少、アルカリフォスファターゼの増加、ALTと尿素窒素の増加、脾臓の髄外造血の亢進、胆管の上皮の過形成、肝臓の変性と炎症、腎臓の変性と炎症、精巣の萎縮が認められた」(CERI-NITE有害性評価書 No.51 (2004))、「胆管上皮過形成、肝細胞の変性及び空胞化がみられた」(環境省リスク評価第4巻 (2005))等の記載があることから、血液系、肝臓、神経系、腎臓、心血管系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、それぞれ血液系、肝臓が区分1に、精巣、神経系、腎臓が区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。また心血管系に対する影響を記載した評価書のPriorityが2であることから同臓器は区分2に分類した。以上より、分類は区分1(血液系、肝臓)、区分2(精巣、神経系、腎臓、心血管系)とした。なお、ジニトロルエン(ID 0413、CAS 25321-14-6)の分類結果を参照すること。	区分1(血液系、肝臓)、区分2(精巣、神経系、腎臓、心血管系)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(血液系、肝臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(精巣、神経系、腎臓、心血管系)の障害のおそれ	ICSC(J)(1997)に「中枢神経系、心血管系、血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」との記載があり、実験動物については「脾臓での髄外造血の亢進、精巣の萎縮、精子形成能の低下、胆管の上皮の過形成がみられた」、「強直、痙攣を伴う麻痺、貧血、メトヘモグロビン血症、血小板の増加、リンパ球の減少、アルカリフォスファターゼの増加、ALTと尿素窒素の増加、脾臓の髄外造血の亢進、胆管の上皮の過形成、肝臓の変性と炎症、腎臓の変性と炎症、精巣の萎縮が認められた」(CERI-NITE有害性評価書 No.51 (2004))、「胆管上皮過形成、肝細胞の変性及び空胞化がみられた」(環境省リスク評価第4巻 (2005))等の記載があることから、血液系、精巣、肝臓、神経系、腎臓、心血管系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、それぞれ血液系、肝臓が区分1に、精巣、神経系、腎臓が区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。また心血管系に対する影響を記載した評価書のPriorityが2であることから同臓器は区分2に分類した。以上より、分類は区分1(血液系、肝臓)、区分2(精巣、神経系、腎臓、心血管系)とした。なお、ジニトロルエン(ID 0413、CAS 25321-14-6)の分類結果を参照すること。
415	3,4-ジニトロルエン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分2(中枢神経系、心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	警告	臓器(中枢神経系、心血管系、血液系)の障害のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「中枢神経系、心血管系、血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」(ICSC (J) (1997))の記述、実験動物については「傾眠」(RTEGS (1999))の記述があることから、中枢神経系、心血管系、血液系が標的臓器と考えられた。また麻酔作用があると判断した。以上より、分類は区分2(中枢神経系、心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)とした。ジニトロルエン(ID 0413、CAS 25321-14-6)の分類結果を参照すること。	区分2(中枢神経系、心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(中枢神経系、心血管系、血液系)の障害のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「中枢神経系、心血管系、血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」(ICSC (J) (1997))の記述、実験動物については「傾眠」(RTEGS (1999))の記述があることから、中枢神経系、心血管系、血液系が標的臓器と考えられた。また麻酔作用があると判断した。以上より、分類は区分2(中枢神経系、心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)とした。ジニトロルエン(ID 0413、CAS 25321-14-6)の分類結果を参照すること。
418	2,3-ジニトロルエン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分2(中枢神経系、心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	警告	臓器(中枢神経系、心血管系、血液系)の障害のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「中枢神経系、心血管系、血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」(ICSC (J) (1997))の記述があり、実験動物については「傾眠」(RTEGS (2006))の記述があることから、中枢神経系、心血管系、血液系が標的臓器と考えられた。また麻酔作用があると判断した。以上より、分類は区分2(中枢神経系、心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)とした。ジニトロルエン(CAS 25321-14-6)の分類結果を参照すること。	区分2(中枢神経系、心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(中枢神経系、心血管系、血液系)の障害のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「中枢神経系、心血管系、血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成することがある」(ICSC (J) (1997))の記述があり、実験動物については「傾眠」(RTEGS (2006))の記述があることから、中枢神経系、心血管系、血液系が標的臓器と考えられた。また麻酔作用があると判断した。以上より、分類は区分2(中枢神経系、心血管系、血液系)、区分3(麻酔作用)とした。ジニトロルエン(CAS 25321-14-6)の分類結果を参照すること。

419	2,4-ジニトロフェノール	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(心血管系、血液系、視覚器、神経系、腎臓、肝臓、消化管)、区分2(精巢)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(心血管系、血液系、視覚器、神経系、腎臓、肝臓、消化管)の障害 長期または反復暴露による臓器(精巢)の障害のおそれ	ヒトについては、「本物質の暴露により溶血性貧血、好中球減少症、好酸球増加症などの血液への影響がみられている」(CERiハザードデータ集 99-9 (2000))、「治療薬として2,4-dinitrophenolを投与された者のうち100名以上に白内障が発症したとの紹介」(IRIS (1987))、「肝臓では肝細胞壊死と出血が観察された。腎臓では糸球体内部への出血をともなう尿細管内壁上皮細胞の破壊が見られた。心筋炎が死因と考えられた。」「小腸には多くの限局性出血性壊死が生じ、激しい肝脂肪変性と出血性腎炎が見られた。患者は衰弱、不定愁訴を訴え、錯乱や一時的な陶酔感を示し膝反射の減少をきたした。顆粒球減少症により死亡した」(ATSDR (1995))の記述、実験動物については、「肝臓及び腎臓の病理学的変化、精巢の萎縮がみられている」(CERiハザードデータ集 99-9 (2000))、「自発運動の低下及び流涎、腎臓皮髄境界部の石灰化がみられた」(環境省リスク評価第3巻(2004))等の記述があることから、血液系、視覚器、神経系、腎臓、肝臓、消化管、精巢が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1及び区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(心血管系、血液系、視覚器、神経系、腎臓、肝臓、消化管)、区分2(精巢)とした。	区分1(心血管系、血液系、視覚器、神経系、腎臓、肝臓、消化管)、区分2(精巢)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(心血管系、血液系、視覚器、神経系、腎臓、肝臓、消化管)の障害 長期または反復暴露による臓器(精巢)の障害のおそれ	ヒトについては、「本物質の暴露により溶血性貧血、好中球減少症、好酸球増加症などの血液への影響がみられている」(CERiハザードデータ集 99-9 (2000))、「治療薬として2,4-dinitrophenolを投与された者のうち100名以上に白内障が発症したとの紹介」(IRIS (1987))、「肝臓では肝細胞壊死と出血が観察された。腎臓では糸球体内部への出血をともなう尿細管内壁上皮細胞の破壊が見られた。心筋炎が死因と考えられた。」「小腸には多くの限局性出血性壊死が生じ、激しい肝脂肪変性と出血性腎炎が見られた。患者は衰弱、不定愁訴を訴え、錯乱や一時的な陶酔感を示し膝反射の減少をきたした。顆粒球減少症により死亡した」(ATSDR (1995))の記述、実験動物については、「肝臓及び腎臓の病理学的変化、精巢の萎縮がみられている」(CERiハザードデータ集 99-9 (2000))、「自発運動の低下及び流涎、腎臓皮髄境界部の石灰化がみられた」(環境省リスク評価第3巻(2004))等の記述があることから、血液系、視覚器、神経系、腎臓、肝臓、消化管、精巢が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1及び区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(心血管系、血液系、視覚器、神経系、腎臓、肝臓、消化管)、区分2(精巢)とした。
429	亜セレン酸	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(神経系)、区分2(呼吸器、肝臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(呼吸器、肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「嘔吐、眩暈、嗅覚の鈍麻」(CERiハザードデータ集 2001-392 (2002))、「鼻過敏症、持続性のいんにく臭、神経過敏症、組織損傷、肝臓障害」(ICSC (J) (2000))等の記述より、標的臓器は神経系、呼吸器、肝臓と考えられた。なお、呼吸器、肝臓への影響はPriority 2からの引用である。以上より、分類は区分1(神経系)、区分2(呼吸器、肝臓)とした。	区分1(神経系)、区分2(呼吸器、肝臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(呼吸器、肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「嘔吐、眩暈、嗅覚の鈍麻」(CERiハザードデータ集 2001-392 (2002))、「鼻過敏症、持続性のいんにく臭、神経過敏症、組織損傷、肝臓障害」(ICSC (J) (2000))等の記述より、標的臓器は神経系、呼吸器、肝臓と考えられた。なお、呼吸器、肝臓への影響はPriority 2からの引用である。以上より、分類は区分1(神経系)、区分2(呼吸器、肝臓)とした。
441	トリクロロアセトアルデヒド	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	実験動物については、「強い麻酔作用、クララ細胞空胞化、肺泡壊死、上皮剥離及び肺泡浮腫」(NITE初期リスク評価書 No.97 (2005))等の記述があることから、麻酔作用をもち、呼吸器が標的臓器であると考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(呼吸器)、区分3(麻酔作用)とした。なお、「トリクロロアセトアルデヒドは生体内では水と反応し	区分1(呼吸器)、区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険	臓器(呼吸器)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	実験動物については、「強い麻酔作用、クララ細胞空胞化、肺泡壊死、上皮剥離及び肺泡浮腫」(NITE初期リスク評価書 No.97 (2005))等の記述があることから、麻酔作用をもち、呼吸器が標的臓器であると考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(呼吸器)、区分3(麻酔作用)とした。なお、「トリクロロアセトアルデヒドは生体内では水と反応して
442	2,4,6-トリクロロ-1,3,5-トリアジン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器、神経系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器、神経系)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「蒸気またはフュームの吸入により、暴露後2～3時間後に肺水腫を起こす」、「化膿性の気管支炎」(環境省リスク評価第3巻(2004))等の記述、実験動物については、「運動低下、嗜眠、筋弛緩、反射の喪失、チアノーゼ、歩行異常、反射の減少、粘液を伴う肺の腫れや浮腫、水胸症」(SIDS (2001))等の記述があることから、麻酔作用をもち、呼吸器、神経系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。	区分1(呼吸器、神経系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険	臓器(呼吸器、神経系)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「蒸気またはフュームの吸入により、暴露後2～3時間後に肺水腫を起こす」、「化膿性の気管支炎」(環境省リスク評価第3巻(2004))等の記述、実験動物については、「運動低下、嗜眠、筋弛緩、反射の喪失、チアノーゼ、歩行異常、反射の減少、粘液を伴う肺の腫れや浮腫、水胸症」(SIDS (2001))等の記述があることから、麻酔作用をもち、呼吸器、神経系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。
443	トリクロロトリフルオロエタン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(肝臓、呼吸器、中枢神経系、血液系、消化管、心血管系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(肝臓、呼吸器、中枢神経系、血液系、消化管、心血管系)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「弱い麻酔作用、肝細胞の肥大及び脂肪化」、「…肺水腫などが認められている。」「意識混濁、顔面蒼白もみられ、検査で低色素性貧血とびらん性大腸炎も認められている。」「一過性のチアノーゼがみられ、…。」「…集中力の欠如が現れ、…作業効率率が10～30%低下した。また、…嗜眠や頭を左右に振った後の見当識のわずかな消失もみられた…」(環境省リスク評価第4巻(2005))、「…窒息或いは心不整脈によって死亡したとの報告がある」(EHC (1990))、「…心臓血管系、中枢神経動物試験において、「甲状腺濾胞上皮肥大の増加」、「肝細胞肥大、肝細胞壊死・空胞化」、「腎重量の減少並びに小葉中心性肝細胞肥大、腎皮質尿細管の拡張・変性」、「副腎皮質細胞の肥大」が見られた(農業登録申請資料(2005))ことから、甲状腺、肝臓、腎臓、副腎が標的と考えられた。甲状腺への影響は区分1、その他の臓器への影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられたことから、区分1(甲状腺)、区分2(肝臓、腎臓、副腎)とした。	区分1(肝臓、呼吸器、中枢神経系、血液系、消化管、心血管系)、区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険	臓器(肝臓、呼吸器、中枢神経系、血液系、消化管、心血管系)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては、「弱い麻酔作用、肝細胞の肥大及び脂肪化」、「…肺水腫などが認められている。」「意識混濁、顔面蒼白もみられ、検査で低色素性貧血とびらん性大腸炎も認められている。」「一過性のチアノーゼがみられ、…。」「…集中力の欠如が現れ、…作業効率率が10～30%低下した。また、…嗜眠や頭を左右に振った後の見当識のわずかな消失もみられた…」(環境省リスク評価第4巻(2005))、「…窒息或いは心不整脈によって死亡したとの報告がある」(EHC (1990))、「…心臓血管系、中枢神経
444	2,2,2-トリクロロ-1,1-ビス(4-クロロフェニル)エタノール	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(甲状腺)、区分2(肝臓、腎臓、副腎)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(甲状腺)の障害 長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓、副腎)の障害のおそれ	動物試験において、「甲状腺濾胞上皮肥大の増加」、「肝細胞肥大、肝細胞壊死・空胞化」、「腎重量の減少並びに小葉中心性肝細胞肥大、腎皮質尿細管の拡張・変性」、「副腎皮質細胞の肥大」が見られた(農業登録申請資料(2005))ことから、甲状腺、肝臓、腎臓、副腎が標的と考えられた。甲状腺への影響は区分1、その他の臓器への影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられたことから、区分1(甲状腺)、区分2(肝臓、腎臓、副腎)とした。	区分1(甲状腺)、区分2(肝臓、腎臓、副腎)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(甲状腺)の障害 長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓、副腎)の障害のおそれ	動物試験において、「甲状腺濾胞上皮肥大の増加」、「肝細胞肥大、肝細胞壊死・空胞化」、「腎重量の減少並びに小葉中心性肝細胞肥大、腎皮質尿細管の拡張・変性」、「副腎皮質細胞の肥大」が見られた(農業登録申請資料(2005))ことから、甲状腺、肝臓、腎臓、副腎が標的と考えられた。甲状腺への影響は区分1、その他の臓器への影響は区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられたことから、区分1(甲状腺)、区分2(肝臓、腎臓、副腎)とした。
463	ビス(N,N-ジメチルジチオカルバミン酸)亜鉛	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(全身毒性)、区分2(神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(全身毒性)の障害 臓器(神経系)の障害 気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについては、「濃度不明のジラム液0.5Lを飲用したところ、数時間以内に死亡した。病理学的には非特異的な症状であった」(IARC 53 (1991))、「小腸粘膜の壊死、多臓器にわたる鬱血と光顕的に判別できる浮腫、漏出性出血、限局性無気腫、急性肺気腫、および肺泡・気管支の上皮剥離が見られた。病理学的には非特異的であった。』(HSDB (2003))等の記述から全身毒性を示すと考えられた。また、ICSC (J) (2000)には「気道を刺激する」との記載があり気道刺激性を有すると考えられた。実験	区分1(全身毒性)、区分2(神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険	臓器(全身毒性)の障害 臓器(神経系)の障害 気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについては、「濃度不明のジラム液0.5Lを飲用したところ、数時間以内に死亡した。病理学的には非特異的な症状であった」(IARC 53 (1991))、「小腸粘膜の壊死、多臓器にわたる鬱血と光顕的に判別できる浮腫、漏出性出血、限局性無気腫、急性肺気腫、および肺泡・気管支の上皮剥離が見られた。病理学的には非特異的であった。』(HSDB (2003))等の記述から全身毒性を示すと考えられた。また、ICSC (J) (2000)には「気道を刺激する」との記載があり気道刺激性を有すると考えられた。実験

491	ホウ酸	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神経 系、消化 管)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	危険	臓器(神経系、消化 管)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	ヒトについては、「悪心、嘔吐、腹痛、下痢等の消化管症 状、嗜眠、頭痛、発熱、被刺激性の亢進、筋肉痙攣等の中 枢神経症状」(CERI/ハザードデータ集 2001-30 (2002))、 「上気道への刺激性」(ATSDR (1992))等の記述、実験動 物については、「チアノーゼ、四肢の硬直、痙攣、ショック様 症状」(CERI/ハザードデータ集 2001-30 (2002))等の記述 があることから、神経系、消化管を標的臓器とし、気道刺 激性をもつと考えられた。なお、実験動物に対する影響 ヒトについては、「血管平滑筋の緊張低下、血圧低下及び 徐脈傾向、立毛筋反射の亢進、体温調節障害などの自律 神経障害及びポリニューロパチーの症状がみられている」 (CERI-NITE有害性評価書 No.29 (2005))、「自律神経 障害、徐脈、低血圧、熱調整の障害、軽度の中枢神経障 害などを起こした」(PATTY (4th, 2000))、「蒸気は気道を刺 激する」(ICSC (J) 1999)等の記述があることから、麻酔 作用、気道刺激性を有し、神経系を標的臓器とした。	区分1(神経 系、消化 管)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(神経系、消化 管)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	ヒトについては、「悪心、嘔吐、腹痛、下痢等の消化管症 状、嗜眠、頭痛、発熱、被刺激性の亢進、筋肉痙攣等の中 枢神経症状」(CERI/ハザードデータ集 2001-30 (2002))、「上気道への 刺激性」(ATSDR (1992))等の記述、実験動物については、 「チアノーゼ、四肢の硬直、痙攣、ショック様症状」(CERI/ ハザードデータ集 2001-30 (2002))等の記述があることから、神 経系、消化管を標的臓器とし、気道刺激性をもつと考えられ た。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイ ダ
508	3-メチルピリジン	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神経 系)、区分 3(麻酔作 用、気道刺 激性)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障 害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ (麻酔作用)眠気 またはめまいのお それ	ヒトについては、「血管平滑筋の緊張低下、血圧低下及び 徐脈傾向、立毛筋反射の亢進、体温調節障害などの自律 神経障害及びポリニューロパチーの症状がみられている」 (CERI-NITE有害性評価書 No.29 (2005))、「自律神経 障害、徐脈、低血圧、熱調整の障害、軽度の中枢神経障 害などを起こした」(PATTY (4th, 2000))、「蒸気は気道を刺 激する」(ICSC (J) 1999)等の記述があることから、麻酔 作用、気道刺激性を有し、神経系を標的臓器とした。	区分1(神経 系)、区分 3(麻酔作 用、気道刺 激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(神経系)の障 害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ (麻酔作用)眠気ま たはめまいのおそ れ	ヒトについては、「血管平滑筋の緊張低下、血圧低下及び徐 脈傾向、立毛筋反射の亢進、体温調節障害などの自律神経 障害及びポリニューロパチーの症状がみられている」。(CERI- NITE有害性評価書 No.29 (2005))、「自律神経障害、徐脈、低 血圧、熱調整の障害、軽度の中枢神経障害などを起こした」 (PATTY (4th, 2000))、「蒸気は気道を刺激する」(ICSC (J) 1999)等の記述があることから、麻酔作用、気道刺激性を有 し、神経系を標的臓器とした。
509	S-1-メチル-1-フェニル エチル=ピペリジン-1-カル ボチオアート	呼吸器感作 性又は皮膚 感作性	呼吸器感作 性:分類で きない 皮膚感作 性:分類で きない裂	(呼吸器感 作性)― (皮膚感作 性)―	(呼吸器感 作性)― (皮膚感作 性)―	(呼吸器感作性)― (皮膚感作性)―	呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: データなし	(呼吸器感 作性)― 皮膚感作 性:分類で きない	(呼吸器感 作性)― (皮膚感作 性)―	(呼吸器感作性)― (皮膚感作性)―	呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: データなし	
512	りん酸トリス(2-クロロエ チル)	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神経 系)、区分 3(麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障 害 (麻酔作用)眠気 またはめまいのお それ	実験動物については、「立毛及び流涎、全例に円背姿勢、 異常歩行、嗜眠、努力性呼吸、眼瞼下垂及び四肢末端の 蒼白がみられた」、「立ち上がり行動 (rearing) 及び振戦 (wet dog shakes) 頻度の用量依存的な増加がみられた」 (CERI-NITE有害性評価書 No.205 (2004))、「60~90以内に 痙攣を起こし、投与後7日目でCA1海馬錐体細胞の著しい 消失が観察された。脳機能の一部に長期間の障害が残る ことを示唆する」(EHC 209 (1998))等の記述があることか ら、神経系、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する 影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられ	区分1(神経 系)、区分 3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(神経系)の障 害 (麻酔作用)眠気ま たはめまいのおそ れ	実験動物については、「立毛及び流涎、全例に円背姿勢、異 常歩行、嗜眠、努力性呼吸、眼瞼下垂及び四肢末端の蒼白 がみられた」、「立ち上がり行動 (rearing) 及び振戦 (wet dog shakes) 頻度の用量依存的な増加がみられた」(CERI-NITE有 害性評価書 No.205 (2004))、「60~90以内に痙攣を起こし、投 与後7日目でCA1海馬錐体細胞の著しい消失が観察された。 脳機能の一部に長期間の障害が残ることを示唆する」(EHC 209 (1998))等の記述があることから、麻酔作用を有し、
512	りん酸トリス(2-クロロエ チル)	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(神経 系)、区分 2(腎臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴 露による臓器(神経 系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(腎 臓)の障害のおそ れ	ヒトについては、「上肢筋および腹筋の脱力、心電図試験 および神経伝達速度異常等の臨床所見が見られた」 (NICNAS (2001))の記述、実験動物については、「尿管上皮 (腎皮質の曲尿管)の過形成発現率が用量依存的に 増加。脳幹及び大脳に、神経細胞の変性、壊死、反応性 グリオシス、出血、鉛質沈着、色素沈着あるいはヘモジ デリン沈着、大脳及び視床に局所的病変」(CERI-NITE有 害性評価書 No.205 (2004))等の記述があることから、神経 系、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する 影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられ	区分1(神経 系)、区分 2(腎臓)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(神経 系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(腎 臓)の障害のおそ れ	ヒトについては、「上肢筋および腹筋の脱力、心電図試験およ び神経伝達速度異常等の臨床所見が見られた」(NICNAS (2001))の記述、実験動物については、「尿管上皮(腎皮質の 曲尿管)の過形成発現率が用量依存的に増加。脳幹及び大 脳に、神経細胞の変性、壊死、反応性グリオシス、出血、鉛 質沈着、色素沈着あるいはヘモジデリン沈着、大脳及び視 床に局所的病変」(CERI-NITE有害性評価書 No.205 (2004))等 の記述があることから、神経系、腎臓が標的臓器と考えられ た。なお、実験動物に対する影響は、区分2に相当するガイ ダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(神経系)、区分
519	5-エチル-5-フェニル- 2,4,6(1H,3H,5H)-ピリミジ ントリオン	眼に対する重 篤な損傷性/ 眼刺激性	データなし	―	―	―	データなし	分類できな い	―	―	データなし	
519	5-エチル-5-フェニル- 2,4,6(1H,3H,5H)-ピリミジ ントリオン	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(神経 系、甲状 腺)、区分 2(肝臓、腎 臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴 露による臓器(神経 系、甲状腺)の障 害 長期または反復暴 露による臓器(肝 臓、腎臓)の障害 のおそれ	ヒトについては、「もっとも頻繁に起こる副作用は鎮静作用 である。過剰投与では眼振および運動失調が発生する」、 「患者ではT4濃度が低下するがサイロトロン放出ホルモ ンに対するT3、TSH反応は正常範囲にとどまる」(IARC 79 (2003))、「熱性痙攣に処方されたフェノバルビタールに 対する過敏反応で2歳児が広範囲肝臓壊死を起こした」、 「フェノバルビタール投与は尿管間質性の腎炎、刺激性の皮 膚炎、肝炎を引き起こした」(HSDB (2002))等の記述、実験 動物については、「実験動物の肝臓は中程度から高度に 至る小葉中心性肝細胞肥大を示した」、「血清T4,T3濃度は 低下し、TSH量は増加した」、「低度から中程度の甲状腺濾 胞性肥大と中程度の肝細胞肥大が発生した」(IARC 79 (2003))等の記述があることから、神経系、肝臓、甲状腺、 腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影 響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。 また、ヒトにおける肝臓および腎臓への影響を記載した評 価書はPriority 2に属するため、これらの臓器に対する分類 は区分2とした。以上より、分類は区分1(神経系、甲状腺)、区	区分1(神経 系、甲状 腺)、区分 2(肝臓、腎 臓)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(神経 系、甲状腺)の障 害 長期または反復暴 露による臓器(肝 臓、腎臓)の障害 のおそれ	ヒトについては、「もっとも頻繁に起こる副作用は鎮静作用で ある。過剰投与では眼振および運動失調が発生する」、「患者 ではT4濃度が低下するがサイロトロン放出ホルモンに 対するT3、TSH反応は正常範囲にとどまる」(IARC 79 (2003))、「熱 性痙攣に処方されたフェノバルビタールに対する過敏反応で2 歳児が広範囲肝臓壊死を起こした」、「フェノバルビタール 投与は尿管間質性の腎炎、刺激性の皮膚炎、肝炎を引き起 こした」(HSDB (2002))等の記述、実験動物については、「実験 動物の肝臓は中程度から高度に至る小葉中心性肝細胞肥大 を示した」、「血清T4,T3濃度は低下し、TSH量は増加した」、 「低度から中程度の甲状腺濾胞性肥大と中程度の肝細胞肥大 が発生した」(IARC 79 (2003))等の記述があることから、神経 系、肝臓、甲状腺、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験 動物に対する影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲 でみられた。また、ヒトにおける肝臓および腎臓への影響を 記載した評価書はPriority 2に属するため、これらの臓器に 対する分類は区分2とした。以上より、分類は区分1(神経系、

525	(S)- α -シアノ-3-フェノキシベンジル=3-(2,2-ジクロロビニル)-2,2-ジメチル-cis-シクロプロパンカルボキシラート	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(神経系)、区分2(血液系、肝臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(血液系、肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「ナトリウムチャンネルを介して末梢及び中枢神経系の軸索に作用する神経毒性を持つ」(環境省リスク評価第4巻(2005))との記述がある。実験動物については、「運動失調や歩行異常、活動過多、円背姿勢、ALAT及びASAT濃度の上昇」、「ヘモグロビン濃度の低下及び血小板数の増加、雄でリンパ球数の減少及び好酸球数の減少、雌で平均赤血球容積及び平均赤血球ヘモグロビン濃度の低下及び血中尿素濃度の上昇」(環境省リスク評価第4巻(2005))、「歩行異常及び過敏状態が見られた。雌雄ともに血清中蛋白の減少と血清中尿素の増加が観察された」(EHC 142(1992))等の記述があることから、神経系、肝臓、血液系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲で神経系に、区分2に相当するガイダンス値で肝臓、血液系にみ	区分1(神経系)、区分2(血液系、肝臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(血液系、肝臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「ナトリウムチャンネルを介して末梢及び中枢神経系の軸索に作用する神経毒性を持つ」(環境省リスク評価第4巻(2005))との記述がある。実験動物については、「運動失調や歩行異常、活動過多、円背姿勢、ALAT及びASAT濃度の上昇」、「ヘモグロビン濃度の低下及び血小板数の増加、雄でリンパ球数の増加及び好酸球数の減少、雌で平均赤血球容積及び平均赤血球ヘモグロビン濃度の上昇」(環境省リスク評価第4巻(2005))、「歩行異常及び過敏状態が見られた。雌雄ともに血清中蛋白の減少と血清中尿素の増加が観察された」(EHC 142(1992))等の記述があることから、神経系、肝臓、血液系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲で神経系に、区分2に相当するガイダンス値で肝臓、血液系にみ
527	2,2-ジクロロ-N-[2-ヒドロキシ-1-(ヒドロキシメチル)-2-(4-ニトロフェニル)エチル]アセトアミド	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(骨髄、神経系、消化器)、区分2(心臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(骨髄、神経系、消化器)の障害 長期または反復暴露による臓器(心臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「クロラムフェニコールを処方後再生不良性貧血を発症し1年後に急性骨髄芽球性白血病で死亡した5歳児の報告」、「12gのクロラムフェニコールを投与され4ヵ月後に骨髄抑制を起こした63歳男性例」(IARC 10(1976))、「長期間投与後の他の有害作用には皮膚発疹、消化管不良および神経障害があげられる」(IARC 50(1990))、「網膜における両側性のガングリオン細胞の消失および視神経線維の萎縮が生じる」、「心筋障害をともなう心血管虚脱と左心室機能の低下が超音波心臓検査で判明した」(HSDB(2005))等の記述があることから、骨髄、神経系、消化器、心臓が標的臓器と考えられた。またヒトにおける心臓への影響を記載した評価書はPriority2に属するため、この臓器に対する分類は区分2とした。以上より、分	区分1(骨髄、神経系、消化器)、区分2(心臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(骨髄、神経系、消化器)の障害 長期または反復暴露による臓器(心臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「クロラムフェニコールを処方後再生不良性貧血を発症し1年後に急性骨髄芽球性白血病で死亡した5歳児の報告」、「12gのクロラムフェニコールを投与され4ヵ月後に骨髄抑制を起こした63歳男性例」(IARC 10(1976))、「長期間投与後の他の有害作用には皮膚発疹、消化管不良および神経障害があげられる」(IARC 50(1990))、「網膜における両側性のガングリオン細胞の消失および視神経線維の萎縮が生じる」、「心筋障害をともなう心血管虚脱と左心室機能の低下が超音波心臓検査で判明した」(HSDB(2005))等の記述があることから、骨髄、神経系、消化器、心臓が標的臓器と考えられた。またヒトにおける心臓への影響を記載した評価書はPriority2に属するため、この臓器に対する分類は区分2とした。以上より、分類は区分1(骨髄、神経系、消化器)、区分2(心
532	2,4-ジニトロ-6-オクチルフェニル=クロトナート及び2,6-ジニトロ-4-オクチルフェニル=クロトナートの混合物(オクチル基が1-メチルヘプチル基、1-エチルヘキシル基又は1-プロピルベンチル基であるものの混合物に限	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓)、区分2(腎臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害のおそれ	実験動物については、「肝臓に壊死が見られた」(JMPR(1998))、「肝臓、腎臓に組織変化が認められた」(HSDB(2006))等の記述があることから、肝臓および腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1および区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(肝臓)、区分2(腎臓)とした。	区分1(肝臓)、区分2(腎臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害のおそれ	実験動物については、「肝臓に壊死が見られた」(JMPR(1998))、「肝臓、腎臓に組織変化が認められた」(HSDB(2006))等の記述があることから、肝臓および腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1および区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(肝臓)、区分2(腎臓)とした。
542	鉄カルボニル	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器、神経系、心血管系)、区分2(肝臓、腎臓)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器、神経系、心血管系)の障害 臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「肝臓、腎臓への傷害、中枢神経系の変性」(HSDB(2005))、「病理変化は、肺の肝臓様変化、血管障害、中枢神経系の変性などである」(PATTY(4th, 1999))等の記述、実験動物については、「曝露後の症状には、呼吸障害、チアノーゼ、振戦、運動麻痺が挙げられる」(ACGIH(7th, 2001))等の記述があることから、呼吸器、神経系、心血管系、肝臓、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。またヒトでの肝臓、腎臓	区分1(呼吸器、神経系、心血管系)、区分2(肝臓、腎臓)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器、神経系、心血管系)の障害 臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ	ヒトについては、「肝臓、腎臓への傷害、中枢神経系の変性」(HSDB(2005))、「病理変化は、肺の肝臓様変化、血管障害、中枢神経系の変性などである」(PATTY(4th, 1999))等の記述、実験動物については、「曝露後の症状には、呼吸障害、チアノーゼ、振戦、運動麻痺が挙げられる」(ACGIH(7th, 2001))等の記述があることから、呼吸器、神経系、心血管系、肝臓、腎臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。またヒトでの肝臓、腎臓
550	tert-ブチル=ヒドロペルオキシド	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分2(神経系、血液系、呼吸器)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	警告	臓器(神経系、血液系、呼吸器)の障害のおそれ(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	実験動物については、「行動抑制と流涙の徴候…立ち直り反射の喪失、…血尿などの徴候」(PATTY(4th, 1999))、「行動抑制、…立ち直り反射の喪失、流涙、…血尿」(IUCILD(1999))、「メトヘモグロビン血症もしくはカルボキシヘモグロビン」、「チアノーゼ」(RTECS(2006))等の記述があることから、神経系、血液系に影響があり、麻酔作用を有するかと考えられた。また、「呼吸数の低下、無呼吸」(IUCILD(1999))等の記述があることから、呼吸器も標的臓器	区分2(神経系、血液系、呼吸器)、区分3(麻酔作用)	健康有害性	警告	臓器(神経系、血液系、呼吸器)の障害のおそれ(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	実験動物については、「行動抑制と流涙の徴候…立ち直り反射の喪失、…血尿などの徴候」(PATTY(4th, 1999))、「行動抑制、…立ち直り反射の喪失、流涙、…血尿」(IUCILD(1999))、「メトヘモグロビン血症もしくはカルボキシヘモグロビン」、「チアノーゼ」(RTECS(2006))等の記述があることから、神経系、血液系に影響があり、麻酔作用を有するかと考えられた。また、「呼吸数の低下、無呼吸」(IUCILD(1999))等の記述があることから、呼吸器も標的臓器と考えられた。
550	tert-ブチル=ヒドロペルオキシド	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(腎臓)、区分2(血液系)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害長期または反復暴露による臓器(血液系)の障害のおそれ	実験動物については、「網状赤血球の減少、ビリルビン値の増加、ネフローゼ」(SIDS(1995))等の記述があることから、腎臓、血液系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、腎臓については区分1、血液系については区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(腎臓)、区分2(血液系)とした。	区分1(腎臓)、区分2(血液系)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害長期または反復暴露による臓器(血液系)の障害のおそれ	実験動物については、「網状赤血球の減少、ビリルビン値の増加、ネフローゼ」(SIDS(1995))等の記述があることから、腎臓、血液系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、腎臓については区分1、血液系については区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(腎臓)、区分2(血液系)とした。
559	4,4'-メチレンビス(2-メチルシクロヘキサミン)	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(腎臓)、区分2(呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓)の障害のおそれ	実験動物については、「鼻粘膜、嗅覚上皮の空胞変性、GOT、GPTの上昇、ヘモグロビン量、赤血球に対するヘモグロビン量の割合、平均赤血球ヘモグロビン濃度の減少、軽い尿管のネフローゼ」(SIDS(2001))、「肝臓、赤血球、白血球、腎臓、副腎、心臓の組織学的変化」(SIDS(2001))等の記述があることから、腎臓、呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、腎臓への影響が区分1、呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓への影響が区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(腎臓)、区分2	区分1(腎臓)、区分2(呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓)の障害のおそれ	実験動物については、「鼻粘膜、嗅覚上皮の空胞変性、GOT、GPTの上昇、ヘモグロビン量、赤血球に対するヘモグロビン量の割合、平均赤血球ヘモグロビン濃度の減少、軽い尿管のネフローゼ」(SIDS(2001))、「肝臓、赤血球、白血球、腎臓、副腎、心臓の組織学的変化」(SIDS(2001))等の記述があることから、腎臓、呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、腎臓への影響が区分1、呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓への影響が区分2に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(腎臓)、区分2(呼吸器、肝臓、血液系、副腎、心臓)
563	アセトシアンヒドリン	眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	区分2	—	—	—	ラットで刺激性があるというデータ(CIGAD 61(2004))により区分2とした。	区分2	感嘆符	警告	強い眼刺激	ラットで刺激性があるというデータ(CIGAD 61(2004))により区分2とした。

565	エチレンクロロヒドリン	発がん性	区分1	—	—	—	ACGIHはA4に分類し、動物試験においては発がん性を示さないデータもあるが、疫学的データでヒトに対して発がん性である証拠がある(PATY(5th, 2005))ので区分1とす	区分1	健康有害性	危険	発がんのおそれ	ACGIHはA4に分類し、動物試験においては発がん性を示さないデータもあるが、疫学的データでヒトに対して発がん性である証拠がある(PATY(5th, 2005))ので区分1とする。
565	エチレンクロロヒドリン	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、血液系、腎臓、肝臓、呼吸器系)、区分3	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系、血液系、腎臓、肝臓、呼吸器系)の障害	ヒトでの中枢神経系、心血管系、腎臓、肝臓、肺への影響が見られている(DFGOT vol. 5(1993))ため区分1とする。気道を重度に刺激する(ICSC(J)(2003))との記載があるので、肺への影響と合わせて標的臓器を呼吸器系とする。また、吸入による麻酔性も指摘されている(DFGOT vol. 5(1993))ので区分3(麻酔性)にも区分する。	区分1(中枢神経系、血液系、腎臓、肝臓、呼吸器系)、区分3	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系、血液系、腎臓、肝臓、呼吸器系)の障害(麻酔作用)眠気又はめまいのおそれ	ヒトでの中枢神経系、心血管系、腎臓、肝臓、肺への影響が見られている(DFGOT vol. 5(1993))ため区分1とする。気道を重度に刺激する(ICSC(J)(2003))との記載があるので、肺への影響と合わせて標的臓器を呼吸器系とする。また、吸入による麻酔性も指摘されている(DFGOT vol. 5(1993))ので区分3(麻酔性)にも区分する。
571	黄りん	生殖毒性	区分2	健康有害性	警告	生殖能または胎児への悪影響のおそれ	ラットに交配80日前から2度の生殖周期にわたり投与した試験(世代試験)において、高用量で母動物の死亡がみられ、その大半(13/16)が分娩期間中に発生し、黄りんの投与が原因である可能性が記述されている(IRIS(1991))。分娩期間への死亡の集中は生殖への悪影響と考えられるが、母体毒性の関与も否定できないので区分2とした。なお、交配3週間からの投与で授乳期間中に児の成長および生存の抑制が観察され、一因として授乳への影響が示	区分2	健康有害性	警告	生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い	ラットに交配80日前から2度の生殖周期にわたり投与した試験(世代試験)において、高用量で母動物の死亡がみられ、その大半(13/16)が分娩期間中に発生し、黄りんの投与が原因である可能性が記述されている(IRIS(1991))。分娩期間への死亡の集中は生殖への悪影響と考えられるが、母体毒性の関与も否定できないので区分2とした。なお、交配3週間からの投与で授乳期間中に児の成長および生存の抑制が観察され、一因として授乳への影響が示唆されている(ATSDR(1997))。
571	黄りん	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(肝、腎、消化器、血液、中枢神経)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(肝、腎、消化器、血液、中枢神経)の障害 呼吸器への刺激のおそれ	本物質のヒトへの急性曝露が、肝、腎、消化器系、造血系、中枢神経系と広範な器官・組織に影響を及ぼすことを示す報告あるいは記載がある(ACGIH(2001)、PATY(5th, 2001)、IRIS(1991)、HSDB(2005))ので、区分1(肝、腎、消化器、血液、中枢神経)とした。また、短時間の曝露による気道刺激性も認められている(ATSDR(1997))ので区分3(気道刺激性)とした。なお、マウスの試験における死亡は、刺激により粘膜炎腫脹あるいは粘液分泌が起	区分1(肝、腎、消化器、血液、中枢神経)、区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(肝、腎、消化器、血液、中枢神経)の障害 呼吸器への刺激のおそれ	本物質のヒトへの急性曝露が、肝、腎、消化器系、造血系、中枢神経系と広範な器官・組織に影響を及ぼすことを示す報告あるいは記載がある(ACGIH(2001)、PATY(5th, 2001)、IRIS(1991)、HSDB(2005))ので、区分1(肝、腎、消化器、血液、中枢神経)とした。また、短時間の曝露による気道刺激性も認められている(ATSDR(1997))ので区分3(気道刺激性)とした。なお、マウスの試験における死亡は、刺激により粘膜炎腫脹あるいは粘液分泌が起
576	2-クロロ-1,3-ブタジエン	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(神経系、心血管系、歯、歯周組織、免疫系、肺、肝臓、胃)、区分2(血液、嗅覚器、呼吸器)	健康有害性	危険	長期または反復曝露による臓器(神経系、心血管系、歯、歯周組織、免疫系、肺、肝臓、胃)の障害 長期または反復曝露による臓器(血液、嗅覚器、呼吸器)の障害のおそれ	ヒトで心血管系および神経系に病理学的変化を認めたとの記載(IARC 19(1979))、頭痛、めまい、不眠等の神経症状や心悸亢進、胸痛の訴えがあったとの記載(IARC 19(1979))に基づき、区分1(神経系、心血管系)とした。ヒトで歯の浸食、歯肉炎、歯根膜炎および免疫反応の低下の記載(IARC 19(1979))があることから、区分1(歯、歯周組織、免疫系)とした。ヒトで血中コリンエステラーゼ活性の低下が見られたとの記載(IARC 19(1979))があり、ラットおよびハムスターで、区分1のガイダンス値範囲の曝露量で肝臓に変性壊死が見られ、ラットでは肺の組織障害の記載がある(PATY(5th, 2001))ことから、区分1(肺、肝臓)とした。ラットで区分2のガイダンス値範囲の曝露量で血液凝固異常、嗅覚上皮の変性と過形成、および前胃上皮の過形成が見られたとの記載(PATY(5th, 2001))があり、ヒトで胃腸障害が見られたとの記載(IARC 19(1979))があることに基づき、区分1(胃)、区分2(血液、嗅覚器)とした。ラットで区分2のガイダンス値範囲の曝露量で鼻腔の炎症の記	区分1(神経系、心血管系、歯、歯周組織、免疫系、肺、肝臓、胃)、区分2(血液、嗅覚器、呼吸器)	健康有害性	危険 警告	長期または反復曝露による臓器(神経系、心血管系、歯、歯周組織、免疫系、肺、肝臓、胃)の障害 長期または反復曝露による臓器(血液、嗅覚器、呼吸器)の障害のおそれ	ヒトで心血管系および神経系に病理学的変化を認めたとの記載(IARC 19(1979))、頭痛、めまい、不眠等の神経症状や心悸亢進、胸痛の訴えがあったとの記載(IARC 19(1979))に基づき、区分1(神経系、心血管系)とした。ヒトで歯の浸食、歯肉炎、歯根膜炎および免疫反応の低下の記載(IARC 19(1979))があることから、区分1(歯、歯周組織、免疫系)とした。ヒトで血中コリンエステラーゼ活性の低下が見られたとの記載(IARC 19(1979))があり、ラットおよびハムスターで、区分1のガイダンス値範囲の曝露量で肝臓に変性壊死が見られ、ラットでは肺の組織障害の記載がある(PATY(5th, 2001))ことから、区分1(肺、肝臓)とした。ラットで区分2のガイダンス値範囲の曝露量で血液凝固異常、嗅覚上皮の変性と過形成、および前胃上皮の過形成が見られたとの記載(PATY(5th, 2001))があり、ヒトで胃腸障害が見られたとの記載(IARC 19(1979))があることに基づき、区分1(胃)、区分2(血液、嗅覚器)とした。ラットで区分2のガイダンス値範囲の曝露量で鼻腔の炎症の記
579	酢酸エチル	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器系) 区分3(麻酔)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器系)の障害	400 ppm 曝露で、ヒトの上部呼吸器刺激が報告されている(ACGIH(2001)、DFGOT(vol.12, 1999))。致死濃度に近い曝露で麻酔および肺損傷が報告されている(DFGOT(vol.12, 1999))。「呼吸器系・区分1」および「麻酔・区分3」を	区分1(呼吸器系) 区分3(麻酔)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(呼吸器系)の障害 (麻酔作用)眠気又はめまいのおそれ	400 ppm 曝露で、ヒトの上部呼吸器刺激が報告されている(ACGIH(2001)、DFGOT(vol.12, 1999))。致死濃度に近い曝露で麻酔および肺損傷が報告されている(DFGOT(vol.12, 1999))。「呼吸器系・区分1」および「麻酔・区分3」を採用した。
582	四エチル鉛	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系) 区分3(気道刺激)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系)の障害 呼吸器への刺激のおそれ	労働者及び動物実験で中枢神経系への影響が報告されているので「区分1」とした。また鼻・喉の刺激が示唆されている(HSFS(2002))ので「区分3」を加えた。	区分1(中枢神経系) 区分3(気道刺激)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系)の障害 呼吸器への刺激のおそれ	労働者及び動物実験で中枢神経系への影響が報告されているので「区分1」とした。また鼻・喉の刺激が示唆されている(HSFS(2002))ので「区分3」を加えた。
593	臭化エチル	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(神経系、呼吸器系) 区分3(麻酔)	健康有害性	危険	臓器(神経系、呼吸器系)の障害	ヒトの症例で、麻酔から末梢神経、中枢神経への影響が報告されている(ACGIH(2001))。またPatty(5th, 2001)には、呼吸器刺激、肺刺激も記述されているので「区分1(神経系、呼吸器系) 区分3(麻酔)」とした。動物吸入実験でも麻酔が認められている。	区分1(神経系、呼吸器系) 区分3(麻酔)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(神経系、呼吸器系)の障害 (麻酔作用)眠気又はめまいのおそれ	ヒトの症例で、麻酔から末梢神経、中枢神経への影響が報告されている(ACGIH(2001))。またPatty(5th, 2001)には、呼吸器刺激、肺刺激も記述されているので「区分1(神経系、呼吸器系) 区分3(麻酔)」とした。動物吸入実験でも麻酔が認められている。
596	臭素	皮膚腐食性／刺激性	区分1	—	—	—	ラットでの実験結果(UCLID(2000))は刺激となっているが、ヒトで皮膚腐食の記載があり(Patty(5th, 2001)、HSDB(2005)、HSFS(1998))、EUでもR35のリスクフレーズを当てているので「区分1」とした。A-Cの細区分を行う実験データはないが、国連危険物輸送勧告でクラス8容器等級Iとしているので、「区分1A」と考えられる。	区分1	腐食性	危険	重篤な皮膚の薬傷、眼の損傷	ラットでの実験結果(UCLID(2000))は刺激となっているが、ヒトで皮膚腐食の記載があり(Patty(5th, 2001)、HSDB(2005)、HSFS(1998))、EUでもR35のリスクフレーズを当てているので「区分1」とした。A-Cの細区分を行う実験データはないが、国連危険物輸送勧告でクラス8容器等級Iとしているので、「区分1A」と考えられる。
604	トリクロロ酢酸	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分2(呼吸器系)、 区分3(麻酔作用)	健康有害性	警告	臓器(呼吸器系)の障害のおそれ (麻酔作用)眠気 またはめまいのおそれ	ICSC(J)(1998)、HSFS(2004)およびSITTIG(4th, 2002)の蒸気を吸入すると肺水腫を起こすことがあるとの記述から、区分2(呼吸器系)とした。また、ACGIH(7th, 2001)のラットおよびマウスへの経口投与により麻酔作用が認められたとの記述から、区分3(麻酔作用)とした。	区分2(呼吸器系)、 区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(呼吸器系)の障害のおそれ (麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ICSC(J)(1998)、HSFS(2004)およびSITTIG(4th, 2002)の蒸気を吸入すると肺水腫を起こすことがあるとの記述から、区分2(呼吸器系)とした。また、ACGIH(7th, 2001)のラットおよびマウスへの経口投与により麻酔作用が認められたとの記述から、区分3(麻酔作用)とした。

613	ヘキサクロシクロペンタジエン	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器)区分2(肝臓、腎臓)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器)の障害 臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ	EHC 120 (1991)、IRIS (2001)、ACGIH (7th, 2001)、NTP TR437 (1994)、ATSDR (1999)のヒト暴露例で重度の気道刺激性が認められたとの記述、ならびにIRIS (2001)およびATSDR (1999)のラットを用いた吸入暴露試験において肺水腫などの呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲で認められたとの記述から、区分1(呼吸器)とした。また、ATSDR (1999)のラットおよびウサギを用いた経口投与試験において肝臓および腎臓への影響が区分2のガ	区分1(呼吸器)区分2(肝臓、腎臓)	健康有害性	危険警告	臓器(呼吸器)の障害 臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ	EHC 120 (1991)、IRIS (2001)、ACGIH (7th, 2001)、NTP TR437 (1994)、ATSDR (1999)のヒト暴露例で重度の気道刺激性が認められたとの記述、ならびにIRIS (2001)およびATSDR (1999)のラットを用いた吸入暴露試験において肺水腫などの呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲で認められたとの記述から、区分1(呼吸器)とした。また、ATSDR (1999)のラットおよびウサギを用いた経口投与試験において肝臓および腎臓への影響が区分2のガ
613	ヘキサクロシクロペンタジエン	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1(呼吸器)区分2(腎臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(呼吸器)の障害 長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害のおそれ	EHC 120 (1991)、NTP TR437 (1994)、IRIS (2001)、ATSDR (1999)のラットおよびマウスを用いた13週間吸入暴露試験において呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述、ならびにラットおよびマウスを用いた経口投与試験において腎臓への影響が区分2のガイダンス値範囲の投与量で認められたとの記述から、区分1(呼吸器)、区分2(腎臓)とした。	区分1(呼吸器)区分2(腎臓)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(呼吸器)の障害 長期または反復暴露による臓器(腎臓)の障害のおそれ	EHC 120 (1991)、NTP TR437 (1994)、IRIS (2001)、ATSDR (1999)のラットおよびマウスを用いた13週間吸入暴露試験において呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述、ならびにラットおよびマウスを用いた経口投与試験において腎臓への影響が区分2のガイダンス値範囲の投与量で認められたとの記述から、区分1(呼吸器)、区分2(腎臓)とした。
616	メタノール	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、視覚器、全身毒性)区分3(気道刺激性、麻酔作用)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系、視覚器、全身毒性)の障害 呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ	ヒトで急性経口または吸入暴露により中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられるとの記述(EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (4th, 1994)および産衛学令(1993))や、ヒト暴露例で代謝性アシドーシスがみられるとの記述(ACGIH (7th, 2001)およびDFGOT vol.16 (2001))から、標的臓器は中枢神経系、視覚器および全身毒性と判断し、いずれも区分1とした。また、ラット反復吸入暴露試験では比較的低濃度で中枢神経系に影響が認められて	区分1(中枢神経系、視覚器、全身毒性)区分3(気道刺激性、麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、視覚器、全身毒性)の障害 呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ	ヒトで急性経口または吸入暴露により中枢神経系の抑制および視覚器障害がみられるとの記述(EHC 196 (1997)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol.16 (2001)、PATTY (4th, 1994)および産衛学令(1993))や、ヒト暴露例で代謝性アシドーシスがみられるとの記述(ACGIH (7th, 2001)およびDFGOT vol.16 (2001))から、標的臓器は中枢神経系、視覚器および全身毒性と判断し、いずれも区分1とした。また、ラット反復吸入暴露試験では比較的低濃度で中枢神経系に影響が認められて
616	メタノール	水生環境有害性(慢性)	区分外	—	—	—	難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L (PHYSPROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。	区分外	—	—	—	難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L (PHYSPROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
618	メチルエチルケトン	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系)、区分2(腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系)の障害 臓器(腎臓)の障害のおそれ 呼吸器へ刺激のおそれ	ヒトでの吸入暴露による試験では中枢神経系への影響はみられなかったとの記述(EHC 143 (1992)、DFGOT vol.12 (1999)、IRIS (2003)およびATSDR (1992))や、time estimation testの結果では対照群との間に統計学的に有意な差はなかったとの記述(EHC 143 (1992)およびPATTY (4th, 1994))がある。一方、ラットまたはマウスの吸入暴露試験では比較的低濃度で中枢神経系に影響が認められて	区分1(中枢神経系)、区分2(腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系)の障害 臓器(腎臓)の障害のおそれ 呼吸器へ刺激のおそれ	ヒトでの吸入暴露による試験では中枢神経系への影響はみられなかったとの記述(EHC 143 (1992)、DFGOT vol.12 (1999)、IRIS (2003)およびATSDR (1992))や、time estimation testの結果では対照群との間に統計学的に有意な差はなかったとの記述(EHC 143 (1992)およびPATTY (4th, 1994))がある。一方、ラットまたはマウスの吸入暴露試験では比較的低濃度で中枢神経系に影響が認められている(EHC 143 (1992)、PATTY (4th, 1994)およびATSDR (1992)のラットを用いた吸入暴露試験において、正方向反射の消失、運動失調などの麻酔作用を示唆する中枢神経系への影響および肺の病理変化が区分1のガイダンス値範囲の暴露濃度(1500ppm、30分)で認められたとの記述、DFGOT (vol.20, 2003)のヒトでの暴露例が肺水腫により死亡したとの記述から、区分1(肺)および区分3(麻酔作用)とした。
621	メチルメルカプタン【メタンチオール】	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(肺)区分3(麻酔作用)	健康有害性	危険警告	臓器(肺)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ACGIH (2004)、DFGOT (vol.20, 2003)、PATTY (4th, 1994)およびATSDR (1992)のラットを用いた吸入暴露試験において、正方向反射の消失、運動失調などの麻酔作用を示唆する中枢神経系への影響および肺の病理変化が区分1のガイダンス値範囲の暴露濃度(1500ppm、30分)で認められたとの記述、DFGOT (vol.20, 2003)のヒトでの暴露例が肺水腫により死亡したとの記述から、区分1(肺)および区分3(麻酔作用)とした。	区分1(肺)区分3(麻酔作用)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(肺)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ACGIH (2004)、DFGOT (vol.20, 2003)、PATTY (4th, 1994)およびATSDR (1992)のラットを用いた吸入暴露試験において、正方向反射の消失、運動失調などの麻酔作用を示唆する中枢神経系への影響および肺の病理変化が区分1のガイダンス値範囲の暴露濃度(1500ppm、30分)で認められたとの記述、DFGOT (vol.20, 2003)のヒトでの暴露例が肺水腫により死亡したとの記述から、区分1(肺)および区分3(麻酔作用)とした。
626	硫酸	急性毒性(吸入:ガス)	区分対象外	—	—	—	GHS定義による液体である。	分類対象外	—	—	—	GHS定義による液体である。
626	硫酸	生殖細胞変異原性	区分できない	—	—	—	In vivoでは生殖細胞、体細胞を用いたいずれの試験データもなく、In vivo 変異原性試験では単一指標(染色体異常試験)の試験系でのみ陽性の結果がある(ATSDR, 1998)が、他の指標では陰性であることから、分類できないとした。	分類できない	—	—	—	In vivoでは生殖細胞、体細胞を用いたいずれの試験データもなく、In vivo 変異原性試験では単一指標(染色体異常試験)の試験系でのみ陽性の結果がある(ATSDR, 1998)が、他の指標では陰性であることから、分類できないとした。
626	硫酸	急性毒性(吸入:蒸気)	区分対象外	—	—	—	データなし	分類できない	—	—	—	データなし
627	硫酸ジメチル	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器系、中枢神経系、肝臓、腎臓、心臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器系、中枢神経系、肝臓、腎臓、心臓)の障害(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	CERIハザードデータ集(1999)、EHC 48 (1985)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol4 (1992)およびEU-RAR (2002)のヒト暴露例に肺水腫や呼吸器障害がみられるとの記述、CERIハザードデータ集(1999)、EHC 48 (1985)およびACGIH (7th, 2001)のヒト暴露例で痙攣、昏睡、麻痺などの中枢神経系への影響がみられるとの記述、ならびにEHC 48 (1985)およびACGIH (7th, 2001)のヒト暴露例で遅発性	区分1(呼吸器系、中枢神経系、肝臓、腎臓、心臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(呼吸器系、中枢神経系、肝臓、腎臓、心臓)の障害(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	CERIハザードデータ集(1999)、EHC 48 (1985)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT vol4 (1992)およびEU-RAR (2002)のヒト暴露例に肺水腫や呼吸器障害がみられるとの記述、CERIハザードデータ集(1999)、EHC 48 (1985)およびACGIH (7th, 2001)のヒト暴露例で痙攣、昏睡、麻痺などの中枢神経系への影響がみられるとの記述、ならびにEHC 48 (1985)およびACGIH (7th, 2001)のヒト暴露例で遅発性の腎臓または肝臓、
633	アセチルサリチル酸	有機過酸化	分離対象外	—	—	—	有機化合物であるが-O-O-構造を有していない。	分類対象外	—	—	—	有機化合物であるが-O-O-構造を有していない。
636	アミド硫酸アンモニウム	可燃性／引火性エアゾール	分離対象外	—	—	—	エアゾール製品ではない。	分類対象外	—	—	—	エアゾール製品ではない。
639	亜硫酸水素ナトリウム	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激)	—	—	—	ヒトのエアゾール暴露で呼吸器刺激の情報があるので「区分3(気道刺激)」とした。	区分3(気道刺激)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトのエアゾール暴露で呼吸器刺激の情報があるので「区分3(気道刺激)」とした。
642	トリエチルアルミニウム	皮膚腐食性／刺激性	区分1	—	—	—	ヒトで皮膚刺激性(HSDB(2005))が報告され、EU Annex IでC;R34(やけどを引き起す)に分類されていることから、腐食性であると考えられ、区分1とした。	区分1	腐食性	危険	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷	ヒトで皮膚刺激性(HSDB(2005))が報告され、EU Annex IでC;R34(やけどを引き起す)に分類されていることから、腐食性であると考えられ、区分1とした。

643	3-(アルファ-アセトニルベンジル)-4-ヒドロキシクマリン【ワルファリン】	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(血液系、骨、皮膚)、区分2(肝臓、腎臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(血液系、骨、皮膚)の障害長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ	ヒトへのワルファリン反復暴露では、プロトロンビンの減少に基づく凝固異常が原因となって種々の器官に出血を生じ、さらにそれに伴う多くの症状が見られる。出血部位としては歯肉や鼻などの粘膜、胃腸管、肝臓、脳、脊髄硬膜外、尿路系、皮下など多くの器官・組織が記載されている(EHC 175 (1995), ACGIH (2001), PDs (2006), PIMs (1997))。これらの情報に基づき区分1(血液系)とした。ヒトではビタミンK濃度のわずかな低下が骨粗鬆症の原因となりうるので、抗凝固薬による低用量長期治療は骨代謝に影響を及ぼす可能性があるとの記載(EHC 175 (1995))に基づき区分1(骨)とした。動物においても、用量不明あるいは投与経路が皮下注射であることからガイダンス値との比較はできないが、骨量の減少(EHC 175 (1995))、海綿骨量減少による骨の脆弱化(HSDB (2005))等の記載がある。また、ヒトにおけるワルファリンの副作用の一つとして皮膚の壊死(「ワルファリン誘導皮膚壊死」)が知られているとの記載(EHC 175 (1995), PDs (2006))に基づき区分1(皮膚)とした。HSFS (2005)の、反復暴露は肝臓、腎臓をヒトでの吸入の情報(Nelsonら, Patty (5th, 2001))から「区分3」(気道刺激)を採用した。また経口摂取の影響(Ardeev, Patty (5th, 2001))は中枢神経抑制となっており、「区分3(麻酔)」にも該当するが、致死例もあるので「区分1」も採った。	区分1(血液系、骨、皮膚)、区分2(肝臓、腎臓)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(血液系、骨、皮膚)の障害長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ	ヒトへのワルファリン反復暴露では、プロトロンビンの減少に基づく凝固異常が原因となって種々の器官に出血を生じ、さらにそれに伴う多くの症状が見られる。出血部位としては歯肉や鼻などの粘膜、胃腸管、肝臓、脳、脊髄硬膜外、尿路系、皮下など多くの器官・組織が記載されている(EHC 175 (1995), ACGIH (2001), PDs (2006), PIMs (1997))。これらの情報に基づき区分1(血液系)とした。ヒトではビタミンK濃度のわずかな低下が骨粗鬆症の原因となりうるので、抗凝固薬による低用量長期治療は骨代謝に影響を及ぼす可能性があるとの記載(EHC 175 (1995))に基づき区分1(骨)とした。動物においても、用量不明あるいは投与経路が皮下注射であることからガイダンス値との比較はできないが、骨量の減少(EHC 175 (1995))、海綿骨量減少による骨の脆弱化(HSDB (2005))等の記載がある。また、ヒトにおけるワルファリンの副作用の一つとして皮膚の壊死(「ワルファリン誘導皮膚壊死」)が知られているとの記載(EHC 175 (1995), PDs (2006))に基づき区分1(皮膚)とした。HSFS (2005)の、反復暴露は肝臓、腎臓をヒトでの吸入の情報(Nelsonら, Patty (5th, 2001))から「区分3」(気道刺激)を採用した。また経口摂取の影響(Ardeev, Patty (5th, 2001))は中枢神経抑制となっており、「区分3(麻酔)」にも該当するが、致死例もあるので「区分1」も採った。
651	イソペンチルアルコール【イソアミルアルコール】	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系) 区分3(麻酔・気道刺激)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系)の障害呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ	ヒトでの吸入の情報(Nelsonら, Patty (5th, 2001))から「区分3」(気道刺激)を採用した。また経口摂取の影響(Ardeev, Patty (5th, 2001))は中枢神経抑制となっており、「区分3(麻酔)」にも該当するが、致死例もあるので「区分1」も採った。	区分1(中枢神経系) 区分3(麻酔・気道刺激)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系)の障害呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ	ヒトでの吸入の情報(Nelsonら, Patty (5th, 2001))から「区分3」(気道刺激)を採用した。また経口摂取の影響(Ardeev, Patty (5th, 2001))は中枢神経抑制となっており、「区分3(麻酔)」にも該当するが、致死例もあるので「区分1」も採った。
660	インデン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	吸入：区分2(肝臓、腎臓、脾臓)、区分3(気道刺激)	健康有害性	警告	臓器(肝臓、腎臓、脾臓)の障害のおそれ	ヒト吸入暴露および動物吸入試験で、肝臓、腎臓、脾臓への影響が見られているが Priority 2 の文献なので「区分2」とした。気道刺激も示唆されているので「区分3」とした。	吸入：区分2(肝臓、腎臓、脾臓)、区分3(気道刺激)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(肝臓、腎臓、脾臓)の障害のおそれ(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒト吸入暴露および動物吸入試験で、肝臓、腎臓、脾臓への影響が見られているが Priority 2 の文献なので「区分2」とした。気道刺激も示唆されているので「区分3」とした。
662	エタノール	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓)、区分2(神経)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害長期または反復暴露による臓器(神経)の障害のおそれ	「ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての臓器に障害を起こすが、最も悪影響を与える臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る」(DFGOT (1996))の記載に基づき区分1(肝臓)とした。また、「アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)」(HSDB, (2003))の記載に	区分1(肝臓)、区分2(神経)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害長期または反復暴露による臓器(神経)の障害のおそれ	「ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての臓器に障害を起こすが、最も悪影響を与える臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化を経て肝硬変に至る」(DFGOT (1996))の記載に基づき区分1(肝臓)とした。また、「アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)」(HSDB, (2003))の記載に基づき区分2(神経)とし
662	エタノール	水生環境有害性(慢性)	区分外	—	—	—	難水溶性でなく(水溶解度=1.00×106mg/L(PHYSROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。	区分外	—	—	—	難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L(PHYSROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
667	エチルセカンダリベンチルケトン(「Ethyl amyl ketone, CAS No.541-85-5」の慣用名として分類した。)	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激性、麻酔性)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ラット、マウスでの気道刺激性の症状報告(ACGIH(2001), PATTY (5th, 2001))およびヒトでの気道刺激性の報告(ACGIH(2001), PATTY (5th, 2001), ICSC(2001), HSFS (1999), SITTING (4th, 2002))に基づき区分3(気道刺激性)に分類した。また、ラットでの運動失調、活動性低下、昏睡が見られたが回復したとの報告(ACGIH(2001))およびヒトでの頭痛、嘔吐、めまい、ふらつき、意識喪失を引き起すとの報告(ACGIH(2001))。	区分3(気道刺激性、麻酔性)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ(麻酔作用)眠気又はめまいのおそれ	ラット、マウスでの気道刺激性の症状報告(ACGIH(2001), PATTY (5th, 2001), ICSC(2001), HSFS (1999), SITTING (4th, 2002))に基づき区分3(気道刺激性)に分類した。また、ラットでの運動失調、活動性低下、昏睡が見られたが回復したとの報告(ACGIH(2001))およびヒトでの頭痛、嘔吐、めまい、ふらつき、意識喪失を引き起すとの報告(ACGIH(2001))。
673	エチレングリコールモノノルマルブチルエーテル【ブチルセロソルブ】	吸引性呼吸器有害性	分類対象外	—	—	—	データなし。	分類できない	—	—	—	データなし。
674	2-エトキシ-2, 2'-ジメチルエタン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分3(麻酔性)	—	—	—	マウス試験で麻酔性がみられたこと(2000))およびヒト健康ボランティアにて2時間吸入ばく露させた試験で用量依存性が有意ではないが、めまいや頭痛がみられたこと(ACGIH(2002))に基づき、区分3(麻酔性)とした。	区分3(麻酔性)	感嘆符	警告	(麻酔作用)眠気又はめまいのおそれ	マウス試験で麻酔性がみられたこと(2000))およびヒト健康ボランティアにて2時間吸入ばく露させた試験で用量依存性が有意ではないが、めまいや頭痛がみられたこと(ACGIH(2002))に基づき、区分3(麻酔性)とした。
683	塩素化カンフェン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、肝臓)、区分3(気道刺激)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系、肝臓)の障害	ヒトで中枢神経系への影響(ACGIH (2001))、ラットで肝臓への影響(EHC 45 (1984))が述べられているので、それぞれ「区分1」とした。EUでR37を指定しているので「区分3(気道刺激)」を加えた。	区分1(中枢神経系、肝臓)、区分3(気道刺激)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、肝臓)の障害(麻酔作用)眠気又はめまいのおそれ(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトで中枢神経系への影響(ACGIH (2001))、ラットで肝臓への影響(EHC 45 (1984))が述べられているので、それぞれ「区分1」とした。EUでR37を指定しているので「区分3(気道刺激)」を加えた。
696	オルトセカンダリブチルフェノール	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激)	—	—	—	ヒトについて呼吸器刺激の記述がある(ACGIH (2001))ので、「区分3(気道刺激)」とした。	区分3(気道刺激)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトについて呼吸器刺激の記述がある(ACGIH (2001))ので、「区分3(気道刺激)」とした。
699	ガソリン	標的臓器／ 全身毒性(単回暴露)	区分1(肺、腎臓)、区分3(麻酔性)	健康有害性	危険	臓器(肺、腎臓)の障害眠気やめまいのおそれ	ヒトで大量の経口摂取、または高濃度での吸入ばく露により、肺炎(PATTY (5th, 2001))、腎障害(ATSDR (1995))を起こすとの記載により、区分1(呼吸器、腎臓)とした。また、ヒトに対して吸入暴露で昏睡、麻酔性があるとの記載(PATTY (5th, 2001)、ATSDR (1995))により、区分3(麻酔性)とした。	区分1(肺、腎臓)、区分3(麻酔性)	健康有害性 感嘆符	危険警告	臓器(肺、腎臓)の障害眠気やめまいのおそれ	ヒトで大量の経口摂取、または高濃度での吸入ばく露により、肺炎(PATTY (5th, 2001))、腎障害(ATSDR (1995))を起こすとの記載により、区分1(呼吸器、腎臓)とした。また、ヒトに対して吸入暴露で昏睡、麻酔性があるとの記載(PATTY (5th, 2001)、ATSDR (1995))により、区分3(麻酔性)とした。
699	ガソリン	標的臓器／ 全身毒性(反復暴露)	区分1(神経)、区分2(血管)	健康有害性	危険	長期ないし反復暴露による臓器(神経)の障害長期ないし反復暴露による臓器(血管)の障害のおそれ	ヒトでガソリン中のC4～C7炭化水素が心筋の感作と急性の中枢抑制、呼吸不全を起こすことがあるとの記載(PATTY (5th, 2001))に基づき区分1(神経)とした。ラット長期吸入試験で血管系の萎縮、壊死が観察されている(PATTY (5th, 2001))ので区分2(血管)とした。なお、ラットを用いたガソリンの反復暴露試験で観察されるラット雄の腎毒性はラット雄特有の症状であり、ヒトには適用されな	区分1(神経)、区分2(血管)	健康有害性	危険警告	長期ないし反復暴露による臓器(神経)の障害長期ないし反復暴露による臓器(血管)の障害のおそれ	ヒトでガソリン中のC4～C7炭化水素が心筋の感作と急性の中枢抑制、呼吸不全を起こすことがあるとの記載(PATTY (5th, 2001))に基づき区分1(神経)とした。ラット長期吸入試験で血管系の萎縮、壊死が観察されている(PATTY (5th, 2001))ので区分2(血管)とした。なお、ラットを用いたガソリンの反復暴露試験で観察されるラット雄の腎毒性はラット雄特有の症状であり、ヒトには適用されない。(IUCLID (2000))

701	カルシウムシアナミド	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(全 身毒性) 区分3(気 道刺激性)	健康有害性	警告	臓器(全身毒性)の 障害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激の おそれ	ラット経皮急性毒性試験において、中毒症状として自発運動量減少、横たわり、不整呼吸、振顫、体温低下、貧血、歩行失調、呼吸緩除が認められたが(農業登録申請資料(2000年))、用量との関連が明確ではなく、本試験の無毒性量は、雄2000mg/kg(純度換算値1172mg/kg)、雌1000mg/kg(純度換算値586mg/kg)とされていること、加えて標的臓器を特定することは困難であることから、概ね区分2のガイダンス値における所見と考え、区分2(全身毒性)とした。また、ラット吸入急性毒性試験において、呼吸	区分2(全 身毒性) 区分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(全身毒性)の 障害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激の おそれ	ラット経皮急性毒性試験において、中毒症状として自発運動量減少、横たわり、不整呼吸、振顫、体温低下、貧血、歩行失調、呼吸緩除が認められたが(農業登録申請資料(2000年))、用量との関連が明確ではなく、本試験の無毒性量は、雄2000mg/kg(純度換算値1172mg/kg)、雌1000mg/kg(純度換算値586mg/kg)とされていること、加えて標的臓器を特定することは困難であることから、概ね区分2のガイダンス値における所見と考え、区分2(全身毒性)とした。また、ラット吸入急性毒性試験において、呼吸道の炎
712	クロロフェノール	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	o-体:区分1 (中枢神経 系)、区分3 (気道刺激 性)、m-体: 分類できな い、p-体:区 分1(中枢神 経系)、区 分3(気道刺 激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激の おそれ	o-体:区分1のガイダンス値範囲内の用量で、ラットおよびマウスにおいて後弯姿勢、毛の逆立ち、興奮、呼吸促進作用、眼刺激の徴候、唾液過多、振せん、けいれんが記載され(ATSDR(1999)、RTECS(2004)、IUCLID(2000))、ヒトではしん、脱力感、痙攣が記載されている(ICSC(J)(1999))。これらに基づき、区分1(中枢神経系)とした。ラットで鼻粘膜の刺激が記載され(IUCLID(2000))、ヒトで咳、息切れ、咽頭痛が記載されている(ICSC(J)(1999))ことに	o-体:区分1 (中枢神経 系)、区分3 (気道刺激 性)、m-体: 分類できな い、p-体:区 分1(中枢神 経系)、区 分3(気道刺 激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激の おそれ	o-体:区分1のガイダンス値範囲内の用量で、ラットおよびマウスにおいて後弯姿勢、毛の逆立ち、興奮、呼吸促進作用、眼刺激の徴候、唾液過多、振せん、けいれんが記載され(ATSDR(1999)、RTECS(2004)、IUCLID(2000))、ヒトではしん、脱力感、痙攣が記載されている(ICSC(J)(1999))。これらに基づき、区分1(中枢神経系)とした。ラットで鼻粘膜の刺激が記載され(IUCLID(2000))、ヒトで咳、息切れ、咽頭痛が記載されている(ICSC(J)(1999))ことに
716	軽油	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(腎 臓)、区分3 (気道刺激 性、麻酔 性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激の おそれ	ヒトで軽油を大量に暴露した症例において進行性の乏尿、急性の尿管管壊死の報告(EHC(1996)、ATSDR(1995))に基づき区分1(腎臓)、ヒトでケロシン経口摂取による嗜眠、昏睡の調査報告(ATSDR(1995))に基づき区分3(麻酔性)とした。また、気道を刺激する(ICSC(2004))との記載に基づき区分3(気道刺激性)とした。 なお、吸引による肺障害は吸引呼吸器有害性の項目で分類した。	区分1(腎 臓)、区分3 (気道刺激 性、麻酔 性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激の おそれ (麻酔作用)眠気又 はめまいのおそれ	ヒトで軽油を大量に暴露した症例において進行性の乏尿、急性の尿管管壊死の報告(EHC(1996)、ATSDR(1995))に基づき区分1(腎臓)、ヒトでケロシン経口摂取による嗜眠、昏睡の調査報告(ATSDR(1995))に基づき区分3(麻酔性)とした。また、気道を刺激する(ICSC(2004))との記載に基づき区分3(気道刺激性)とした。 なお、吸引による肺障害は吸引呼吸器有害性の項目で分類した。
720	固形パラフィン	眼に対する重 篤な損傷性/ 眼刺激性	区分2B	—	—	—	ウサギでslightly irritant(IUCLID(2000))およびmild irritant(RTECS(2004))の結果に基づき区分2Bとした。	区分2B	—	警告	眼刺激	ウサギでslightly irritant(IUCLID(2000))およびmild irritant(RTECS(2004))の結果に基づき区分2Bとした。
722	コールタール	発がん性	区分1	—	—	—	IARC・1、ACGIH・A1、産衛学会・第1群など、既知のヒト発がん物質と評価されているので「区分1」とした。	区分1	健康有害性	危険	発がんのおそれ	IARC・1、ACGIH・A1、産衛学会・第1群など、既知のヒト発がん物質と評価されているので「区分1」とした。
722	コールタール	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神 経系)、区 分3(気 道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の 障害 呼吸器への刺激 のおそれ	ヒトの神経毒がある(Patty(5th, 2001))との記述から「区分1(神経系)」とし、別の文献に気道刺激が述べられている(Patty(5th, 2001))ので「区分3(気道刺激性)」とした。	区分1(神 経系)、区 分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(神経系)の障 害 呼吸器への刺激の おそれ	ヒトの神経毒がある(Patty(5th, 2001))との記述から「区分1(神経系)」とし、別の文献に気道刺激が述べられている(Patty(5th, 2001))ので「区分3(気道刺激性)」とした。
724	酢酸	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(血 液)、区分 2(呼吸器 系)	健康有害性	危険	臓器(血液)の障害 臓器(呼吸器系)の 障害のおそれ	ヒトにおいて、播種性血管内凝固障害、重度の溶血のような血液への影響が報告されている(PATTY(5th, 2001))ので区分1(血液)とした。また、ヒトで吸入暴露による鼻、上気道、肺に対する刺激性の記載(PATTY(5th, 2001))の他に、「ヒトが蒸気を吸入すると気道腐食性、肺水腫が見られることがある」(ICSC(J)(1997))記述があるので区分2(呼吸器系)とした。	区分1(血 液)、区分 2(呼吸器 系)	健康有害性	危険 警告	臓器(血液)の障害 臓器(呼吸器系)の 障害のおそれ	ヒトにおいて、播種性血管内凝固障害、重度の溶血のような血液への影響が報告されている(PATTY(5th, 2001))ので区分1(血液)とした。また、ヒトで吸入暴露による鼻、上気道、肺に対する刺激性の記載(PATTY(5th, 2001))の他に、「ヒトが蒸気を吸入すると気道腐食性、肺水腫が見られることがある」(ICSC(J)(1997))記述があるので区分2(呼吸器系)とした。
733	酢酸sec-ベンチル	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(呼 吸器系)、 区分3(麻 酔作用)	健康有害性	警告	臓器(呼吸器系)の 障害のおそれ (麻酔作用)眠気 またはめまいの おそれ	ヒトにおいて肺(RTECS(2001))への影響がある。モルモットの吸入試験において区分2のガイダンス値の範囲内において肺に対する影響が見られる(ACGIH(2001))。また、ヒトにおいても(DFGOT vol.11(1998))、動物試験においても(ACGIH(2001))気道刺激性が見られることから、区分2(呼吸器系)とする。動物での吸入試験において麻酔作用(ACGIH(2001))、嗜眠(RTECS(2004))の影響があることが報告されているので区分3(麻酔作用)にも分類する。	区分2(呼 吸器系)、 区分3(麻 酔作用)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(呼吸器系)の 障害のおそれ (麻酔作用)眠気ま たはめまいの おそれ	ヒトにおいて肺(RTECS(2001))への影響がある。モルモットの吸入試験において区分2のガイダンス値の範囲内において肺に対する影響が見られる(ACGIH(2001))。また、ヒトにおいても(DFGOT vol.11(1998))、動物試験においても(ACGIH(2001))気道刺激性が見られることから、区分2(呼吸器系)とする。動物での吸入試験において麻酔作用(ACGIH(2001))、嗜眠(RTECS(2004))の影響があることが報告されているので区分3(麻酔作用)にも分類する。
733	酢酸sec-ベンチル	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(視 神経)、区 分2(脾臓、 腎臓、肝 臓)	健康有害性	危険	臓器(視神経)の 障害 長期または反復暴 露による臓器(脾 臓、腎臓、肝臓)の 障害のおそれ	長期または反復暴露による臓器(視神経)の障害 長期または反復暴露による臓器(脾臓、腎臓、肝臓)の障害のおそれ	区分1(視 神経)、区 分2(脾臓、 腎臓、肝 臓)	健康有害性	危険 警告	臓器(視神経)の障 害 長期または反復暴 露による臓器(脾 臓、腎臓、肝臓)の 障害のおそれ	長期または反復暴露による臓器(視神経)の障害 長期または反復暴露による臓器(脾臓、腎臓、肝臓)の障害のおそれ
735	酢酸メチル	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神 経系)、区 分3(気 道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の 障害 呼吸器への刺激 のおそれ	ヒトに気道、咽頭の刺激性(PATTY(5th, 2002))、(DFGOT vol.18(2002))、(ACGIH(2001))、(EU-RAR(2003))の記載により区分3(気道刺激性)とした。職業暴露を受けたヒトにめまい(giddiness, vertigo)、頭痛、不安定な歩行及び両目の視覚消失、視神経の萎縮、左目の暗点拡大、右目の視野狭窄、麻酔作用(EU-RAR(2003))の記載により区	区分1(神 経系)、区 分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(神経系)の障 害 呼吸器への刺激の おそれ	ヒトに気道、咽頭の刺激性(PATTY(5th, 2002))、(DFGOT vol.18(2002))、(ACGIH(2001))、(EU-RAR(2003))の記載により区分3(気道刺激性)とした。職業暴露を受けたヒトにめまい(giddiness, vertigo)、頭痛、不安定な歩行及び両目の視覚消失、視神経の萎縮、左目の暗点拡大、右目の視野狭窄、麻酔作用(EU-RAR(2003))の記載により区分1(神経系)と
738	酸化アルミニウム	生殖毒性	区分できな	—	—	—	データがなく分類できない。	分類できな	—	—	—	データがなく分類できない。
739	酸化カルシウム	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(呼吸 器系)、区 分2(全身毒 性、消化 器)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器系)の 障害 臓器(全身毒性、消 化器)の障害の おそれ	粉塵吸入は気道の炎症(ACGIH(2001))、肺炎(HSDB(2005))を起こすとの記載より区分1(呼吸器系)に、誤飲すると脈が速く、弱くなり、呼吸が速く、浅くなり、体温が下がり、声門腫により呼吸をしにくくなりショック状態になる。食道、胃の穿孔も生じる(HSDB(2005))の記載があるが、Priority2であるため区分2(全身毒性、消化器)に分類し	区分1(呼吸 器系)、区 分2(全身毒 性、消化 器)	健康有害性	危険 警告	臓器(呼吸器系)の 障害 臓器(全身毒性、消 化器)の障害の おそれ	粉塵吸入は気道の炎症(ACGIH(2001))、肺炎(HSDB(2005))を起こすとの記載より区分1(呼吸器系)に、誤飲すると脈が速く、弱くなり、呼吸が速く、浅くなり、体温が下がり、声門腫により呼吸をしにくくなりショック状態になる。食道、胃の穿孔も生じる(HSDB(2005))の記載があるが、Priority2であるため区分2(全身毒性、消化器)に分類した。

751	2-シアノアクリル酸メチル	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	2B	—	—	—	ウサギ眼への刺激影響は7日以内に回復し(CICAD,2001)、ヒトでも可逆性の眼刺激が報告されている(ACGIH,2001)。よって、区分2Bとした。	区分2B	—	警告	眼刺激	ウサギ眼への刺激影響は7日以内に回復し(CICAD,2001)、ヒトでも可逆性の眼刺激が報告されている(ACGIH,2001)。よって、区分2Bとした。
756	ジイソブチルケトン	酸化性液体	分類対象外	—	—	—	弗素および塩素は含まない。酸素は含むが炭素としか結合していない。	分類対象外	—	—	—	弗素および塩素は含まない。酸素は含むが炭素としか結合していない。
760	ジエチルケトン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経)、区分3(麻醉性)、区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経)の障害(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	吸入暴露により昏睡(PATY(5th,2001))、昏睡、めまい、頭痛、失調、中枢神経の抑制を起こす(HSDB(2005)の記載より区分1(中枢神経)、区分3(麻醉性)に、及び気道を刺激する(ICSC(1996))、(HSDB(2005))、(ACGIH(2001))の記載より区分3(気道刺激性)に分類した。	区分1(中枢神経)、区分3(麻醉性)、区分3(気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経)の障害(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ(麻醉作用)眠気又はめまいのおそれ	吸入暴露により昏睡(PATY(5th,2001))、昏睡、めまい、頭痛、失調、中枢神経の抑制を起こす(HSDB(2005)の記載より区分1(中枢神経)、区分3(麻醉性)に、及び気道を刺激する(ICSC(1996))、(HSDB(2005))、(ACGIH(2001))の記載より区分3(気道刺激性)に分類した。
763	シクロヘキサノール	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激性および麻醉性)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	気道刺激性(Patty(5th,2001))及び麻醉性(ACGIH,2001)がそれぞれみられるので、区分3(気道刺激性、麻醉性)とした。	区分3(気道刺激性および麻醉性)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ(麻醉作用)眠気又はめまいのおそれ	気道刺激性(Patty(5th,2001))及び麻醉性(ACGIH,2001)がそれぞれみられるので、区分3(気道刺激性、麻醉性)とした。
763	シクロヘキサノール	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1(自律神経系)、区分2(肝臓、腎臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(自律神経系)の障害長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ	ヒトで自律神経系の不調がみられた(ACGIH,2001)ことにより区分1(自律神経系)とした。また、区分2のガイダンス値相当の用量にて軽度の肝臓、腎臓変性がみられることから区分2(肝臓、腎臓)とした。	区分1(自律神経系)、区分2(肝臓、腎臓)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴露による臓器(自律神経系)の障害長期または反復暴露による臓器(肝臓、腎臓)の障害のおそれ	ヒトで自律神経系の不調がみられた(ACGIH,2001)ことにより区分1(自律神経系)とした。また、区分2のガイダンス値相当の用量にて軽度の肝臓、腎臓変性がみられることから区分2(肝臓、腎臓)とした。
764	シクロヘキサノン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(肝臓、脾臓、中枢神経系)区分2(肺)区分3(麻醉作用、気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(肝臓、脾臓、中枢神経系)の障害臓器(肺)の障害のおそれ(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ(麻醉作用)眠気またはめまいのおそれ	肝臓への影響がヒトで報告されている(DFGOT,vol.10,1998)ので区分1(肝臓)とした。ラットに認められた脾臓影響(4250ppm=19mg/L)(PATY,5th,2001)をガイダンス値と比して区分1(脾臓)とした。また、中枢神経系への影響(マウス(ACGIH,2003))についてはガイダンス値で評価し、区分1(中枢神経系)とし、肺への影響(マウス(ACGIH,2003))については区分2(肺)とした。また、動物での麻醉影響(ACGIH,2003)、(PATY,5th,2001)。D	区分1(肝臓、脾臓、中枢神経系)区分2(肺)区分3(麻醉作用、気道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(肝臓、脾臓、中枢神経系)の障害臓器(肺)の障害のおそれ(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ(麻醉作用)眠気またはめまいのおそれ	肝臓への影響がヒトで報告されている(DFGOT,vol.10,1998)ので区分1(肝臓)とした。ラットに認められた脾臓影響(4250ppm=19mg/L)(PATY,5th,2001)をガイダンス値と比して区分1(脾臓)とした。また、中枢神経系への影響(マウス(ACGIH,2003))についてはガイダンス値で評価し、区分1(中枢神経系)とし、肺への影響(マウス(ACGIH,2003))については区分2(肺)とした。また、動物での麻醉影響(ACGIH,2003)、(PATY,5th,2001)。D
773	1,3-ジクロロ-5,5-ジメチルイミダゾリジン-2,4-ジオン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激)	—	—	—	ヒトの症例で咳と胸の不快感(ACGIH(2001))がみられるので区分3(気道刺激)とした。	区分3(気道刺激)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトの症例で咳と胸の不快感(ACGIH(2001))がみられるので区分3(気道刺激)とした。
777	2,4-ジクロロフェノキシエチル硫酸ナトリウム	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2(全身毒性)区分3(気道刺激)	健康有害性	警告	臓器(全身毒性)の障害のおそれ	動物実験の報告は見出せなかったが、ヒトについて発作、昏睡、筋肉痙縮、弛緩、低血圧、はきけ、嘔吐、下痢、腹痛などが記載されている(HSDB(2005)、HSFS(2001))の「区分2(全身毒性)」とした。またICSCカード(1995)およびSitting(47th,2002)に気道刺激が記載されているので「区分3(気道刺激)」とした。	区分2(全身毒性)区分3(気道刺激)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(全身毒性)の障害のおそれ(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	動物実験の報告は見出せなかったが、ヒトについて発作、昏睡、筋肉痙縮、弛緩、低血圧、はきけ、嘔吐、下痢、腹痛などが記載されている(HSDB(2005)、HSFS(2001))の「区分2(全身毒性)」とした。またICSCカード(1995)およびSitting(47th,2002)に気道刺激が記載されているので「区分3(気道刺激)」とした。
789	ジニトロベンゼン	急性毒性(吸入:粉塵、ミスト)	分離できない	—	—	—	データがなく分類できない。	分類できない	—	—	—	データがなく分類できない。
791	ジノルマル-ブロピルケトン	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2	—	—	—	ウサギでの眼刺激性試験では、わずかな刺激性がある(slight irritation)(PATY(5th,2001) vol.6 p.283, RTECS(2004))との記述から、区分2とした。	区分2	感嘆符	警告	強い眼刺激	ウサギでの眼刺激性試験では、わずかな刺激性がある(slight irritation)(PATY(5th,2001) vol.6 p.283, RTECS(2004))との記述から、区分2とした。
794	ジベンゾイルペルオキシド	呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器感受性:分類できない、皮膚感受性:区分1	(呼吸器感受性)警告	(呼吸器感受性)警告	(呼吸器感受性)アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ	呼吸器感受性:データが無いので、分類できない。皮膚感受性:ヒトのマキシマイゼーション試験結果、および職業ばく露による疫学的研究で皮膚感受性が確認されている(SIDS,2002)。また、日本職業・環境アレルギー学会リストに皮膚感受性物質として掲載されている。よって区分1	呼吸器感受性:分類できない、皮膚感受性:区分1	(呼吸器感受性)警告	(呼吸器感受性)警告	(呼吸器感受性)アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ	呼吸器感受性:データが無いので、分類できない。皮膚感受性:ヒトのマキシマイゼーション試験結果、および職業ばく露による疫学的研究で皮膚感受性が確認されている(SIDS,2002)。また、日本職業・環境アレルギー学会リストに皮膚感受性物質として掲載されている。よって区分1とした。
796	N,N-ジメチルアニリン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(血液系、神経系)区分3(麻醉作用)	健康有害性	危険	臓器(血液系、神経系)の障害(麻醉作用)眠気またはめまいのおそれ	メヘモグロビンの生成に伴う症状がヒトで(ICSC(1998))、また区分1のガイダンス値内で、イヌ-ラットに見られている(ACGIH(2001)、DFGOT vol.3(1991))。更にヒトで神経障害と麻醉作用が観察されている(ICSC(1998)、ACGIH(2001))ので、「区分1(血液系、神経系)区分3(麻醉作用)」とし	区分1(血液系、神経系)区分3(麻醉作用)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(血液系、神経系)の障害(麻醉作用)眠気またはめまいのおそれ	メヘモグロビンの生成に伴う症状がヒトで(ICSC(1998))、また区分1のガイダンス値内で、イヌ-ラットに見られている(ACGIH(2001)、DFGOT vol.3(1991))。更にヒトで神経障害と麻醉作用が観察されている(ICSC(1998)、ACGIH(2001))ので、「区分1(血液系、神経系)区分3(麻醉作用)」とした。
812	水酸化セシウム	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激)	—	—	—	区分1、2にすべき症例報告は見出せなかった。Sitting(54th,2002)、HSFS(1998)に上部呼吸器(鼻、のど、気管)に対する刺激の記載がある。根拠・出典の不明確なデータシートの記載であるが、この物質は最強のアルカリなので、「区分3(気道刺激性)」を採った。	区分3(気道刺激)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	区分1、2にすべき症例報告は見出せなかった。Sitting(54th,2002)、HSFS(1998)に上部呼吸器(鼻、のど、気管)に対する刺激の記載がある。根拠・出典の不明確なデータシートの記載であるが、この物質は最強のアルカリなので、「区分3(気道刺激性)」を採った。
821	石油ベンジン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分3(麻醉性)	—	—	—	ラット吸入試験で暴露期間中は昏睡を示し、暴露停止後、数時間で回復したとの報告(Industrial Medicine(1970))に基づき区分3(麻醉性)とした。	区分3(麻醉性)	感嘆符	警告	(麻醉作用)眠気又はめまいのおそれ	ラット吸入試験で暴露期間中は昏睡を示し、暴露停止後、数時間で回復したとの報告(Industrial Medicine(1970))に基づき区分3(麻醉性)とした。
822	セスキ炭酸ナトリウム	吸引性呼吸器有害性	分類できない	—	—	—	データなし。	分類できない	—	—	—	データなし。

828	チオリン酸O,O-ジエチル-エチルチオエチル【シメトン】	水と接触して可燃性/引火性ガスを発生する物質および混合物	区部外	—	—	—	水溶解度が測定されている(ICSC(2002)、SRC(2005)、HSDB(2005))ことから、水中で安定と判定される。	区分外	—	—	—	水溶解度が測定されている(ICSC(2002)、SRC(2005)、HSDB(2005))ことから、水中で安定と判定される。
842	テトラヒドロフラン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2(神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	警告	臓器(神経系)の障害のおそれ、気道への刺激のおそれ	CERIハザードデータ集(1999)のラットの5000ppm3時間吸入暴露(4時間換算値12.7mg/L)でカタレプシー姿勢、昏睡、間代性痙攣、あえぎ呼吸、呼吸困難が認められたとの記述から、中等度の暴露濃度で神経系に影響があると考えられ、区分2とした。CERIハザードデータ集(1999)およびACGIH(7th, 2005)のヒトへの影響として粘膜への刺激性があるとの記述、およびSITTIG(47th, 2002)、ICSC(J)(1997)、HSDB(2005)および呼吸器:DFGOT(Vol.14, 2000)のヒトで呼吸器感作性およびアレルギー性鼻炎を示唆する症例報告が挙げられているが報告例が他にないことからデータ不足のため分類できない。皮膚:産衛学会勧告(1993)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT(Vol.14, 2000)、PATTY(4th, 1994)のヒトでの職業暴露における疫学的調査では皮膚感作性があるとの記述、ならびにDFGOT(Vol.14, 2000)のモルモットでのMaximization	区分2(神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(神経系)の障害のおそれ	CERIハザードデータ集(1999)のラットの5000ppm3時間吸入暴露(4時間換算値12.7mg/L)でカタレプシー姿勢、昏睡、間代性痙攣、あえぎ呼吸、呼吸困難が認められたとの記述から、中等度の暴露濃度で神経系に影響があると考えられ、区分2とした。CERIハザードデータ集(1999)およびACGIH(7th, 2005)のヒトへの影響として粘膜への刺激性があるとの記述、およびSITTIG(47th, 2002)、ICSC(J)(1997)、HSDB(2005)およびHSFS(1997)のヒトで呼吸器感作性およびアレルギー性鼻炎を示唆する症例報告が挙げられているが報告例が他にないことからデータ不足のため分類できない。皮膚:産衛学会勧告(1993)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT(Vol.14, 2000)、PATTY(4th, 1994)のヒトでの職業暴露における疫学的調査では皮膚感作性があるとの記述、ならびにDFGOT(Vol.14, 2000)のモルモットでのMaximization
849	テレピン油	呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器:分類できない皮膚:区分1	感嘆符	警告	吸入するとアレルギー性鼻炎を示唆する症例報告が挙げられているが報告例が他にないことからデータ不足のため分類できない。皮膚:産衛学会勧告(1993)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT(Vol.14, 2000)、PATTY(4th, 1994)のヒトでの職業暴露における疫学的調査では皮膚感作性があるとの記述、ならびにDFGOT(Vol.14, 2000)のモルモットでのMaximization	呼吸器:分類できない皮膚:区分1	(呼吸器感作性)感嘆符	(呼吸器感作性)警告	(呼吸器感作性)感嘆符	産衛学会勧告(1993)、ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)のヒトでの急性暴露により腎障害の発現および気道粘膜刺激性があるとの記述から、区分1(腎臓)および区分3(気道刺激性)とした。	産衛学会勧告(1993)、ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)のヒトでの急性暴露により腎障害の発現および気道粘膜刺激性があるとの記述から、区分1(腎臓)および区分3(気道刺激性)とした。
849	テレピン油	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(腎臓)の障害、呼吸器への刺激のおそれ	産衛学会勧告(1993)、ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)のヒトでの急性暴露により腎障害の発現および気道粘膜刺激性があるとの記述から、区分1(腎臓)および区分3(気道刺激性)とした。	区分1(腎臓)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(腎臓)の障害、呼吸器への刺激のおそれ	産衛学会勧告(1993)、ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)のヒトでの急性暴露により腎障害の発現および気道粘膜刺激性があるとの記述から、区分1(腎臓)および区分3(気道刺激性)とした。
852	灯油	引火性液体	分類できない(但し区分3または区分4)	炎	警告	引火性液体及び蒸気	UNRTDGでは区分3相当のPGIIIに分類されているが、既知情報では引火点の範囲が広く分布しているため、実試料について引火点を測定しなければ判定できない。尚、判定基準は以下の通りである。区分3: 23°C ≤ 引火点 ≤ 60°C 区分4: 60°C < 引火点 ≤ 93°C	分類できない(但し区分3または区分4)	炎	警告	引火性液体及び蒸気、可燃性液体	UNRTDGでは区分3相当のPGIIIに分類されているが、既知情報では引火点の範囲が広く分布しているため、実試料について引火点を測定しなければ判定できない。尚、判定基準は以下の通りである。区分3: 23°C ≤ 引火点 ≤ 60°C 区分4: 60°C < 引火点 ≤ 93°C
871	二亜硫酸ナトリウム	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激)	—	—	—	ヒトのエアゾール暴露で呼吸器刺激の情報があるので「区分3(気道刺激)」とした。	区分3(気道刺激)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトのエアゾール暴露で呼吸器刺激の情報があるので「区分3(気道刺激)」とした。
880	o-ニトロトルエン	急性毒性(吸入:ガス)	区分対象外	—	—	—	GHSの定義による液体である。	分類対象外	—	—	—	GHSの定義による液体である。
900	ビス(2-クロロエチル)エーテル	自己発熱性物質および混合物	分類できない(但し区分3または区分4)	—	—	—	液体状の物質に適した試験方法が確立していない。	分類できない	—	—	—	液体状の物質に適した試験方法が確立していない。
909	フェノチアジン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(肝臓、腎臓、血液、神経系、循環器系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(肝臓、腎臓、血液、神経系、循環器系)の障害(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ACGIH(7th, 2001)に、急性暴露により肝臓および腎臓の障害、溶血性貧血、腹部痙攣、頻脈を起こすとの記述があり、SITTIG(2002)にも肝障害、溶血性貧血、運動神経への影響、不整脈、腎臓障害があるとの記述があることから、標的臓器は肝臓、腎臓、血液、神経系および循環器系と判断し、いずれも区分1とした。また、ICSC(J)(1998)に気道を刺激するとの記述があり、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(肝臓、腎臓、血液、神経系)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(肝臓、腎臓、血液、神経系、循環器系)の障害(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ACGIH(7th, 2001)に、急性暴露により肝臓および腎臓の障害、溶血性貧血、腹部痙攣、頻脈を起こすとの記述があり、SITTIG(2002)にも肝障害、溶血性貧血、運動神経への影響、不整脈、腎臓障害があるとの記述があることから、標的臓器は肝臓、腎臓、血液、神経系および循環器系と判断し、いずれも区分1とした。また、ICSC(J)(1998)に気道を刺激するとの記述があり、区分3(気道刺激性)とした。
928	イソプロピルアルコール	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、腎臓、全身毒性)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系、腎臓、全身毒性)の障害、呼吸器への刺激のおそれ	PATTY(1994)、ACGIH(2003)のラットでの吸入暴露による活動性の低下があるとの記述、およびACGIH(2003)、CERIハザードデータ集(1999)のヒトでの経口摂取による急性中毒では消化管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経症状、腎臓障害が認められており、標的臓器は中枢神経系、腎臓および全身毒性と判断し、区分1とした。また、ACGIH(2003)のヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性があると判断し、区分3とした。	区分1(中枢神経系、腎臓、全身毒性)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系、腎臓、全身毒性)の障害、呼吸器への刺激のおそれ	PATTY(1994)、ACGIH(2003)のラットでの吸入暴露による活動性の低下があるとの記述、およびACGIH(2003)、CERIハザードデータ集(1999)のヒトでの経口摂取による急性中毒では消化管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経症状、腎臓障害が認められており、標的臓器は中枢神経系、腎臓および全身毒性と判断し、区分1とした。また、ACGIH(2003)のヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性があると判断し、区分3とした。
944	ペータープロピオラクトン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激)	感嘆符	警告	呼吸器への刺激のおそれ、眠気やめまいのおそれ	気道を刺激するとの記述(ICSC(J)(1997)およびSITTIG(4th, 2002))、ならびに気道を刺激する可能性を示唆する記述(HSFS(2002))から、区分3とした。	区分3(気道刺激)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	気道を刺激するとの記述(ICSC(J)(1997)およびSITTIG(4th, 2002))、ならびに気道を刺激する可能性を示唆する記述(HSFS(2002))から、区分3とした。
957	ペンタボラン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系)、区分3(麻酔作用、気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系)の障害(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)、HSDB(2005)、HSFS(2000)、SITTIG(4th, 2002)に人で低濃度暴露では眠気、めまい、頭痛、不安、精神的集中力低下、吐き気などの麻酔作用に伴う症状が認められ、高濃度暴露では、興奮、方向感覚麻痺、判断力低下、記憶喪失、錯乱、筋肉痛、震盪、痙攣、顔、首、体幹、四肢の筋肉硬直、反弓緊張、昏睡などの中枢神経系症状が記述されており、区分1(中枢神経系)および区分3(麻酔作用)とした。また、	区分1(中枢神経系)、区分3(麻酔作用、気道刺激性)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(中枢神経系)の障害(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)、HSDB(2005)、HSFS(2000)、SITTIG(4th, 2002)に人で低濃度暴露では眠気、めまい、頭痛、不安、精神的集中力低下、吐き気などの麻酔作用に伴う症状が認められ、高濃度暴露では、興奮、方向感覚麻痺、判断力低下、記憶喪失、錯乱、筋肉痛、震盪、痙攣、顔、首、体幹、四肢の筋肉硬直、反弓緊張、昏睡などの中枢神経系症状が記述されており、区分1(中枢神経系)および区分3(麻酔作用)とした。また、HSFS(2000)、SITTIG

964	ミネラルスピリット(ミネラルシンナー、ペトロリウムスピリット、ホワイトスピリット及びミネラルターベンを含む)	引火性液体	分類できない(但し区分1-3)	炎	危険	極めて引火性の高い液体および蒸気	製造の由来によって成分および留分範囲が異なるため、引火点が特定できない。また、国内法によって本物質に適用されている分類においても包装等級が1-3に及んでいる。よって、実試料について引火点および初留点(沸点で代用可)を測定しなければ判定できない。尚、判定基準は以下の通りである。 区分1:引火点<23°C、沸点(初留点)≤35°C、区分2:引火点<23°C、沸点(初留点)>35°C、区分3:23°C≤引火点≤	分類できない(但し区分1-3)	炎	危険警告	極めて引火性の高い液体および蒸気引火性の高い液体および蒸気引火性液体および蒸気	製造の由来によって成分および留分範囲が異なるため、引火点が特定できない。また、国内法によって本物質に適用されている分類においても包装等級が1-3に及んでいる。よって、実試料について引火点および初留点(沸点で代用可)を測定しなければ判定できない。尚、判定基準は以下の通りである。 区分1:引火点<23°C、沸点(初留点)≤35°C、区分2:引火点<23°C、沸点(初留点)>35°C、区分3:23°C≤引火点≤
966	メタ-キシリレンジアミン	急性毒性(経皮)	区分4	感嘆符	警告	飲み込むと有害	ウサギLD50値:2000mg/kg(ACGIH 7th, 2001)に基づき、区分4とした。	区分4	感嘆符	警告	皮膚に接触すると有害	ウサギLD50値:2000mg/kg(ACGIH 7th, 2001)に基づき、区分4とした。
974	メチルイソブチルケトン	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1(全身毒性)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器の障害	産衛学会勧告(1993)p237、EHC 117(1990)、DFGOT vol.13(1999)、CERI/ハザードデータ集(2000)のヒトでの反復暴露では脱力感、頭痛、眼の灼熱感、胃痛、悪心嘔吐、咽頭痛などの標的臓器を特定できない種々の症状が認められたとの記述から全身毒性があると判断し、区分1とした。	区分1(全身毒性)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(全身毒性)の障害	産衛学会勧告(1993)p237、EHC 117(1990)、DFGOT vol.13(1999)、CERI/ハザードデータ集(2000)のヒトでの反復暴露では脱力感、頭痛、眼の灼熱感、胃痛、悪心嘔吐、咽頭痛などの標的臓器を特定できない種々の症状が認められたとの記述から全身毒性があると判断し、区分1とした。
984	メチルノルマルブチルケトン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分3(気道刺激性)	感嘆符	警告	眠気またはめまいのおそれ	ICSC(J)(1989)に眼、気道を刺激するとあることから区分3(気道刺激性)とした。	区分3(気道刺激性)	感嘆符	警告	(気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ICSC(J)(1989)に眼、気道を刺激するとあることから区分3(気道刺激性)とした。
984	メチルノルマルブチルケトン	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1(末梢神経系)区分2(中枢神経系、精巣)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(末梢神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(中枢神経系、精巣)の障害のおそれ	ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)、産衛学会勧告(1993)およびATSDR(1992)のヒト職業暴露例で末梢神経障害が認められているとの記述から、標的臓器は末梢神経系と判断し、区分1とした。ATSDR(1992)の実験動物で中枢神経系障害が認められたとの記述、およびATSDR(1992)のラットで吸入暴露により一般毒性が発現する用量で精巣の萎縮が認められたとの記述から、標的臓器は中枢神経系と精巣であると判断し、区分2とした。	区分1(末梢神経系)区分2(中枢神経系、精巣)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(末梢神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(中枢神経系、精巣)の障害のおそれ	ACGIH(7th, 2001)、PATTY(4th, 1994)、産衛学会勧告(1993)およびATSDR(1992)のヒト職業暴露例で末梢神経障害が認められているとの記述から、標的臓器は末梢神経系と判断し、区分1とした。ATSDR(1992)の実験動物で中枢神経系障害が認められたとの記述、およびATSDR(1992)のラットで吸入暴露により一般毒性が発現する用量で精巣の萎縮が認められたとの記述から、標的臓器は中枢神経系と精巣であると判断し、区分2とした。
986	メチルピニルケトン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器、腎臓)区分3(麻酔作用)	健康有害性感嘆符	危険	臓器(呼吸器、腎臓)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	DFGOT (vol.9, 1998)のラット、ウサギ、ネコ、モルモットおよびマウスを用いた吸入暴露試験において呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述、およびDFGOT (vol.9, 1998)のウサギおよびネコを用いた経口投与試験において腎臓の損傷が区分1のガイダンス値範囲の用量で認められたとの記述から、区分1(呼吸器、腎臓)とした。また、DFGOT (vol.9, 1998)のウサギを用いた吸入暴露試験においてflexion reflex抑制が認めら	区分1(呼吸器、腎臓)区分3(麻酔作用)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(呼吸器、腎臓)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	DFGOT (vol.9, 1998)のラット、ウサギ、ネコ、モルモットおよびマウスを用いた吸入暴露試験において呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述、およびDFGOT (vol.9, 1998)のウサギおよびネコを用いた経口投与試験において腎臓の損傷が区分1のガイダンス値範囲の用量で認められたとの記述から、区分1(呼吸器、腎臓)とした。また、DFGOT (vol.9, 1998)のウサギを用いた吸入暴露試験においてflexion reflex抑制が認められたとの記述、ACGI
992	2-メチル-2,4-ペンタンジオール【ヘキシレンジグリコール】	生殖細胞変異原性	分類対象外	—	—	—	in vitro試験で陰性のデータしかないため分類できない。	分類できない	—	—	—	in vitro試験で陰性のデータしかないため分類できない。
999	硫化水素ナトリウム	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2(呼吸器)区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器)の障害のおそれ 呼吸器への刺激のおそれ	HSFS(1999)には鼻、のど、肺に刺激性があり、高濃度暴露では息切れ、肺水腫を起こすとの記述から区分2(呼吸器)とした。また、HSDB (Access on Jun 2005)にはヒトへの影響として皮膚、眼、粘膜に腐食性がある(corrosive irritant to mucous membranes)との記述があることから、気道刺激性があると判断し、区分3とした。	区分2(呼吸器)区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(呼吸器)の障害のおそれ 呼吸器への刺激のおそれ	HSFS(1999)には鼻、のど、肺に刺激性があり、高濃度暴露では息切れ、肺水腫を起こすとの記述から区分2(呼吸器)とした。また、HSDB (Access on Jun 2005)にはヒトへの影響として皮膚、眼、粘膜に腐食性がある(corrosive irritant to mucous membranes)との記述があることから、気道刺激性があると判断し、区分3とした。
1000	硫化ナトリウム	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2(呼吸器)	健康有害性	危険	臓器(呼吸器)の障害のおそれ	ICSC(J)(2002)に気道に対して腐食性を示すとの記述があること。さらに皮膚および眼に対して腐食性を示すことから、呼吸器が標的臓器であると判断し、区分2とした。	区分2(呼吸器)	健康有害性	警告	臓器(呼吸器)の障害のおそれ	ICSC(J)(2002)に気道に対して腐食性を示すとの記述があること。さらに皮膚および眼に対して腐食性を示すことから、呼吸器が標的臓器であると判断し、区分2とした。
1015	アルファナフチルアミン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2(血液)	健康有害性	危険	臓器(血液)の障害のおそれ	PATTY (4th, 1994)にイヌで200mg/kg強制経口投与によりメトヘモグロビンを生成するとの記述があり、ヒトでは、具体的な症例報告等の引用はないが、Priority2の出版(HSDB(Access on Oct 2005)、ICSC(J)(2000)、HSFS(2004)、SITTIG (4th, 2002))にメトヘモグロビン血症を起こすことがあるとの記述から、血液が標的臓器と考えら	区分2(血液)	健康有害性	警告	臓器(血液)の障害のおそれ	PATTY (4th, 1994)にイヌで200mg/kg強制経口投与によりメトヘモグロビンを生成するとの記述があり、ヒトでは、具体的な症例報告等の引用はないが、Priority2の出版(HSDB(Access on Oct 2005)、ICSC(J)(2000)、HSFS(2004)、SITTIG (4th, 2002))にメトヘモグロビン血症を起こすことがあるとの記述から、血液が標的臓器と考えられ、区分2とした。
1023	3-アミノ-1-プロペン	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分2(吸入・肺)、区分3(気道刺激性)	健康有害性	警告	臓器(吸入・肺)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトに対して「蒸気を吸入すると肺水腫を起こすことがある」とする記述(SITTIG(4th, 2002)、ICSC(J)(1998))から区分2(吸入・肺)、「眼・気道を刺激する」とする記述(ICSC(J)(1998))および事故事例(PATTY(5th, 2001))から区分3(気道刺激性)とした。	区分2(吸入・肺)、区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	警告	臓器(吸入・肺)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトに対して「蒸気を吸入すると肺水腫を起こすことがある」とする記述(SITTIG(4th, 2002)、ICSC(J)(1998))から区分2(吸入・肺)、「眼・気道を刺激する」とする記述(ICSC(J)(1998))および事故事例(PATTY(5th, 2001))から区分3(気道刺激性)とした。
1025	O-エチル-S,S-ジプロピルホスホロジチオアート	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1(肝臓)、区分2(神経系)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害のおそれ	Priority 1の文書中、ガイダンス値で区分1に相当する投与量で、イヌに対し、肝毒性を示唆する所見が見られるJMPR 765(1987)ため区分1(肝臓)とした。さらに、Priority 1の文書中、ガイダンス値で区分2に相当する投与量で、ラットに対し、コリンエステラーゼ阻害に基づくと考えられる軽微な変化(嘔吐、軟便等)が見られる(JMPR 629(1983))	区分1(肝臓)、区分2(神経系)	健康有害性	危険警告	長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害 長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害のおそれ	Priority 1の文書中、ガイダンス値で区分1に相当する投与量で、イヌに対し、肝毒性を示唆する所見が見られるJMPR 765(1987)ため区分1(肝臓)とした。さらに、Priority 1の文書中、ガイダンス値で区分2に相当する投与量で、ラットに対し、コリンエステラーゼ阻害に基づくと考えられる軽微な変化(嘔吐、軟便等)が見られる(JMPR 629(1983))
1048	ジニトロフェノール	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(全身毒性、神経系、血液系、眼)区分2(腎臓、肝臓)区分3(気道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(全身毒性、神経系、血液系、眼)の障害 臓器(腎臓、肝臓)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	Priority 1文書のATSDR(1995)にヒトにおける全身毒性(細胞レベルでの代謝亢進による酸素消費増加、呼吸・脈拍の増加、体温上昇など)、神経系、血液系(白血球の減少)、眼(白内障)への影響の記載がありそれぞれPATTY(5th, 2001)、HSDB(2003)、HSFS(2003)にも同様の記載がある)、区分1(全身毒性、神経系、血液系、眼)とした。また、Priority 2文書のHSDB(2003)およびHSFS(2003)にヒトにおける腎臓、肝臓への影響および気道刺激性の記載があ	区分1(全身毒性、神経系、血液系、眼)区分2(腎臓、肝臓)区分3(気道刺激性)	健康有害性感嘆符	危険警告	臓器(全身毒性、神経系、血液系、眼)の障害 臓器(腎臓、肝臓)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	Priority 1文書のATSDR(1995)にヒトにおける全身毒性(細胞レベルでの代謝亢進による酸素消費増加、呼吸・脈拍の増加、体温上昇など)、神経系、血液系(白血球の減少)、眼(白内障)への影響の記載がありそれぞれPATTY(5th, 2001)、HSDB(2003)、HSFS(2003)にも同様の記載がある)、区分1(全身毒性、神経系、血液系、眼)とした。また、Priority 2文書のHSDB(2003)およびHSFS(2003)にヒトにおける腎臓、肝臓への影響および気道刺激性の記載があり、区

1050	四フッ化イオウ	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(吸 入:呼吸器 系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	危険	臓器(吸入:呼吸器 系)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 1において、ヒトに対して吸入により呼吸器系に影響を与えた事故事例ならびに気道刺激性がある(ACGIH(7th, 2001))ため、区分1(吸入:呼吸器系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(吸 入:呼吸器 系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(吸入:呼吸器 系)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 1において、ヒトに対して吸入により呼吸器系に影響を与えた事故事例ならびに気道刺激性がある(ACGIH(7th, 2001))ため、区分1(吸入:呼吸器系)、区分3(気道刺激性)とした。
1050	四フッ化イオウ	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(呼吸 器系)、区 分2(骨・ 歯)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(呼吸器系)の障害 長期または反復暴露による臓器(骨・歯)の障害のおそれ	ラットへの吸入実験で、ガイダンス値が区分1の範囲である投与量で呼吸器系に影響を与えるとの報告がPriority1の文書に記載されている(ACGIH(7th, 2001))。また、Priority2において、ヒトの骨・歯にフッ素沈着を引き起こすとの記述がある(ICSC(J)(2003), SITTI(4th, 2002), HSFS(2000))ことから、区分1(呼吸器系)、区分2(骨・歯)	区分1(呼吸 器系)、区 分2(骨・ 歯)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴露による臓器(呼吸器系)の障害 長期または反復暴露による臓器(骨・歯)の障害のおそれ	ラットへの吸入実験で、ガイダンス値が区分1の範囲である投与量で呼吸器系に影響を与えるとの報告がPriority1の文書に記載されている(ACGIH(7th, 2001))。また、Priority2において、ヒトの骨・歯にフッ素沈着を引き起こすとの記述がある(ICSC(J)(2003), SITTI(4th, 2002), HSFS(2000))ことから、区分1(呼吸器系)、区分2(骨・歯)と分類した。
1067	チオセミカルバジド	急性毒性(吸 入:ガス)	分類区分外	—	—	—	GHSの定義における固体。	分類対象外	—	—	—	GHSの定義における固体。
1069	硫酸ニコチン	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(中 枢神経系)、 区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	警告	臓器(中枢神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	Priority 2において、ヒトの中枢神経系に影響を与えるとの記述がある(ICSC(J)(1997), SITTI(4th, 2002))と、また、吸入により鼻およびのどを刺激するとの記述がある(SITTI(4th, 2002))ことから、区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。なお、ニコチンには、末梢自律神経系、骨格筋神経末端への刺激などがあるとされる(ニコチン(ID608, CAS: 54-11-5)を参照のこと)。	区分2(中 枢神経系)、 区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(中枢神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	Priority 2において、ヒトの中枢神経系に影響を与えるとの記述がある(ICSC(J)(1997), SITTI(4th, 2002))と、また、吸入により鼻およびのどを刺激するとの記述がある(SITTI(4th, 2002))ことから、区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。なお、ニコチンには、末梢自律神経系、骨格筋神経末端への刺激などがあるとされる(ニコチン(ID608, CAS: 54-11-5)を参照のこと)。
1070	カズサホス	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(神経 系)、区分2 (全身性)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(全身性)の障害のおそれ	ラットにおいて、区分1のガイダンス値範囲内の投与量(0.327 mg/kg)で、コリンエステラーゼの低下が見られたとの記載がある。また、区分2のガイダンス値範囲内の投与量(59.1 mg/kg)で、衰弱、自発運動量減少、後肢開脚、振戦が見られたとの記載(農業登録申請資料)がある。これらに基づき、区分1(神経系)、区分2(全身性)とした。	区分1(神経 系)、区分2 (全身性)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴露による臓器(神経系)の障害 長期または反復暴露による臓器(全身性)の障害のおそれ	ラットにおいて、区分1のガイダンス値範囲内の投与量(0.327 mg/kg)で、コリンエステラーゼの低下が見られたとの記載がある。また、区分2のガイダンス値範囲内の投与量(59.1 mg/kg)で、衰弱、自発運動量減少、後肢開脚、振戦が見られたとの記載(農業登録申請資料)がある。これらに基づき、区分1(神経系)、区分2(全身性)とした。
1072	ヒ酸1-2水塩	生殖細胞変 異原性	区分2	健康有害性	警告	生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い	マウス小核試験で陽性(RTECS, 2005)から区分2とした。なお、in vitro染色体異常試験において陽性と報告されている(RTECS, 2005)。	区分2	健康有害性	警告	遺伝性疾患のおそれの疑い	マウス小核試験で陽性(RTECS, 2005)から区分2とした。なお、in vitro染色体異常試験において陽性と報告されている(RTECS, 2005)。
1078	ヒ酸鉛	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(消化 器系、神経 系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	危険	臓器(消化器系、神経系)の障害 (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	本物質は短期暴露により胃腸管、神経系に影響を与える、気道を刺激する(ICSC, 1997)、無機鉛化合物は中枢神経系、血液、腎臓に影響を与える(ACGIH-TLV, 2005)、無機ヒ素化合物は胃腸器官の症状、心血管系および神経系機能の障害、骨髄抑制、血液系の変化、腎症をおこす(EHC 224, 2001)との記述から、区分1(消化器系、神経系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(消化 器系、神経 系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(消化器系、神経系)の障害 (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	本物質は短期暴露により胃腸管、神経系に影響を与える、気道を刺激する(ICSC, 1997)、無機鉛化合物は中枢神経系、血液、腎臓に影響を与える(ACGIH-TLV, 2005)、無機ヒ素化合物は胃腸器官の症状、心血管系および神経系機能の障害、骨髄抑制、血液系の変化、腎症をおこす(EHC 224, 2001)との記述から、区分1(消化器系、神経系)、区分3(気道刺激性)とした。
1086	亜ヒ酸カリウム	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(消化 器、心血管 系、腎臓、 中枢神経 系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	警告	臓器(消化器、心血管系、腎臓、中枢神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	本物質によるヒトの消化器、心血管系、中枢神経系、腎臓への影響(ICSC, 1999)、無機ヒ素化合物として消化器、心血管系、腎臓、肝臓および中枢神経系への影響(EHC 224, 2001; HSG 70, 1992)、また気道刺激性(HSDB, 2002; HSG 70, 1992; HSFS, 1999; ICSC, 1999)があるとして、区分2(消化器、心血管系、腎臓、中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分2(消化 器、心血管 系、腎臓、 中枢神経 系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(消化器、心血管系、腎臓、中枢神経系)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	本物質によるヒトの消化器、心血管系、中枢神経系、腎臓への影響(ICSC, 1999)、無機ヒ素化合物として消化器、心血管系、腎臓、肝臓および中枢神経系への影響(EHC 224, 2001; HSG 70, 1992)、また気道刺激性(HSDB, 2002; HSG 70, 1992; HSFS, 1999; ICSC, 1999)があるとして、区分2(消化器、心血管系、腎臓、中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。
1088	亜ヒ酸ナトリウム	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(消化 器系、心血管 系、神経系、 血液系、腎臓)、 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	危険 警告	臓器(消化器系、心血管系、神経系、血液系、腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒ素および無機ヒ素化合物に対するEHC 224(2001)のヒトに関する記述「胃腸器官の症状、心血管系および神経系機能の障害、骨髄抑制、血液系の変化、腎症」およびPIM (Poisons Information Monographs) G042 (WHO/IPCS, 1996)の同様の記述、ならびにPIM (Poisons Information Monographs) G042 (WHO/IPCS, 1996)およびHSG (Health and Safety Guides) 70 (WHO/IPCS	区分1(消化 器系、心血管 系、神経系、 血液系、腎臓)、 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(消化器系、心血管系、神経系、血液系、腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒ素および無機ヒ素化合物に対するEHC 224(2001)のヒトに関する記述「胃腸器官の症状、心血管系および神経系機能の障害、骨髄抑制、血液系の変化、腎症」およびPIM (Poisons Information Monographs) G042 (WHO/IPCS, 1996)の同様の記述、ならびにPIM (Poisons Information Monographs) G042 (WHO/IPCS, 1996)およびHSG (Health and Safety Guides) 70 (WHO/IPCS
1089	亜ヒ酸鉛	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(中 枢神経系、消 化器、心血管 系、腎臓)、 区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	警告	臓器(中枢神経系、消化器、心血管系、腎臓)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトに対し、中枢神経系、消化器、心血管系、腎臓への影響、ならびに気道刺激性を示すとの記載(ICSC, 1999; HSFS, 2001)から、区分2(中枢神経系、消化器、心血管系、腎臓)、区分3(気道刺激性)とした。	区分2(中 枢神経系、消 化器、心血管 系、腎臓)、 区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(中枢神経系、消化器、心血管系、腎臓)の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ	ヒトに対し、中枢神経系、消化器、心血管系、腎臓への影響、ならびに気道刺激性を示すとの記載(ICSC, 1999; HSFS, 2001)から、区分2(中枢神経系、消化器、心血管系、腎臓)、区分3(気道刺激性)とした。
1096	フッ化スルフリル	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中 枢神経系) 区分2(呼吸 器系)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系)の障害 臓器(呼吸器系)の障害のおそれ	Priority 1において、ヒトの「中枢神経系に影響を与える」という記述がある(ACGIH(7th, 2001))と、およびACGIH-TLV(2005)でCNSの記載があることから、区分1(中枢神経系)とした。また、Priority 2でのヒトに対する記述において、「気道を著しく刺激する」「ガスを吸入すると肺水腫を起こすことがある」との記述がある(ICSC(J)(2001), SITTI(4th, 2002), HSFS(2000))ため、区分2(呼吸器系)とした。	区分1(中 枢神経系) 区分2(呼吸 器系)	健康有害性	危険 警告	臓器(中枢神経系)の障害 臓器(呼吸器系)の障害のおそれ	Priority 1において、ヒトの「中枢神経系に影響を与える」という記述がある(ACGIH(7th, 2001))と、およびACGIH-TLV(2005)でCNSの記載があることから、区分1(中枢神経系)とした。また、Priority 2でのヒトに対する記述において、「気道を著しく刺激する」「ガスを吸入すると肺水腫を起こすことがある」との記述がある(ICSC(J)(2001), SITTI(4th, 2002), HSFS(2000))ため、区分2(呼吸器系)とした。
1127	酒石酸アンチモニルカリウム	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(肺、 心血管系)、 区分2(肝臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴露による臓器(肺、心血管系)の障害 長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害のおそれ	Priority 1文書のACGIH-TLV(2005)ではアンチモン化合物として肺および心血管系への影響があるとしており、Priority 2文書のHSDB(2005)、HSFS(2004)、SITTI(4th, 2002)にもヒトの肺および心臓への影響の記載があることから、区分1(肺、心血管系)とした。また、Priority 2文書のHSFS(2004)、SITTI(4th, 2002)にヒトの肝臓への影響の記載があり、区分2(肝臓)とした。(HSDB(2005)、RTECS(2004)のウサギおよびラットの試験でも肝臓への影響が認められ、毒性がみられた用量はガイダンス値との比	区分1(肺、 心血管系)、 区分2(肝臓)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴露による臓器(肺、心血管系)の障害 長期または反復暴露による臓器(肝臓)の障害のおそれ	Priority 1文書のACGIH-TLV(2005)ではアンチモン化合物として肺および心血管系への影響があるとしており、Priority 2文書のHSDB(2005)、HSFS(2004)、SITTI(4th, 2002)にもヒトの肺および心臓への影響の記載があることから、区分1(肺、心血管系)とした。また、Priority 2文書のHSFS(2004)、SITTI(4th, 2002)にヒトの肝臓への影響の記載があり、区分2(肝臓)とした。(HSDB(2005)、RTECS(2004)のウサギおよびラットの試験でも肝臓への影響が認められ、毒性がみられた用量はガイダンス値との比較では区分2の範囲内であった。)

1130	酢酸ウラニル(2水塩)	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(腎 臓)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	危険	臓器(腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 1において、ウラン化合物のヒトへの暴露により、 近位尿細管、集合管の壊死等の腎臓への影響が示されて いる(ACGIH(7th, 2001))ことから、区分1(腎臓)とした。ま た、粉塵は鼻やのどを刺激する(HSDB(2002))ことから、区 分3(気道刺激性)とした。	区分1(腎 臓)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 1において、ウラン化合物のヒトへの暴露により、近位 尿細管、集合管の壊死等の腎臓への影響が示されている (ACGIH(7th, 2001))ことから、区分1(腎臓)とした。また、粉塵 は鼻やのどを刺激する(HSDB(2002))ことから、区分3(気道刺 激性)とした。
1131	酢酸ウラニル	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(腎 臓)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	危険	臓器(腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 1において、ウラン化合物のヒトへの暴露により、 近位尿細管、集合管の壊死等の腎臓への影響が示されて いる(ACGIH(7th, 2001))ことから、区分1(腎臓)とした。ま た、粉塵は鼻やのどを刺激する(HSDB(2002))ことから、区 分3(気道刺激性)とした。	区分1(腎 臓)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 1において、ウラン化合物のヒトへの暴露により、近位 尿細管、集合管の壊死等の腎臓への影響が示されている (ACGIH(7th, 2001))ことから、区分1(腎臓)とした。また、粉塵 は鼻やのどを刺激する(HSDB(2002))ことから、区分3(気道刺 激性)とした。
1139	ホステアゼート	生殖毒性	区分1	—	—	—	ラットの二世世代繁殖試験で親動物に毒性のみられない投与 量(30 ppm)で、F1仔の生存率、体重の減少がみられた との記載、およびウサギの催奇形性試験で胎児に催奇形 性はなかったが、親動物に毒性がない用量で胎児の体重 の軽度の低下、小胎仔の出現頻度が軽度増加したとの 記載(農業登録申請資料)に基づき、区分1とした。	区分1	健康有害性	危険	生殖能または胎児 への悪影響のおそれ	ラットの二世世代繁殖試験で親動物に毒性のみられない投与量 (30 ppm)で、F1仔の生存率、体重の減少がみられたとの記 載、およびウサギの催奇形性試験で胎児に催奇形性はなかつ たが、親動物に毒性がない用量で胎児の体重の軽度の低 下、小胎仔の出現頻度が軽度増加したとの記載(農業登録 申請資料)に基づき、区分1とした。
1143	塩素酸カリウム	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(腎 臓、血液)、 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	警告	臓器(腎臓、血液) の障害のおそれ 呼吸器への刺激 のおそれ	Priority 2文書のヒトに対する腎臓への影響との記述 (SITTING, 4th, 2002; ICSC, 1998; HSDB, 2002)、血液への影 響との記述(ICSC, 1998; HSFS, 2004; HSDB, 2002)および 気道刺激との記述(SITTING, 4th, 2002; ICSC, 1998)から区 分2(腎臓、血液)および区分3(気道刺激性)とした。	区分2(腎 臓、血液)、 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(腎臓、血液) の障害のおそれ 呼吸器への刺激 のおそれ	Priority 2文書のヒトに対する腎臓への影響との記述(SITTING, 4th, 2002; ICSC, 1998; HSDB, 2002)、血液への影響との記述 (ICSC, 1998; HSFS, 2004; HSDB, 2002)および気道刺激との記 述(SITTING, 4th, 2002; ICSC, 1998)から区分2(腎臓、血液)およ び区分3(気道刺激性)とした。
1150	ステアリン酸カドミウム	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(腎 臓)、区分 2(血液)	健康有害性	危険	臓器(腎臓、消化器 系)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	長期または反復暴 露による臓器(腎 臓)の障害長期ま たは反復暴露によ る臓器(血液)の障 害のおそれ	区分1(腎 臓)、区分 2(血液)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(腎 臓)の障害長期ま たは反復暴露によ る臓器(血液)の障 害のおそれ	Priority 1文書のACGIH-TLV(2005)ではカドミウム化合物には 腎臓への影響があるとしており、Priority 2文書の HSDB(2005)にも本物質による腎臓への影響の記載がある ことから、区分1(腎臓)とした。また、Priority 2文書の HSDB(2005)にはヒトの血液への影響の記載があり、区分 2(血液)とした。
1163	クロム酸銀	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(腎 臓、消化器 系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性	危険	臓器(腎臓、消化器 系)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質のデータはないが、六価のクロム化合物の急性毒 性として、経口あるいは経皮吸収された場合、嘔吐、下 痢、痙攣、出血性腎炎等の記載がある(DFGOT vol.3(1992), DHP(13th, 2002))ことから、区分1(腎臓、消化 器系)とした。また、銀およびその化合物には気道刺激性 がある(PATY(5th, 2001))とされることから、区分3(気道 刺激性)とした。	区分1(腎 臓、消化器 系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(腎臓、消化器 系)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質のデータはないが、六価のクロム化合物の急性毒性と して、経口あるいは経皮吸収された場合、嘔吐、下痢、痙攣、 出血性腎炎等の記載がある(DFGOT vol.3(1992), DHP(13th, 2002))ことから、区分1(腎臓、消化器系)とした。また、銀およ びその化合物には気道刺激性がある(PATY(5th, 2001))とさ れることから、区分3(気道刺激性)とした。
1180	トルフェンピラド	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(肝 臓、脾臓、 生殖器)、 区分2(心 臓)	健康有害性	危険	臓器(腎臓、生殖器 系)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	長期または反復暴 露による臓器(肝 臓、脾臓、生殖器 系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(心 臓)の障害のおそれ	区分1(肝 臓、脾臓、 生殖器)、 区分2(心 臓)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(肝 臓、脾臓、生殖器 系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(心 臓)の障害のおそれ	ラットにおいて、区分1のガイダンス値範囲内の投与(4.78 mg/kgまたは9.33 mg/kg)で、白血球数の低値、グルコース の高値、総蛋白、アルブミンの低値、γGT、尿素窒素の高 値、トリグリセライドの低値、肝細胞肥大、脾臓線房細胞の 肥大、ハーダー腺の分泌亢進、腸間膜リンパ節の肥満細胞 の増加、顎下腺線房細胞の肥大、精囊、前立腺の小型化 、卵巣、子宮、膣の小型化、卵巣、子宮の萎縮、卵巣重量 の低値などの影響が見られたとの記載がある。また、マ ウスにおいて、区分2のガイダンス値範囲内の投与 (15.9mg/kgまたは46.2mg/kg)で、体重増加抑制、摂餌量 の低値、GOTの高値、心臓相対重量の高値、肝臓相対重 量の高値が見られたとの記載(農業登録申請資料)がある 。以上の情報に基づき、区分1(肝臓、脾臓、生殖器)、区 分2(心臓)とした。
1185	トランス-N-(6-クロロ-3- ピリジルメチル)-N'-シア ノ-N-メチルアセトアミジ	急性毒性(経 皮)	区分しない	—	—	—	ラット経皮LD50:2000 mg/kgであり、死亡例がないとの記載 (農業登録申請資料)に基づき、区分外とした。	区分外	—	—	—	ラット経皮LD50:2000 mg/kgであり、死亡例がないとの記載 (農業登録申請資料)に基づき、区分外とした。
1199	ケイフ化ナトリウム	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(心 臓) 区分3(気 道刺激性)	健康有害性	警告	臓器(心臓)の障害 のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 2文書のICSC(1994)において「カルシウム代謝に影 響を与え、心臓障害を生ずる」との記述から区分2(心臓) とした。また、Priority 1文書のACGIH-TLV(2005)ではフッ 化物には気道刺激があるとしていること、加えてpriority 2 文書のICSC(1994)において「気道を刺激する」との記述か ら、区分3(気道刺激性)とした。	区分2(心 臓) 区分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(心臓)の障害 のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 2文書のICSC(1994)において「カルシウム代謝に影 響を与え、心臓障害を生ずる」との記述から区分2(心臓)とし た。また、Priority 1文書のACGIH-TLV(2005)ではフッ化物に は気道刺激があるとしていること、加えてpriority 2文書の ICSC(1994)において「気道を刺激する」との記述から、区分3 (気道刺激性)とした。
1204	ケイフ化鉛	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中 枢神経系、 血液、腎 臓)、 区分3(気 道刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系、 血液、腎臓)の障 害(気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質のデータはないが、Priority 1文書のCERIハザード データ集 2001-9(2001)には無機鉛化合物のヒトへの影響 として「急性影響及び慢性影響はほぼ同様の症状が認め られている」との記載があり、ACGIH-TLV(2005)では無機 鉛化合物には中枢神経系、血液、腎臓への影響があると していることから、区分1(中枢神経系、血液、腎臓)とし た。また、ACGIH-TLV(2005)ではフッ化物には気道刺激性 があるとしており、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(中 枢神経系、 血液、腎 臓)、 区分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系、 血液、腎臓)の障 害(気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質のデータはないが、Priority 1文書のCERIハザードデ ータ集 2001-9(2001)には無機鉛化合物のヒトへの影響として「急 性影響及び慢性影響はほぼ同様の症状が認められている」と の記載があり、ACGIH-TLV(2005)では無機鉛化合物には中 枢神経系、血液、腎臓への影響があるとしていることから、区 分1(中枢神経系、血液、腎臓)とした。また、ACGIH-TLV(2005) ではフッ化物には気道刺激性があるとしており、区分3(気道 刺激性)とした。
1206	酢酸タリウム	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神経 系)、区分2 (毛(脱毛 症))	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障 害 臓器(毛(脱毛症)) の障害のおそれ	Priority 1(PATY(5th, 2001))において、症例数は少ないもの の末梢神経障害を引き起こすとの記述があるため区分1(神 経系)とした。また、ラットに対して経皮吸収の結果脱毛 毛が起ることの記述(ACGIH(7th, 2001))があるが、ガイ ダンス値に照らし合わせるできないため、区分2(毛	区分1(神経 系)、区分2 (毛(脱毛 症))	健康有害性	危険 警告	臓器(神経系)の障 害 臓器(毛(脱毛症)) の障害のおそれ	Priority 1(PATY(5th, 2001))において、症例数は少ないもの の末梢神経障害を引き起こすとの記述があるため区分1(神 経系)とした。また、ラットに対して経皮吸収の結果脱毛毛 が起ることの記述(ACGIH(7th, 2001))があるが、ガイ ダンス値に照らし合わせるできないため、区分2(毛(脱毛症))とした。

1206	酢酸タリウム	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(神 経系)、区 分2(毛(脱 毛症))	健康有害性 危険	長期または反復暴 露による臓器(神 経系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(毛 (脱毛症)の障害の おそれ	Priority 1(PATY(5th, 2001))の文書中、症例数は少ないもの のヒトに対して神経障害を起こしたという記述があるため、 区分1(神経系)とした。またPriority 1(PATY(5th, 2001)、 IRIS(1990))の文書中、区分2への分類を助けるガイ ダンス値の範囲で、ラットに対し脱毛の症状が見られるた め、区分2(毛(脱毛症))とした。	区分1(神 経系)、区 分2(毛(脱 毛症))	健康有害性 危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(神 経系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(毛 (脱毛症)の障害の おそれ	Priority 1(PATY(5th, 2001))の文書中、症例数は少ないもの のヒトに対して神経障害を起こしたという記述があるため、 区分1(神経系)とした。またPriority 1(PATY(5th, 2001)、 IRIS(1990))の文書中、区分2への分類を助けるガイダンス値 の範囲で、ラットに対し脱毛の症状が見られるため、区分2(毛 (脱毛症))とした。
1213	イソプロピロニトリロ	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(肝 臓)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 警告	臓器(肝臓)の障害 のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	ガイダンス値で区分1に該当する量をラットに終口投与した 場合、肝臓に影響があるとの記述が見られる(HSDB(2003))が、 Priority 2文書のデータであり、区分1に 分類するための判定基準に適合しないことから、技術上の 指針に従い区分2(肝臓)とした。また、ヒトに対して、吸入 により喉を刺激する(HSDB(2003)、HSFS(2000))ことから、 区分3(気道刺激性)とした。なお、Priority 2の文書中、本 物質がヒトの心臓に影響を与えたとの記述がみられる ラットにおいて、ガイダンス値で区分1に相当する投与量 で、異常な痙攣、筋肉細動、運動失調、振せん、四肢麻痺 等、神経系への影響が見られている(JMPR(2002))こと、なら びにヒトの神経系に影響を与える、気道を軽度刺激する との記述がある(ICSC(2004))ことから、区分1(神経 系)、区分3(気道刺激性)とした。なお、フェンバレート (ID269, CAS: 51630-58-1)も参照のこと。	区分2(肝 臓)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	臓器(肝臓)の障害 のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	ガイダンス値で区分1に該当する量をラットに終口投与した場 合、肝臓に影響があるとの記述が見られる(HSDB(2003))が、 Priority 2文書のデータであり、区分1に分類するための判定 基準に適合しないことから、技術上の指針に従い区分2(肝 臓)とした。また、ヒトに対して、吸入により喉を刺激する (HSDB(2003)、HSFS(2000))ことから、区分3(気道刺激性)と した。なお、Priority 2の文書中、本物質がヒトの心臓に影響を 与えたとの記述がみられる(SITTI(4th, 2001))が、 ラットにおいて、ガイダンス値で区分1に相当する投与量で、 異常な痙攣、筋肉細動、運動失調、振せん、四肢麻痺等、神 経系への影響が見られている(JMPR(2002))こと、ならびにヒト の神経系に影響を与える、気道を軽度刺激するとの記述が ある(ICSC(2004))ことから、区分1(神経系)、区分3(気道刺 激性)とした。なお、フェンバレート(ID269, CAS: 51630-58- 1)も参照のこと。
1218	エスフェンバレート	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神 経系)、区 分3(気道 刺激性)	健康有害性 危険	臓器(神経系)の障 害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	臓器(神経系)の障 害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	区分1(神 経系)、区 分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	臓器(神経系)の障 害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 2の文書中、ヒトへの暴露の結果、錯乱、頭痛、吐 き気、嘔吐等の影響を与えるとの記述がある(ICSC(J)(1999)、 SITTI(4th, 2002)、HSFS(2000))こと、ラット およびマウスへの投与により(投与経路、投与量不明)、中 枢神経系の抑制に由来する症状(昏睡、四肢痙攣等)が見 られる(HSDB(2003))ことから区分2(中枢神経系)とした。 さらに、気道を刺激する(ICSC(J)(1999)、HSFS(2000))こ とから、区分3(気道刺激性)とした。
1221	ベンゾニトリル	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(中 枢神経系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 警告	臓器(中枢神経系) の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 2の文書中、ヒトへの暴露の結果、錯乱、頭痛、吐 き気、嘔吐等の影響を与えるとの記述がある(ICSC(J)(1999)、 SITTI(4th, 2002)、HSFS(2000))こと、ラット およびマウスへの投与により(投与経路、投与量不明)、中 枢神経系の抑制に由来する症状(昏睡、四肢痙攣等)が見 られる(HSDB(2003))ことから区分2(中枢神経系)とした。 さらに、気道を刺激する(ICSC(J)(1999)、HSFS(2000))こ とから、区分3(気道刺激性)とした。	区分2(中 枢神経系)、区分3 (気道刺激 性)	健康有害性 感嘆符	臓器(中枢神経系) の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 2の文書中、ヒトへの暴露の結果、錯乱、頭痛、吐 き気、嘔吐等の影響を与えるとの記述がある(ICSC(J)(1999)、 SITTI(4th, 2002)、HSFS(2000))こと、ラットおよびマウスへの 投与により(投与経路、投与量不明)、中枢神経系の抑制に由 来する症状(昏睡、四肢痙攣等)が見られる(HSDB(2003))こ とから区分2(中枢神経系)とした。さらに、気道を刺激する (ICSC(J)(1999)、HSFS(2000))ことから、区分3(気道刺激性)と した。
1231	ジクロロ酢酸	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(神 経系)、区 分2(肝臓、 腎臓、精 巣)	健康有害性 危険	長期または反復暴 露による臓器(神 経系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(肝 臓、腎臓、精巣) の障害のおそれ	Priority 1の文書中、本物質のヒトへの投与の結果、神経 系に影響が見られた(鎮静作用、末梢神経障害)との記述 があること(IARC84(2004)、IRIS(2003))、また、マウスおよ びラットへの投与で、ガイダンス値で区分2に分類される投 与量において、肝臓大/肝腫脹等、腎症、精巣萎縮等が見 られた(ACGIH(7th, 2005)、IARC84(2004)、IRIS(2003)、 HSDB(2003))ことから、区分1(神経系)、区分2(肝臓、腎 臓、精巣)とした。	区分1(神 経系)、区 分2(肝臓、 腎臓、精 巣)	健康有害性 危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(神 経系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(肝 臓、腎臓、精巣) の障害のおそれ	Priority 1の文書中、本物質のヒトへの投与の結果、神経系に 影響が見られた(鎮静作用、末梢神経障害)との記述があるこ と(IARC84(2004)、IRIS(2003))、また、マウスおよびラットへの 投与で、ガイダンス値で区分2に分類される投与量において、 肝臓大/肝腫脹等、腎症、精巣萎縮等が見られた(ACGIH(7th, 2005)、IARC84(2004)、IRIS(2003)、HSDB(2003))ことから、区分 1(神経系)、区分2(肝臓、腎臓、精巣)とした。
1250	ジメチルフタリルイミドメ チルジチオホスフェイト	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(神 経系)、区分2 (肝臓)	健康有害性 危険	長期または反復暴 露による臓器(神 経系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(肝 臓)の障害のおそれ	Priority 1(JMPR 883(1994))において、ヒト(本物質の噴霧作 業従事者)に対して、可逆的ではあるが、神経筋機能の 低下および運動終板の微細構造の異常が認められる。また、 Priority 1(JMPR 883(1994))におけるラットの実験におい て、ガイダンス値の区分2の範囲内で肝臓への影響が 見られることから、区分1(神経系)、区分2(肝臓)とした。	区分1(神 経系)、区分2 (肝臓)	健康有害性 危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(神 経系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(肝 臓)の障害のおそれ	Priority 1(JMPR 883(1994))において、ヒト(本物質の噴霧作 業従事者)に対して、可逆的ではあるが、神経筋機能の低下お よび運動終板の微細構造の異常が認められる。また、Priority 1(JMPR 883(1994))におけるラットの実験において、ガイダンス 値の区分2の範囲内で肝臓への影響が見られることから、区 分1(神経系)、区分2(肝臓)とした。
1260	シュウ酸トリウム	発がん性	区分1	—	—	本物質のデータはないが、同じトリウム化合物である酸化 トリウムはIARC 78(2001)ではGroup 1、NTP RoC(11th, 2005)ではKに分類されている(いずれも区分1相当)、放射 性物質であることを考慮して、本物質も区分1とした。	区分1	健康有害性 危険	発がんのおそれ	本物質のデータはないが、同じトリウム化合物である酸化ト リウムはIARC 78(2001)ではGroup 1、NTP RoC(11th, 2005)では Kに分類されている(いずれも区分1相当)、放射性物質である ことを考慮して、本物質も区分1とした。
1269	水酸化トリフェニルズ	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中 枢神経系) 、区分3(気 道刺激性)	健康有害性 危険	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	動物への単回終口投与において、嘔吐、振戦、嗜眠などの 中枢神経系症状が区分1のガイダンス値範囲内で認めら れること(CICAD 13, 1999)、ならびにICSC(2005)におい てヒトの中枢神経系に影響を与えることがあるとしてい ることから、区分1(中枢神経系)とした。また、気道を刺激する との記述(ICSC, 2005)から、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(中 枢神経系) 、区分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	動物への単回終口投与において、嘔吐、振戦、嗜眠などの中 枢神経系症状が区分1のガイダンス値範囲内で認められるこ と(CICAD 13, 1999)、ならびにICSC(2005)においてヒトの中枢 神経系に影響を与えることがあるとしていことから、区分1 (中枢神経系)とした。また、気道を刺激するとの記述(ICSC, 2005)から、区分3(気道刺激性)とした。
1270	酢酸トリフェニルズ	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中 枢神経系) 、区分3(気 道刺激性)	健康有害性 危険	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	ヒトにおいて頭痛、吐き気など中枢神経系に対する影響が みられている(CICAD 13, 1999)こと、また、本物質自身の データはないが、有機スズ化合物として気道刺激性 (ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されて いることから、区分1(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)と した。	区分1(中 枢神経系) 、区分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	ヒトにおいて頭痛、吐き気など中枢神経系に対する影響が みられている(CICAD 13, 1999)こと、また、本物質自身のデー タはないが、有機スズ化合物として気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されていることから、区分1 (中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。
1272	フッ化トリフェニルズ	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中 枢神経系) 、区分3(気 道刺激性)	健康有害性 危険	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒト の中枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)への影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されていることから、区分1(中 枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(中 枢神経系) 、区分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒトの中 枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)へ の影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001) の可能性が記載されていることから、区分1(中枢神経系)、区 分3(気道刺激性)とした。
1273	水酸化トリブチルズ	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中 枢神経系) 、区分3(気 道刺激性)	健康有害性 危険	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒト の中枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)への影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されていることから、区分1(中 枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(中 枢神経系) 、区分3(気 道刺激性)	健康有害性 感嘆符	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒトの中 枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)へ の影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001) の可能性が記載されていることから、区分1(中枢神経系)、区 分3(気道刺激性)とした。

1274	トリブチルスズアセテート	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中枢 神経系) 区分2(消化 器系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系) の障害 臓器(消化器系) の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のお それ	区分2のガイダンス値においてマウスで消化管出血がみられ たこと(ATSDR, 2005)、また、有機スズ化合物としてヒトの 中枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)への影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されていることから、区分1(中 枢神経系)、区分2(消化器系)、区分3(気道刺激性)とし た。	区分1(中枢 神経系) 区分2(消化 器系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系) の障害 臓器(消化器系) の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそ れ	区分2のガイダンス値においてマウスで消化管出血がみられ たこと(ATSDR, 2005)、また、有機スズ化合物としてヒトの中枢 神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)への 影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の 可能性が記載されていることから、区分1(中枢神経系)、区分 2(消化器系)、区分3(気道刺激性)とした。
1277	トリブチルスズフルオリド	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中枢 神経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のお それ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒトの 中枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)への影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されていることから、区分1(中 枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(中枢 神経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそ れ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒトの中 枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)へ の影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001) の可能性が記載されていることから、区分1(中枢神経系)、区 分3(気道刺激性)とした。
1278	トリプロピルスズクロライド	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中枢 神経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のお それ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒトの 中枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)への影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されていることから、区分1(中 枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(中枢 神経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそ れ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒトの中 枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)へ の影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001) の可能性が記載されていることから、区分1(中枢神経系)、区 分3(気道刺激性)とした。
1307	トリフルオロメタンスルホ ン酸	眼に対する重 篤な損傷性／ 眼刺激性	2A-2B	—	—	—	ウサギに対し強度の眼刺激性(毒物劇物取扱の手引(時事 通信社, 2001))との記載から、区分2A-2Bとした。なお、 細区分は困難である。	区分2A-2 B	感嘆符	警告	強い眼刺激	ウサギに対し強度の眼刺激性(毒物劇物取扱の手引(時事通 信社, 2001))との記載から、区分2A-2Bとした。なお、細区 分は困難である。
1312	フッ化鉛	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中枢 神経系、 血液、腎 臓) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系、 血液、腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のお それ	Priority 1文書のCERH/ハザードデータ集 2001-9(2001)には 無機鉛化合物のヒトへの影響として「急性影響及び慢性影響 はほぼ同様の症状が認められている」との記載があり、 ACGIH-TLV(2005)では無機鉛化合物には中枢神経系、血 液、腎臓への影響があるとされていることから、区分1(中枢 神経系、血液、腎臓)とした。また、ACGIH-TLV(2005)では フッ化物には気道刺激性があるとおり、SITTIG(2002)、 HSFS(1999)にも同様の記述があることから、区分3(気道 刺激性)とした。	区分1(中 枢神経系、 血液、腎 臓) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系、 血液、腎臓)の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそ れ	Priority 1文書のCERH/ハザードデータ集 2001-9(2001)には無 機鉛化合物のヒトへの影響として「急性影響及び慢性影響は ほぼ同様の症状が認められている」との記載があり、ACGIH- TLV(2005)では無機鉛化合物には中枢神経系、血液、腎臓へ の影響があるとされていることから、区分1(中枢神経系、血液、 腎臓)とした。また、ACGIH-TLV(2005)ではフッ化物には気道 刺激性があるとおり、SITTIG(2002)、HSFS(1999)にも同様の 記述があることから、区分3(気道刺激性)とした。
1330	酸化バリウム	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(消化 器系、心 臓、筋肉) 区分2(神 経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	危険	臓器(消化器系、心 臓、筋肉)の障害 臓器(神経系)の障 害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のお それ	水溶性バリウム化合物として胃腸管刺激、筋肉障害 (ACGIH-TLV, 2005)、胃腸炎、低カリウム血症、高血圧、不 整脈、骨格筋麻痺(CICAD 33, 2001)を起こすとの記述、並 びにヒトの気道を刺激し、神経系に影響を与え、低カリウム 血症を起こし、心臓障害/筋肉障害を生じることがある (ICSC(J), 1999)との記述から、区分1(消化器系、心臓、筋 肉)、区分2(神経系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分1(消化 器系、心 臓、筋肉) 区分2(神 経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(消化器系、心 臓、筋肉)の障害 臓器(神経系)の障 害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそ れ	水溶性バリウム化合物として胃腸管刺激、筋肉障害(ACGIH- TLV, 2005)、胃腸炎、低カリウム血症、高血圧、不整脈、骨格 筋麻痺(CICAD 33, 2001)を起こすとの記述、並びにヒトの気道 を刺激し、神経系に影響を与え、低カリウム血症を起こし、心 臓障害/筋肉障害を生じることがある(ICSC(J), 1999)との記述 から、区分1(消化器系、心臓、筋肉)、区分2(神経系)、区分 3(気道刺激性)とした。
1331	酢酸バリウム	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(消化 器系、心 臓、筋肉) 区分2(神 経系)	健康有害性	危険	臓器(消化器系、心 臓、筋肉)の障害 臓器(神経系)の障 害のおそれ	水溶性バリウム化合物として胃腸管刺激、筋肉障害 (ACGIH-TLV, 2005)、胃腸炎、低カリウム血症、高血圧、不 整脈、骨格筋麻痺(CICAD 33, 2001)を起こすとの記述、並 びにヒトへの短期暴露により胃腸管や、血液中のカリウム 濃度の低下により臓器(心臓、神経系、筋肉)に影響を与 え、筋麻痺、不整脈、呼吸不全を生じることがある (ICSC(J), 2001)との記述から、区分1(消化器系、心臓、筋 肉)とした。	区分1(消化 器系、心 臓、筋肉) 区分2(神 経系)	健康有害性	危険 警告	臓器(消化器系、心 臓、筋肉)の障害 臓器(神経系)の障 害のおそれ	水溶性バリウム化合物として胃腸管刺激、筋肉障害(ACGIH- TLV, 2005)、胃腸炎、低カリウム血症、高血圧、不整脈、骨格 筋麻痺(CICAD 33, 2001)を起こすとの記述、並びにヒトへの短 期暴露により胃腸管や、血液中のカリウム濃度の低下により 臓器(心臓、神経系、筋肉)に影響を与え、筋麻痺、不整脈、 呼吸不全を生じることがある(ICSC(J), 2001)との記述から、区 分1(消化器系、心臓、筋肉)、区分2(神経系)とした。
1336	2-ヒドロキシ-4-メチルチ オ酸	急性毒性(経 皮)	分類できな い(区分5あ るいは区分 外)	—	—	—	ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値> 2000mg/kg(IUCLID, 2000)から、分類できない(区分5あ るいは区分外)とした。	分類できな い(区分5あ るいは区分 外)	—	警告	皮膚に接触すると 有害のおそれ	ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値>2000mg/kg(IUCLID, 2000)から、分類できない(区分5あるいは区分外)とした。
1337	ヒドロキシルアミン	呼吸器感作 性又は皮膚 感作性	呼吸器感作 性:データな し (皮膚感作 性)感嘆符	(呼吸器感作 性)一 (皮膚感作 性)感嘆符	(呼吸器感作 性)一 (皮膚感作 性)警告	(呼吸器感作性)一 (皮膚感作性)アレ ルギー性皮膚反 応を引き起こすお それ	呼吸器感作性:データなし。 皮膚感作性:Priority 2における「反復または長期の接触に よって、皮膚が感作されることがある」との記述(ICSC(1995), SITTIG(4th, 2002))に加え、EUIRSク警句がR43であり、ま た、ドイツMAKリストのSensitization物質(Sh)であることから 区分1とした。	呼吸器感作 性:分類で きない (皮膚感作 性)感嘆符	(呼吸器感作 性)一 (皮膚感作 性)警告	(呼吸器感作性)一 (皮膚感作性)ア レルギー性皮膚反 応を引き起こすお それ	呼吸器感作性:データなし。 皮膚感作性:Priority 2における「反復または長期の接触に よって、皮膚が感作されることがある」との記述(ICSC(1995), SITTIG(4th, 2002))に加え、EUIRSク警句がR43であり、ま た、ドイツMAKリストのSensitization物質(Sh)であることから区 分1とした。	
1337	ヒドロキシルアミン	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(血液、 神経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	警告	臓器(血液、神経系) の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のお それ	Priority 2において、ヒトに対して「血液に影響を与え、メトヘ モグロビンを生成することがある」、および「めまい、頭痛、 吐き気、嘔吐」などの症状が出ると記載されている。さら に、ヒトに対して「気道を刺激する」との記述もある(いずれ もICSC(1995), SITTIG(4th, 2002))ため、区分2(血液、神経 系)、区分3(気道刺激性)とした。	区分2(血 液、神経 系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(血液、神経系) の障害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそ れ	Priority 2において、ヒトに対して「血液に影響を与え、メトヘ モグロビンを生成することがある」、および「めまい、頭痛、 吐き気、嘔吐」などの症状が出ると記載されている。さら に、ヒトに対して「気道を刺激する」との記述もある(いずれも ICSC(1995), SITTIG(4th, 2002))ため、区分2(血液、神経系)、 区分3(気道刺激性)とした。
1341	2-(フェニルバラクロル フェニルアセチル)-1,3- インダンジオン	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(血液 系) 区分2(消化 管)	健康有害性	危険	臓器(血液系)の障 害 臓器(消化管)の障 害のおそれ	ヒトへの20mgの経口投与により血液凝固の著しい低下 (EHC 175, 1995)との記述ならびに本物質は血液凝固阻止 剤であり(PDS 62, 1985)、ヒトにおける死亡要因は胃腸管 の出血である(HSDB, 2003)ことから、区分1(血液系)、区 分2(消化管)とした。	区分1(血 液系) 区分2(消 化管)	健康有害性	危険 警告	臓器(血液系)の障 害 臓器(消化管)の障 害のおそれ	ヒトへの20mgの経口投与により血液凝固の著しい低下(EHC 175, 1995)との記述ならびに本物質は血液凝固阻止剤であり (PDS 62, 1985)、ヒトにおける死亡要因は胃腸管の出血である (HSDB, 2003)ことから、区分1(血液系)、区分2(消化管)とし た。
1342	N-ブチルピロリジン	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(神経 系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	警告	臓器(神経系)の障 害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のお それ	マウスにおいて痙攣あるいは呼吸器刺激がみられている (RTECS, 1996)ことから、区分2(神経系)、区分3(気道刺 激性)とした。	区分2(神 経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(神経系)の障 害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそ れ	マウスにおいて痙攣あるいは呼吸器刺激がみられている (RTECS, 1996)ことから、区分2(神経系)、区分3(気道刺 激性)とした。
1346	プルシン	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分2(神経 系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性	警告	臓器(神経系)の障 害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のお それ	神経系に影響を与え、痙攣や呼吸麻痺を起こす(ICSC(J), 2002)との記述から、区分2(神経系)とした。また、鼻や気 道を刺激する(HSDB, 2002)との記述から、区分3(気道刺 激性)とした。	区分2(神 経系) 区分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	警告	臓器(神経系)の障 害のおそれ (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそ れ	神経系に影響を与え、痙攣や呼吸麻痺を起こす(ICSC(J), 2002)との記述から、区分2(神経系)とした。また、鼻や気 道を刺激する(HSDB, 2002)との記述から、区分3(気道刺 激性)とした。

1348	1,2,3,4,5,6-ヘキサクロルシクロヘキササン	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神 経系)、区 分3(気道 刺激性)	健康有害性	危険	臓器(神経系)の障 害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 1および2の文書中、ヒトの中枢神経系に影響を与える(吐き気、嘔吐、筋痙攣、振せん等)との記述があること(PIM257(2001)、DFGOT vol.5(1993)、ICSC(J)(1998)、HSDB(2003))、および、鼻、のど、気道を刺激するとの記述がある(HSDB(2003)、SITTING(4th, 2002))ことから、区分1(神経系)、区分3(気道刺激性)とした。本物質の異性体のひとつであるリンデン(γ体)(ID612, CAS: 58-89-9)も参照のこと。	区分1(神 経系)、区 分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(神経系)の障 害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	Priority 1および2の文書中、ヒトの中枢神経系に影響を与える(吐き気、嘔吐、筋痙攣、振せん等)との記述があること(PIM257(2001)、DFGOT vol.5(1993)、ICSC(J)(1998)、HSDB(2003))、および、鼻、のど、気道を刺激するとの記述がある(HSDB(2003)、SITTING(4th, 2002))ことから、区分1(神経系)、区分3(気道刺激性)とした。本物質の異性体のひとつであるリンデン(γ体)(ID612, CAS: 58-89-9)も参照のこと。
1348	1,2,3,4,5,6-ヘキサクロルシクロヘキササン	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(中 枢神経 系)、区分2 (肝臓、腎 臓)	健康有害性	危険	長期または反復暴 露による臓器(中 枢神経系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(肝 臓、腎臓)の障害のおそれ	Priority 1の文書中、本物質を吸入したヒトにおいて、顔や手足の知覚障害、頭痛、眩暈に加え、吐き気、振せん等の症状が報告されている(PIM257(2001))と、ラットにおいてガイダンス値で区分1に相当する投与量で、嘔吐、振せん、後肢の麻痺等の症状が見られている(ATSDR(2005))と、また、ガイダンス値で区分2に相当する投与量で、肝臓(細胞肥大、小葉中心性の変性等)、および腎臓(糸球体の変性、尿管の壊死等)に影響が見られている(ATSDR(2005)、DFGOT vol.5(1993))ことから、区分1(中枢神経系)、区分2(肝臓、腎臓)とした。本物質の異性体のひとつであるリンデン(γ体)(ID612, CAS: 58-89-9)も参照のこと。	区分1(中 枢神経 系)、区分2 (肝臓、腎 臓)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(中 枢神経系)の障害 長期または反復暴 露による臓器(肝 臓、腎臓)の障害のおそれ	Priority 1の文書中、本物質を吸入したヒトにおいて、顔や手足の知覚障害、頭痛、眩暈に加え、吐き気、振せん等の症状が報告されている(PIM257(2001))と、ラットにおいてガイダンス値で区分1に相当する投与量で、嘔吐、振せん、後肢の麻痺等の症状が見られている(ATSDR(2005))と、また、ガイダンス値で区分2に相当する投与量で、肝臓(細胞肥大、小葉中心性の変性等)、および腎臓(糸球体の変性、尿管の壊死等)に影響が見られている(ATSDR(2005)、DFGOT vol.5(1993))ことから、区分1(中枢神経系)、区分2(肝臓、腎臓)とした。本物質の異性体のひとつであるリンデン(γ体)(ID612, CAS: 58-89-9)も参照のこと。
1349	ベタナフトール	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(腎 臓)区分2 (血液)	健康有害性	危険	長期または反復暴 露による臓器(腎 臓)の障害長期ま たは反復暴露によ る臓器(血液)の障 害のおそれ	長期または反復暴 露による臓器(腎 臓)の障害長期ま たは反復暴露によ る臓器(血液)の障 害のおそれ	区分1(腎 臓)区分2 (血液)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(腎 臓)の障害長期ま たは反復暴露によ る臓器(血液)の障 害のおそれ	ヒトにおいて腎機能の変化(SIDS, 2006; ICSC(J), 2005)、血液に影響を与える(ICSC(J), 2005)との記述から区分1(腎臓)、区分2(血液)とした。なお、ICSC(J)(2005)には「眼に影響を与え、水晶体混濁を生じることがある」との記述があるが、古いデータに基づく記述であり、Priority 1文書のSIDS(2006)では眼への影響は述べられていないため、分類には含めなかった。
1350	ペンタクロルフェノール ソーダ	標的臓器／ 全身毒性(反 復暴露)	区分1(皮 膚、中枢神 経系、肝 臓、腎臓) 区分2(中 枢神経系)	健康有害性	危険	長期または反復暴 露による臓器(皮 膚、中枢神経系、 肝臓、腎臓)の障害 長期または反復暴 露による臓器(中 枢神経系)の障害 のおそれ	Priority 1文書のEHC 71(1987)にヒトの皮膚(塩素ざ瘡)、肝臓、腎臓への影響の記載があり、区分1(皮膚、肝臓、腎臓)とした。また、Priority 2文書のICSC(J)(1997)ではこれらの臓器の他に中枢神経系にも影響があるとしており、区分2(中枢神経系)とした。	区分1(皮 膚、中枢神 経系、肝 臓、腎臓) 区分2(中 枢神経系)	健康有害性	危険 警告	長期または反復暴 露による臓器(皮 膚、中枢神経系、 肝臓、腎臓)の障害 長期または反復暴 露による臓器(中 枢神経系)の障害の おそれ	Priority 1文書のEHC 71(1987)にヒトの皮膚(塩素ざ瘡)、肝臓、腎臓への影響の記載があり、区分1(皮膚、肝臓、腎臓)とした。また、Priority 2文書のICSC(J)(1997)ではこれらの臓器の他に中枢神経系にも影響があるとしており、区分2(中枢神経系)とした。
1356	N-(2-メチル-4-クロル フェニル)-N,N-ジメチル ホルムアミン	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(神 経系、膀 胱、腎臓、心 血管系)、区分2 (血液)	健康有害性	危険	臓器(神経系、膀 胱、腎臓、心 血管系)の障害 臓器(血液)の障害 のおそれ	Priority 1の文書中、「急性中毒では疲労感、吐き気、食欲低下を起こし、重症例では、嗜眠、チアノーゼ、尿意促進、膀胱炎、心血管作用(頻脈、徐脈、ECGの変化)、昏睡およびショックを起こす。」との記述があること(EHC199(1998))に加え、本物質の輸送に用いたタンクの洗浄に携わった労働者にて、腹痛、排尿障害および血尿を伴う急性出血性膀胱炎の症状が見られたこと(EHC199(1998))から、区分1(神経系、膀胱、腎臓、心血管系)とした。また、「血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成する」との記	区分1(神 経系、膀 胱、腎臓、 心血管系)、区分2 (血液)	健康有害性	危険 警告	臓器(神経系、膀 胱、腎臓、心 血管系)の障害 臓器(血液)の障害 のおそれ	Priority 1の文書中、「急性中毒では疲労感、吐き気、食欲低下を起こし、重症例では、嗜眠、チアノーゼ、尿意促進、膀胱炎、心血管作用(頻脈、徐脈、ECGの変化)、昏睡およびショックを起こす。」との記述があること(EHC199(1998))に加え、本物質の輸送に用いたタンクの洗浄に携わった労働者にて、腹痛、排尿障害および血尿を伴う急性出血性膀胱炎の症状が見られたこと(EHC199(1998))から、区分1(神経系、膀胱、腎臓、心血管系)とした。また、「血液に影響を与え、メトヘモグロビンを生成する」との記
1358	ピラクロストロピン	急性毒性(吸 入:蒸気)	分類対象外	—	—	—	データなし。	分類できな い	—	—	—	データなし。
1370	モネンジンナトリウム	酸性固体	分類対象外	—	—	—	データなし。	分類できな い	—	—	—	データなし。
1379	ニトロセルローズ	水生環境有 害性(慢性)	区分外	—	—	—	難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L(PHYSPROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とし	区分外	—	—	—	難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 ⁶ mg/L(PHYSPROP Database, 2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。
1380	トリニトロベンゼン	呼吸器感作 性又は皮膚 感作性	呼吸器:分 類できない 皮膚:区分1	感嘆符	警告	吸入するとアレ ルギー、喘息または 皮膚困難を起こす おそれ	呼吸器:データなし 皮膚:IRIS(1997)のモルモットを用いたBuehler法による皮膚感作性試験で軽度な皮膚感作性が認められた(感作率:85%)との記述から、区分1とした。	呼吸器:分 類できない 皮膚:区分1	(呼吸器感 作性)一 (皮膚感作 性)感嘆符	(呼吸器感 作性)一 (皮膚感作 性)警告	呼吸器:データなし 皮膚:IRIS(1997)のモルモットを用いたBuehler法による皮膚感作性試験で軽度な皮膚感作性が認められた(感作率:85%)との記述から、区分1とした。	
1387	マグネシウム粉	水と接触して 可燃性/引 火性ガスを発 生する物質お よび混合物	分類できな い(区分1, 2または3 のいずれ か)	炎	危険	水に触れると自然 発火するおそれ ある可燃性/引火 性ガスを発生	データなし(純度、粒子形状、粒径によって水との反応性が異なるため、どの区分に属するかは所定の試験に依らなければ判断できない。)	分類できな い(区分1, 2または3 のいずれ か)	炎	危険 警告	水に触れると自然 発火するおそれ ある可燃性/引火 性ガスを発生 水に触れると可燃 性/引火性ガスを	データなし(純度、粒子形状、粒径によって水との反応性が異なるため、どの区分に属するかは所定の試験に依らなければ判断できない。)
1402	メタン	高圧ガス	圧縮ガスま たは深冷液 化ガス	ガスシボン ベ	警告	高圧ガス:熱すと 爆発するおそれ 深冷液化ガス:凍 傷または負傷す るおそれ	充填状態によって以下の基準で分類される。 圧縮ガス: -50℃で完全にガス状である。 深冷液化ガス:低温にして部分的に液化させたガスである。	圧縮ガスま たは深冷液 化ガス	ガスシボン ベ	警告	高圧ガス:熱すと 爆発するおそれ 深冷液化ガス:凍 傷または負傷す るおそれ	充填状態によって以下の基準で分類される。 圧縮ガス: -50℃で完全にガス状である。 深冷液化ガス:低温にして部分的に液化させたガスである。
1417	ビス(トリブチルス ズ)=2,3-ジプロモスク ナート	標的臓器／ 全身毒性(単 回暴露)	区分1(中 枢神経 系)、区分3 (気道刺 激性)	健康有害性	危険	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒトの中枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)への影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されていることから、区分1(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。 トリブチルスズオキシド(ID: 1275, CAS: 56-35-9)の分類結果も参照のこと。	区分1(中 枢神経 系)、区 分3(気道 刺激性)	健康有害性 感嘆符	危険 警告	臓器(中枢神経系) の障害 (気道刺激性)呼吸 器への刺激のおそれ	本物質自身のデータはないが、有機スズ化合物としてヒトの中枢神経系(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001; Patty 5th, 2001)への影響ならびに気道刺激性(ATSDR, 2005; ACGIH 7th, 2001)の可能性が記載されていることから、区分1(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。 トリブチルスズオキシド(ID: 1275, CAS: 56-35-9)の分類結果も参照のこと。